IJCAD

PLUS ツール・拡張ツール 使い方一覧

Ver.1.1 ：2022 年 06 月

この資料について

IJCAD には、グレードが 3 種あります。（LT、STD、PRO）

このうち、上位 2 つの STD、PRO グレードでは、「PLUS ツール」および「拡張ツール」を使用することができます。

この資料では、PLUS ツールと拡張ツールの主要な機能について、使い方を解説しています。

IJCAD の便利な機能をぜひご活用ください。

カテゴリ　目次

テキストツール 3

ブロックツール 48

寸法ツール 74

修正ツール 80

作成ツール 112

図面ツール　ほか 148

テキストツール

TEXTALIGN（文字位置合わせ）....4
ARCTEXT（弧形テキスト）....6
RTEXT（RText 作成）....8
RTEDIT（RText 編集）....11
TEXTFIT（テキスト調整）....13
TXT2MTXT（マルチテキストに合成）....15
TEXTMASK（文字マスク）....17
TCIRCLE（文字外枠）....19
TCOUNT（自動ナンバリング）....21
TORIENT（文字回転）....22
TCASE（大文字小文字切替）....24
TCOUNT（自動ナンバリング）....26
CHANGETEXT（文字変更）....28
GC_dztext（連続文字）....33
TextOnLine（線上文字）....35
EXPLODETEXT（文字アウトライン）....37
TEXTMATCH（文字マッチング）....39
MMText（拡張テキストエディタ）....41
edtxt（文字の高さ、幅係数、傾斜角度を一括変更）....43
CHGSTY（文字スタイル変更）....44
WJSR（ファイルから読み込み）....45
WZDD（文字列切断）....46

TEXTALIGN（文字位置合わせ）

拡張ツール　互換機能

できること

複数の文字を整列させることができます。

X 軸で位置合わせした例

Y 軸で位置合わせした例

操作手順

① TEXTALIGN コマンドを実行
② オブジェクトを選択
③ X 軸で合わせたい時は X、Y 軸なら Y、2 点を指定なら P と入力して ENTER キー押下
→手順 3 で指定した方法で文字の先頭が位置合わせされる。

コマンドの場所

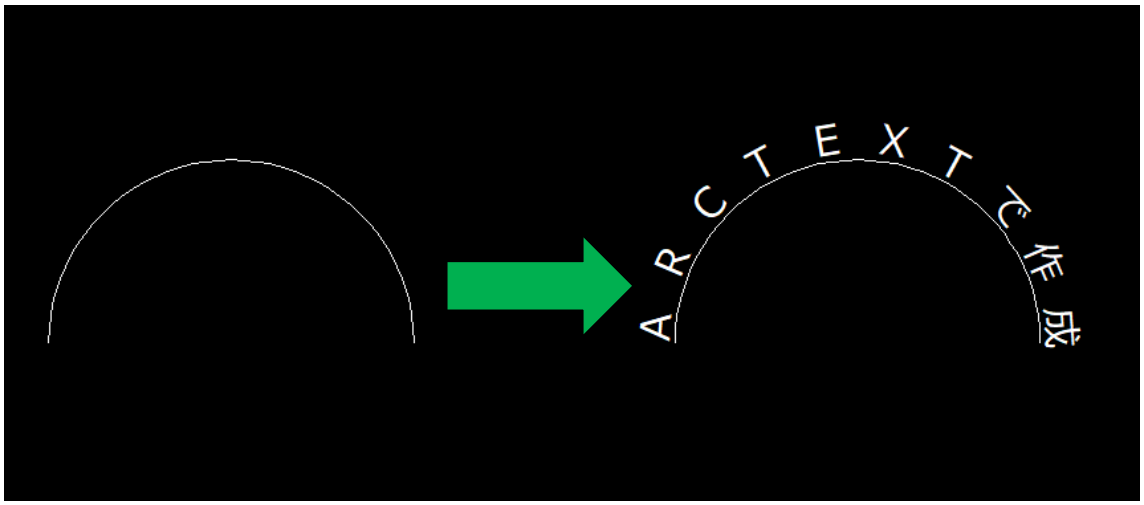
リボン ： [拡張ツール] > [文字] > [文字位置合わせ]
ツールバー ： [ET：テキスト ツール] > [文字位置合わせ]
メニューバー ： [文字] > [文字位置合わせ]
コマンド ： TEXTALIGN

ARCTEXT（弧形テキスト）

拡張ツール　互換機能

できること

円弧上にテキストを配置、もしくは円弧上に配置されたテキストを編集します。



操作手順

円弧に文字を配置する

① ARCTEXT コマンドを実行
② 円弧を選択
③ 「円弧に沿う文字列」ダイアログが表示されるので任意の文字を入力して[OK]ボタンをクリック

配置した文字を編集する

① ARCTEXT コマンドを実行
② 円弧に沿う文字列を選択
③ 「円弧に沿う文字列」ダイアログが表示されるので任意の文字を入力して[OK]ボタンをクリック

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］＞［文字］＞［弧形テキスト］

ツールバー　：［ET：テキスト ツール］＞［弧形テキスト］

メニューバー　：［文字］＞［弧形テキスト］

コマンド　：ARCTEXT

RTEXT（RTEXT 作成）

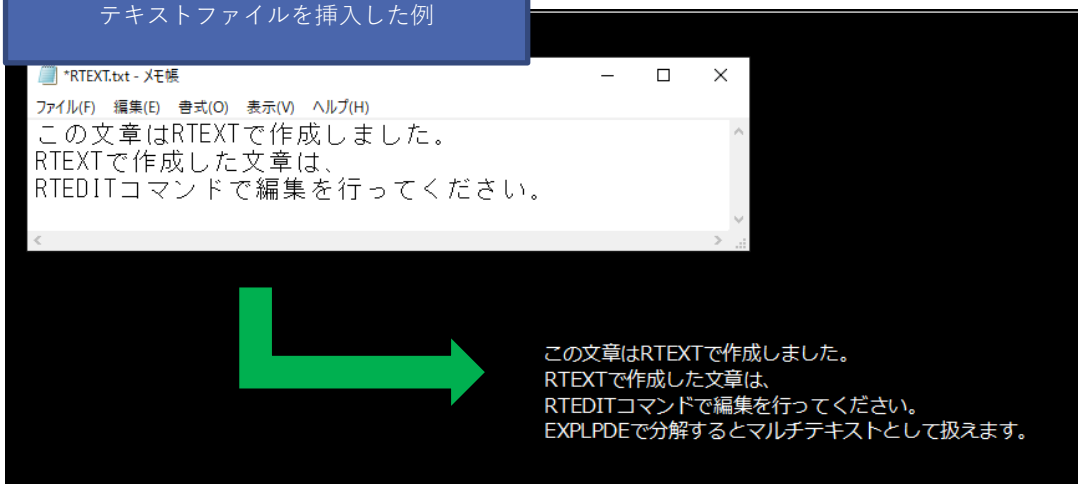
拡張ツール　互換機能

できること

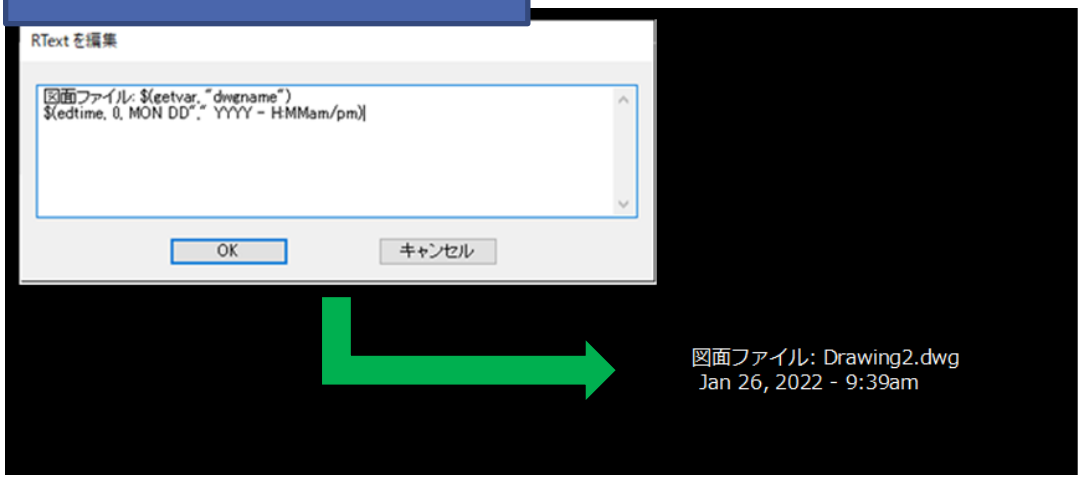
テキストファイルの内容や、DIESEL 関数の計算結果を挿入できます。

挿入した内容は挿入元のテキストファイルと同期されるため、元のテキストファイルまたは挿入先図面の RTEXT を編集することでもう片方に変更内容を反映することが可能です。

テキストファイルを挿入した例



DIESEL 関数の計算結果を挿入した例



操作手順

テキストファイルを挿入する場合

① RTEXT コマンドを実行
② F と入力して ENTER キー押下
③ 挿入したいテキストファイルを選択して[開く]
④ 挿入基点を指定（またはクリック）
⑤ 文字の高さやスタイルがこの状態でよければ ENTER キー押下して完了
文字高さを変更したい場合は H と入力し ENTER キー押下後、任意の文字高さを入力
文字スタイルを変更したい場合は S と入力し ENTER キー押下後、任意のスタイル名を入力
⑥ ENTER キー押下

DIESEL 関数の計算結果を挿入する場合

① RTEXT コマンドを実行
② D と入力して ENTER キー押下
③ 式を入力し[OK]ボタンをクリック
④ 挿入基点を指定（またはクリック）
⑤ 文字の高さやスタイルがこの状態でよければ ENTER キー押下して完了
文字高さを変更したい場合は H と入力し ENTER キー押下後、任意の文字高さを入力
文字スタイルを変更したい場合は S と入力し ENTER キー押下後、任意のスタイル名を入力
⑥ ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：[拡張ツール] > [文字] > [RText 作成]
ツールバー　：[ET：テキスト ツール] > [RText 作成]
メニューバー　：[文字] > [RText 作成]
コマンド　：RTEXT

補足

・ファイル挿入の文字スタイルは現在の文字スタイルが適用されます。
文字スタイルを変更する場合は EXPLODE で分解が必要です。
(分解するとマルチテキストになります)

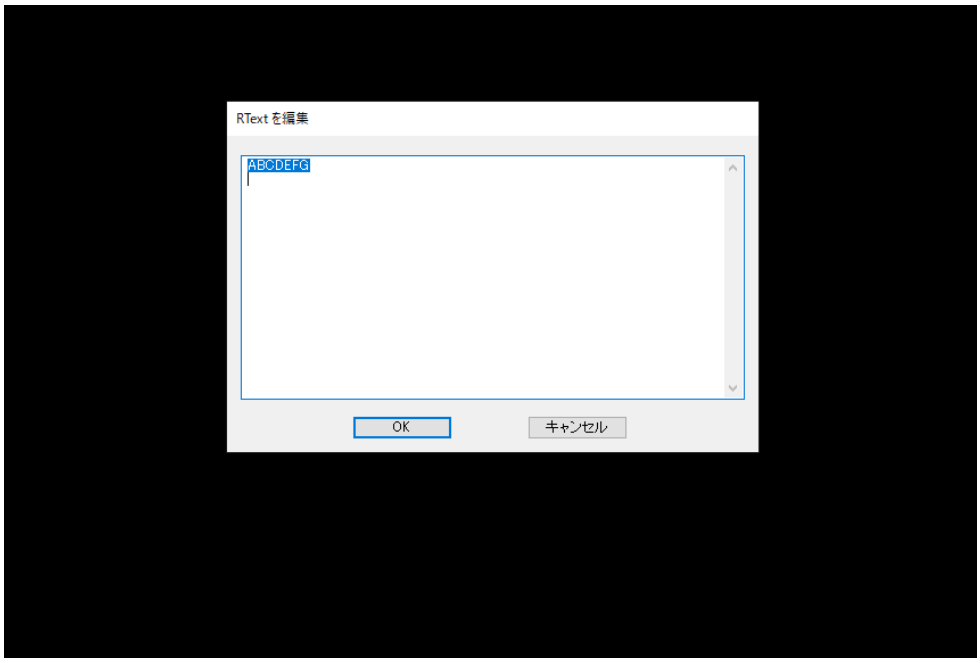
・テキストファイルを挿入した場合、元のテキストファイルは LIST[オブジェクト情報]コマンドを使用して確認することができます。

RTEDIT（RTEXT 編集）

拡張ツール　互換機能

できること

RTEXT コマンドで入力したオブジェクトを編集します。



操作手順

① RTEDIT コマンドを実行
② RText を選択します
③ 選択したオブジェクトのスタイル、高さ、回転角度を入力します
④ [編集(E)]オプションで編集すると挿入元のテキストファイルに内容が反映されます。
→RTEXT コマンドで入力したオブジェクトが設定内容に従って編集されます

コマンドの場所

リボン	：	[拡張ツール] > [文字] > [RText 編集]
ツールバー	：	[ET：テキスト ツール] > [RText 編集]
メニューバー	：	[文字] > [RText 編集]
コマンド	：	RTEDIT

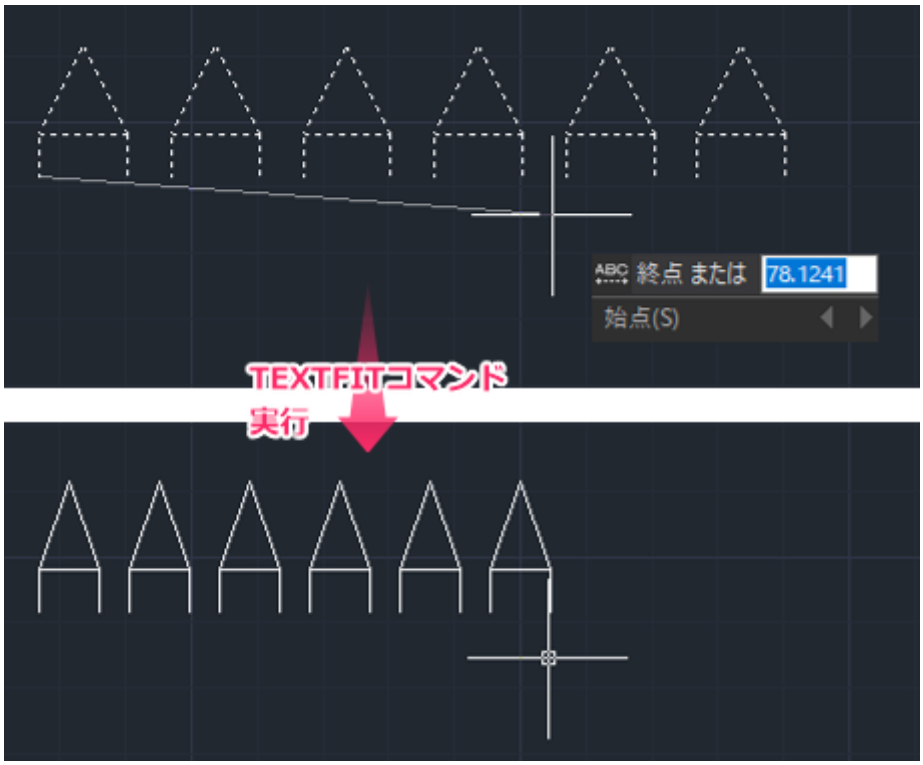
TEXTFIT（テキスト調整）

拡張ツール　互換機能

できること

文字（TEXT コマンド）で作成した文字列の幅（幅係数）を変更します。

※マルチテキスト（MTEXT コマンド）オブジェクトにはお使いいただけません。



操作手順

① TEXTFIT コマンドを実行

② 編集する文字列を選択

③ 終点（または始点）を確定

始点の設定がない場合は、文字の挿入基点が始点となります

→始点から終点までの距離の長さに文字列の幅を変更します

コマンドの場所

リボン　：[拡張ツール] > [文字] > [テキスト調整]

ツールバー　：[ET：テキスト ツール] > [テキスト調整]

メニューバー　：[文字] > [テキスト調整]

コマンド　：TEXTFIT

補足

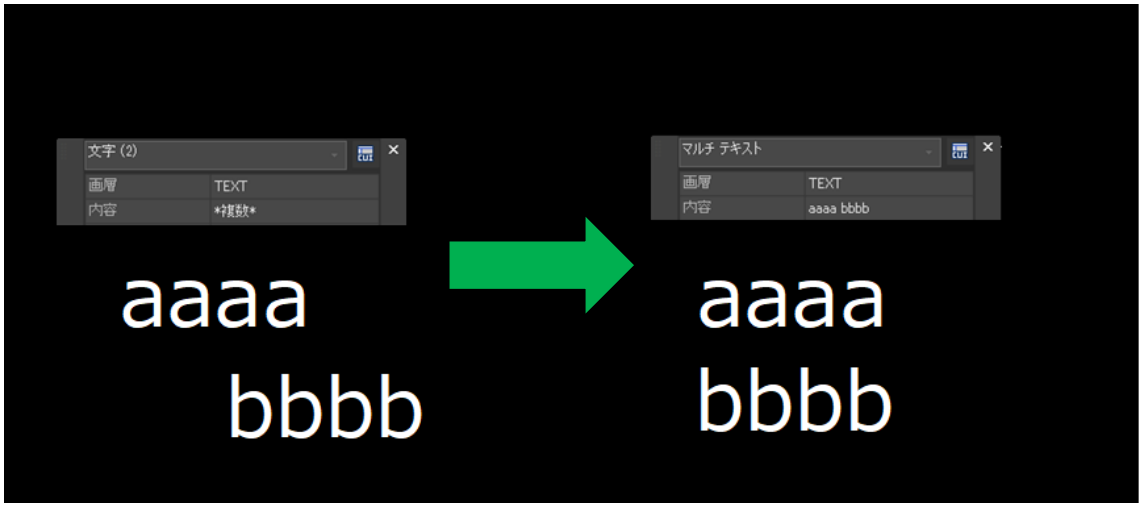
・TEXTFIT コマンドの操作で文字プロパティの幅係数の値が変更されます。

TXT2MTXT（マルチテキストに合成）

拡張ツール　互換機能

できること

文字をマルチテキストに変換します。



操作手順

① TXT2MTXT コマンドを実行
② マルチテキストに変換したい文字を選択

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］＞［文字］＞［マルチテキストに合成］
ツールバー　：［ET：グループ ツール］＞［マルチテキストに合成］
メニューバー　：［文字］＞［マルチテキストに合成］
コマンド　：TXT2MTXT

補足

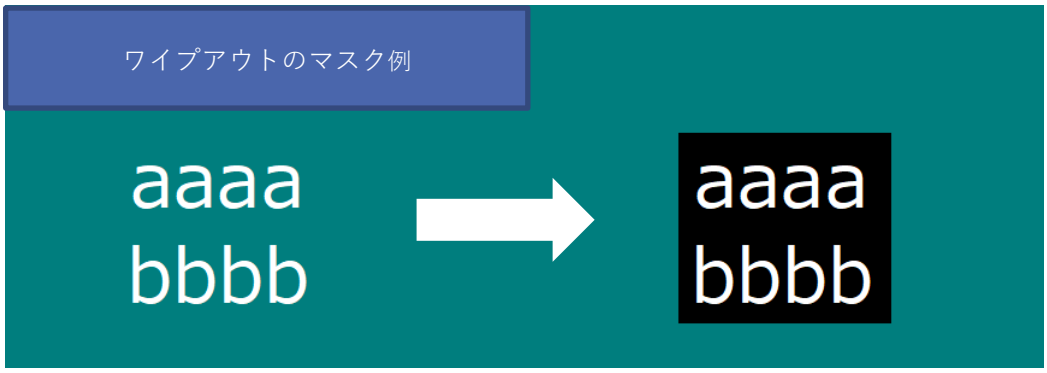
・現在、オプション「一つのマルチテキストとして結合する」が使用できません。
1 つのマルチテキストに結合せずに変換したい場合は、1 つずつ文字を選択して変換してください。

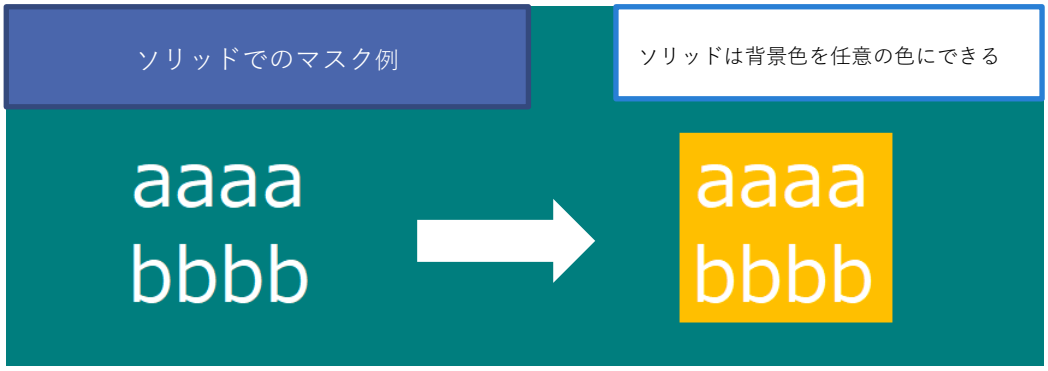
TEXTMASK（文字マスク）

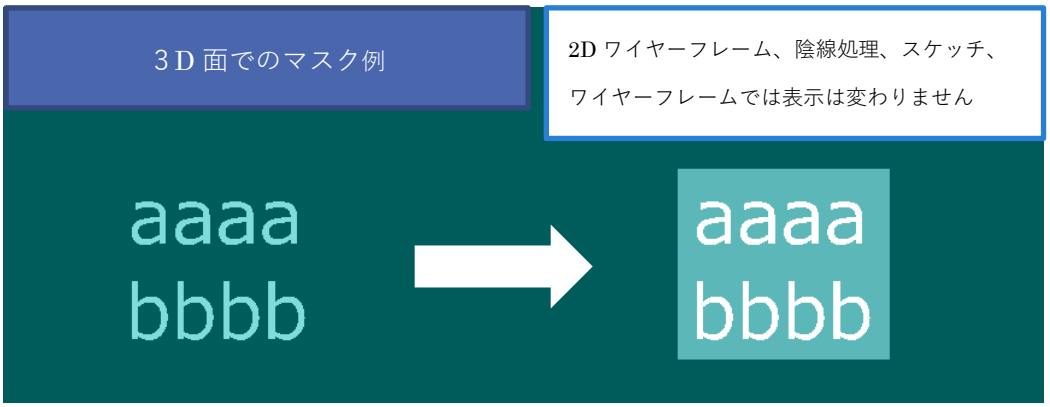
拡張ツール　互換機能

できること

選択したテキストまたはマルチテキストの後ろにマスクオブジェクトを配置します。
マスクタイプはワイプアウト、ソリッド、3D 面から選択することができます。







操作手順

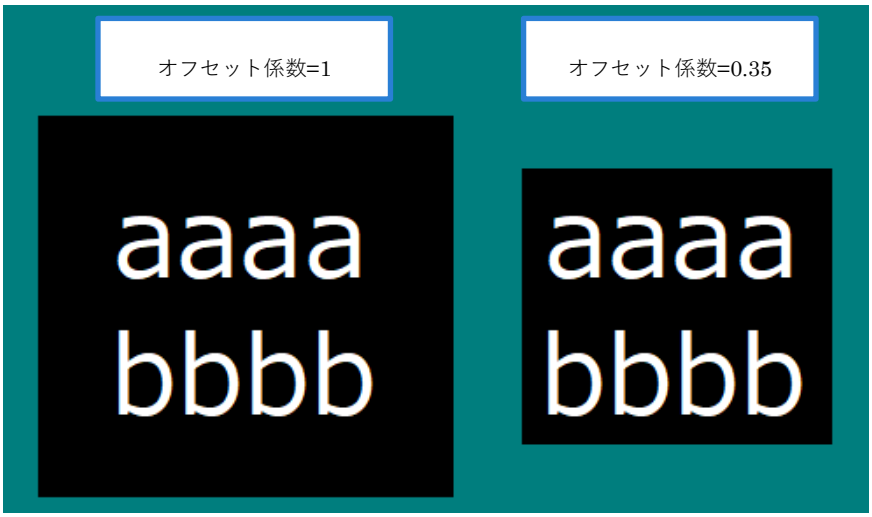
① TEXTMASK コマンドを実行
② M と入力して ENTER キー押下
③ ワイプアウトでマスクする場合は W と入力して ENTER キー押下
3D 面でマスクする場合は 3 と入力して ENTER キー押下
ソリッドでマスクする場合は S と入力して ENTER キー押下
④ マスクしたい文字またはマルチテキストをクリック
⑤ ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン ： [拡張ツール] > [文字] > [文字マスク]
ツールバー ： [ET：テキスト ツール] > [文字マスク]
メニューバー ： [文字] > [文字マスク]
コマンド ： TEXTMASK

補足

・マスクの大きさはコマンド実行>O で任意の値に変更できます。

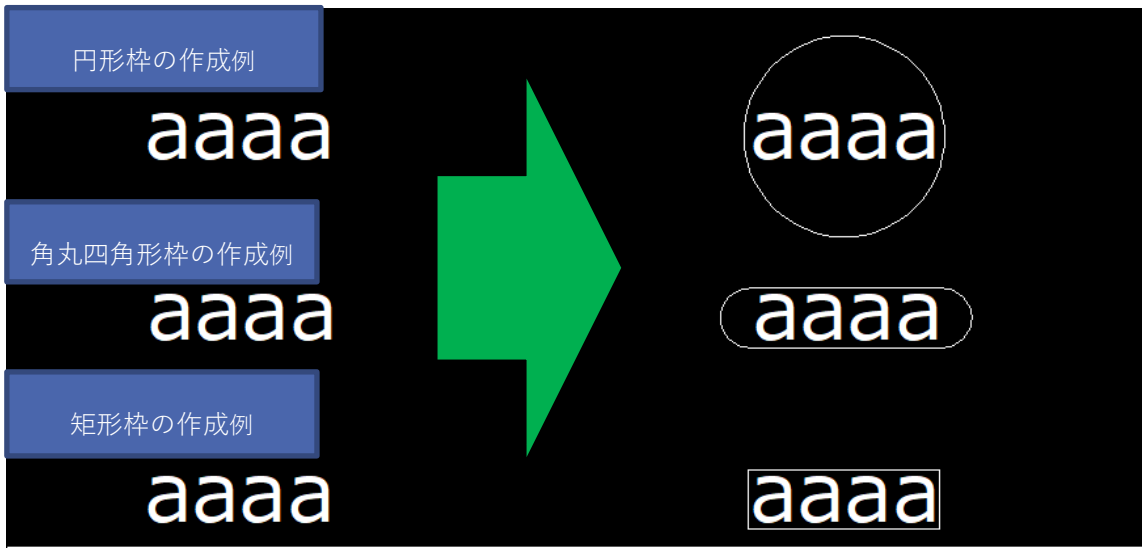


TCIRCLE（文字外枠）

拡張ツール　互換機能

できること

文字の周囲に円形、角丸四角形、矩形のいずれかの枠を挿入できます。



操作手順

① TCIRCLE コマンドを実行
② オブジェクトを選択して ENTER キー押下（複数選択も可）
③ 間隔のオフセット係数を入力します
④ 円形枠の場合は C と入力して ENTER キー押下
　角丸四角の場合は S と入力して ENTER キー押下
　矩形の場合は R と入力して ENTER キー押下
⑤ 枠のサイズを可変にする場合は V と入力して ENTER キー押下
　枠のサイズを固定にする場合は C と入力して ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］>［文字］>［文字外枠］

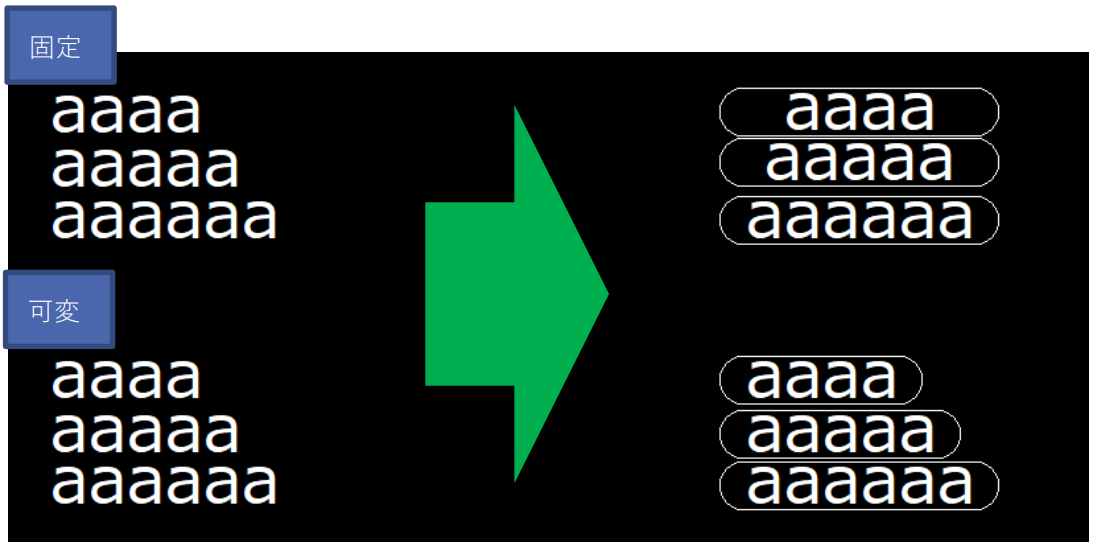
ツールバー　：［ET：テキスト　ツール］>［文字外枠］

メニューバー　：［文字］>［文字外枠］

コマンド　：TCIRCLE

補足

・枠の固定/可変は複数の文字数の異なる複数の文字に一括で枠を作成する際に差が生じます。

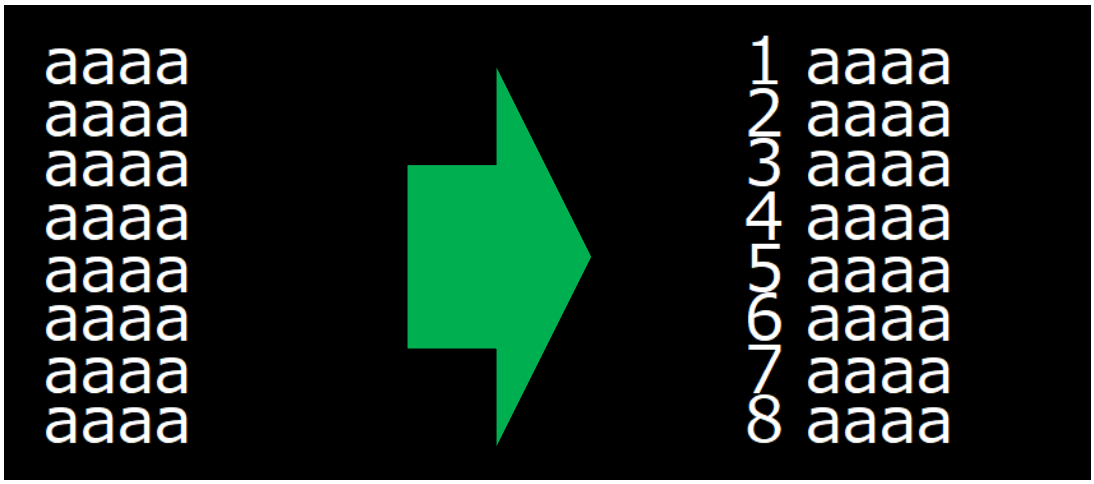


TCOUNT（自動ナンバリング）

拡張ツール　互換機能

できること

複数の文字に通し番号を入力します。



操作手順

① TCOUNT コマンドを実行
② オブジェクトを選択します
③ 選択したオブイジェクトの順番方式（テキストの位置合わせ点の X、Y 各座標の小さい順、又はテキストを選択した順）を選択します
④ 開始番号と番号の増量を指定します。
⑤ テキストに追加する番号の位置（上書き、前に置く、後ろに置く、検索置換）を決定します

コマンドの場所

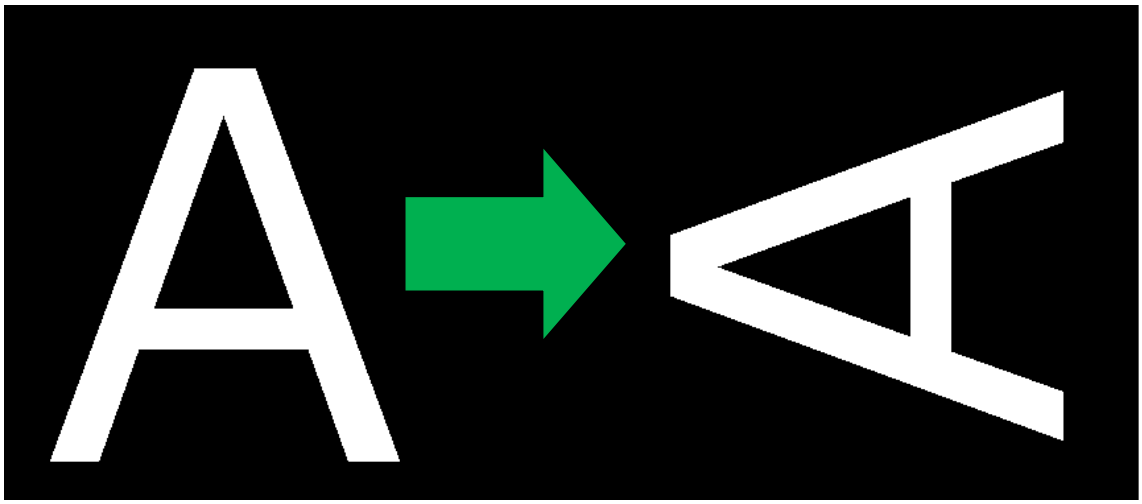
リボン　：［拡張ツール］＞［文字］＞［自動ナンバリング］
ツールバー　：［ET：テキスト　ツール］＞［自動ナンバリング］
メニューバー　：［文字］＞［自動ナンバリング］
コマンド　：TCOUNT

TORIENT（文字回転）

拡張ツール　互換機能

できること

選択した文字・マルチテキストオブジェクトを、角度を指定して回転させます。



操作手順

① TORIENT コマンドを実行
② オブジェクトを選択します
③ 回転角度を入力します
　→選択した文字オブジェクトが設定した角度に回転します

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］＞［文字］＞［文字回転］
ツールバー　：［ET：テキスト　ツール］＞［文字回転］
メニューバー　：［拡張ツール］＞［テキストツール］＞［文字回転］
コマンド　：TORIENT

補足

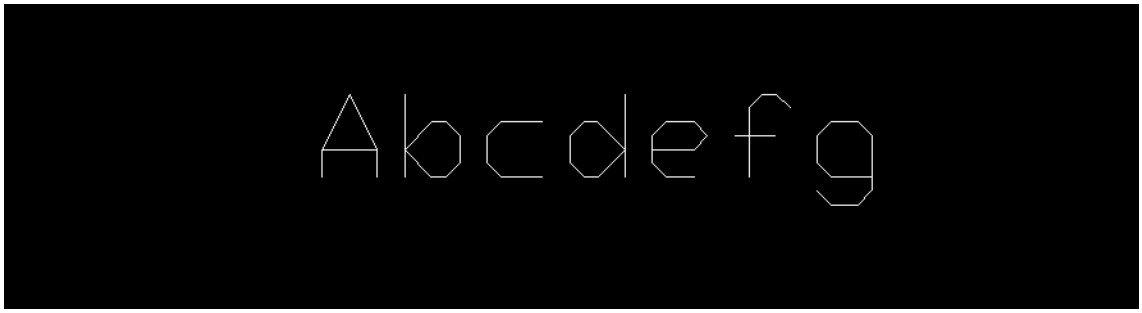
・回転の中心点となるのは文字の中心です。文字位置合わせ点を基準には回転したい場合は ROTATE(回転)を使用する必要があります。

TCASE（大文字小文字切替）

拡張ツール　互換機能

できること

入力済の文字に対し、大文字小文字を切り替えます。



操作手順

① TCASE コマンドを実行
② オブジェクトを選択
③ テキスト大文字小文字入替ダイアログ上にて
「センテンス大文字・小文字」、「小文字に変更」、「大文字に変更」、「タイトル」、
「大文字小文字切替」のいずれかを選択
→ 選択した方式で文字が大文字小文字に変更されます

コマンドの場所

リボン　：　－
ツールバー　：　－
メニューバー　：　[文字] > [大文字小文字切替]
コマンド　：　TCASE

補足

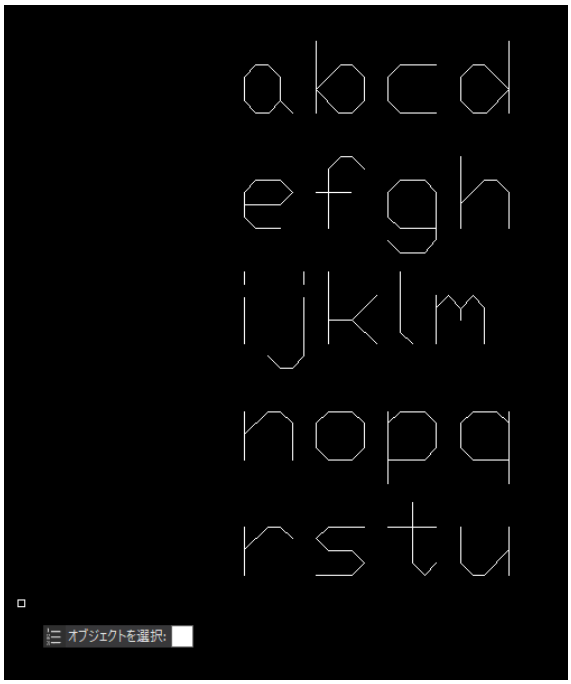
・アルファベットにのみ適用されます

TCOUNT（自動ナンバリング）

拡張ツール　互換機能

できること

複数のテキストに通し番号を入力します。



操作手順

① TCOUNT コマンドを実行
② オブジェクトを選択します
③ 開始番号と番号の増量を指定します
④ テキストに追加する番号位置を上書き、前に置く、検索置き換えから指定します
　→複数のテキストに指定した方式で通し番号を入力します

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］>［文字］>［自動ナンバリング］

ツールバー　：［ET：テキスト ツール］>［自動ナンバリング］

メニューバー　：［文字］>［自動ナンバリング］

コマンド　：TCOUNT

CHANGETEXT（文字変更）

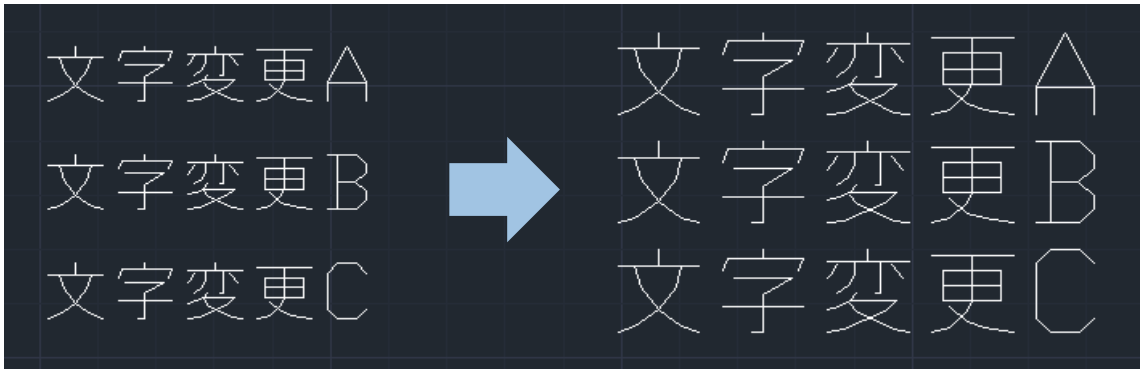
拡張ツール　独自機能

できること

文字の属性を一括、または連続して変更することができます。
※変更可能な属性：高さ/位置合わせ/位置/回転/スタイル/文字列/取消/幅

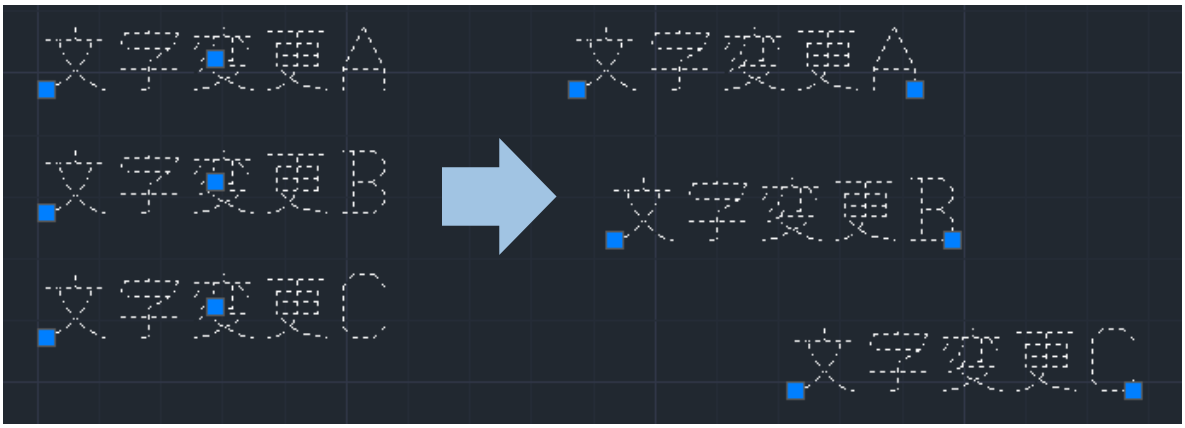
操作手順

以下に案内する操作を組み合わせながら属性を変更することができます。
文字高さを変更する場合【高さ】



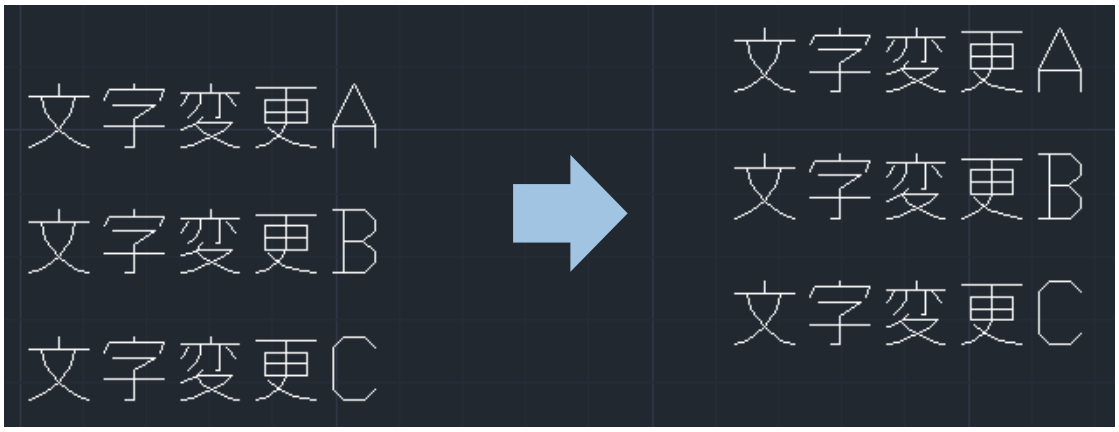
① CHANGETEXT コマンドを実行
② 属性を変更したい文字を選択(複数選択可)
③ ENTER キー押下
④ H を入力して ENTER キー押下
⑤ (選択したオブジェクト全てに適用またはオブジェクトが 1 つのみの場合は手順⑥へ進む)
選択した文字に 1 つずつ文字高さを指定する場合は I と入力して ENTER キー押下
文字高さの最大・最小・平均値を確認する場合は L と入力して ENTER キー押下
※L を入力した場合はコマンドラインに最大・最小・平均値が表示されるのみ
⑥ 文字高さを入力して ENTER キー押下

文字の基点を変更して移動する場合【位置合わせ】



① CHANGETEXT コマンドを実行
② 属性を変更したい文字を選択(複数選択可)
③ ENTER キー押下
④ J を入力して ENTER キー押下(位置合わせ)
⑤ ハイライトしている文字の基点を入力
両端揃え(A)/フィット(F)/中心(C)/左寄せ(L)/中央(M)/右寄せ(R)/左上(TL)/上中心(TC)/右上(TR)/左中央(ML)/中央(MC)/右中央(MR)/左下(BL)/下中心(BC)/右下(BR)
⑥ 位置を指定または入力
⑦ ENTER キー押下

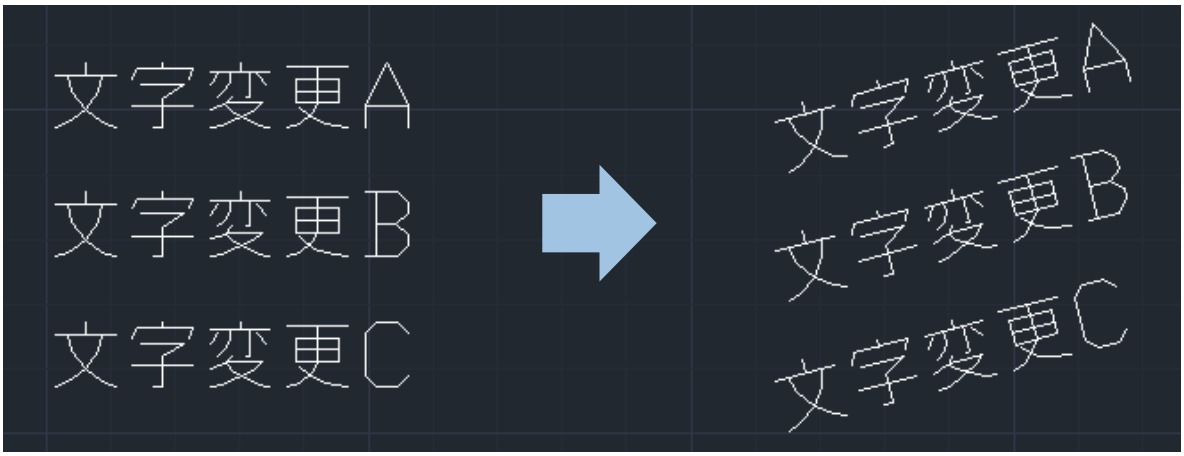
文字の位置を移動する場合【位置】



① CHANGETEXT コマンドを実行
② 属性を変更したい文字を選択(複数選択可)
③ ENTER キー押下
④ L を入力して ENTER キー押下

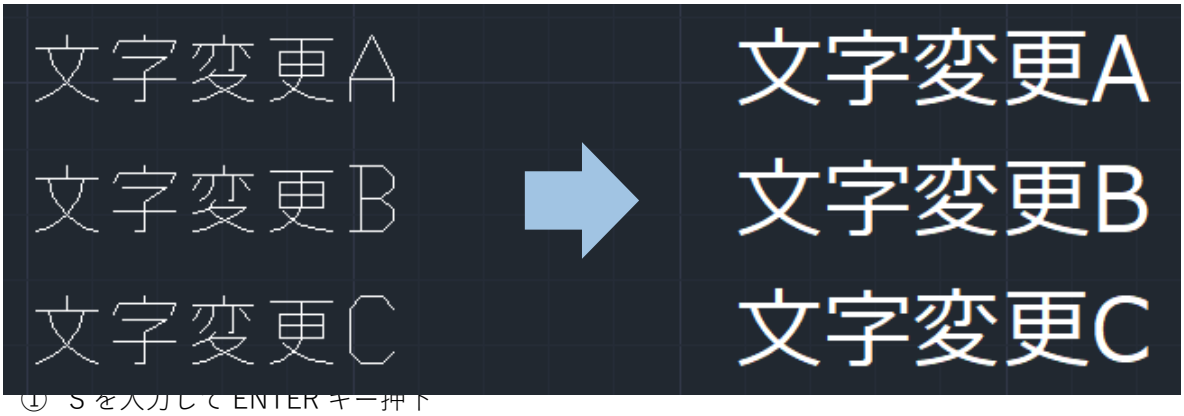
⑤ 位置を指定または入力して ENTER キー押下

文字を回転する場合【回転】



① CHANGETEXT コマンドを実行
② 属性を変更したい文字を選択(複数選択可)
③ ENTER キー押下
④ R を入力して ENTER キー押下
⑤ (選択したオブジェクト全てに適用またはオブジェクトが 1 つのみの場合は手順⑥へ進む)
選択した文字に 1 つずつ角度を指定する場合は I と入力して ENTER キー押下
角度の最大・最小・平均値を確認する場合は L と入力して ENTER キー押下
※L を入力した場合はコマンドラインに最大・最小・平均値が表示されるのみ
⑥ 角度を入力して ENTER キー押下(回転の基点は文字の基点になります)

文字のスタイルを変更する場合【スタイル】

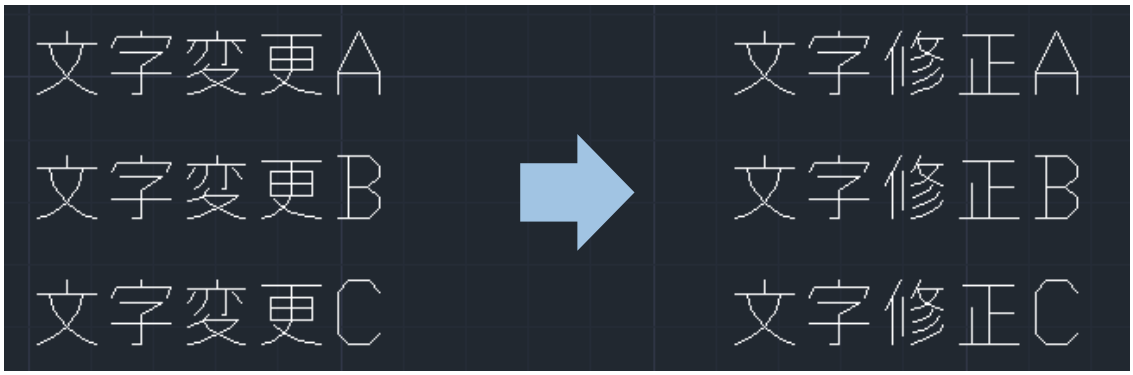


① S を入力して ENTER キー押下
② (選択したオブジェクト全てに適用またはオブジェクトが 1 つのみの場合は手順⑥へ進む)

選択した文字のスタイルを 1 つずつ変更する場合は I と入力して ENTER キー押下
選択した文字のスタイルを確認する場合は L と入力して ENTER キー押下
※L を入力した場合はコマンドラインにスタイルが表示されるのみ
選択した文字のスタイルを全て変更する場合は S と入力して ENTER キー押下
※S を入力した場合は、次の「*」をそのままにして Enter キー押下

③ 変更先の文字スタイル名を入力して ENTER キー押下

文字を置き換える場合【文字列】

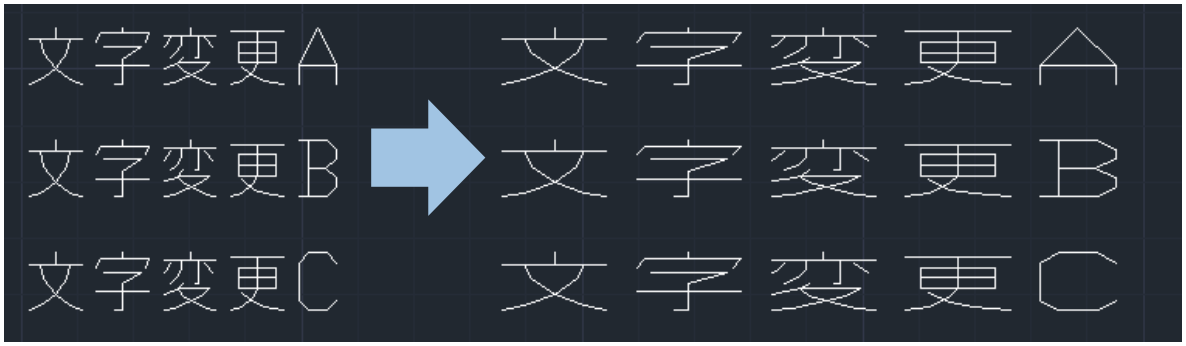


① CHANGETEXT コマンドを実行
② 属性を変更したい文字を選択(複数選択可)
③ ENTER キー押下
④ T を入力して ENTER キー押下
⑤ (選択したオブジェクト全てに適用またはオブジェクトが 1 つのみの場合は手順⑥へ進む)
文字列から特定文字の置換を 1 つずつのオブジェクトに対して行う場合は I と入力して ENTER キー押下全ての文字の書き換えを 1 つずつのオブジェクトに対して行う場合は R と入力して ENTER キー押下
※R を入力した場合は手順⑥は省略
複数選択した全ての文字の置換を一括で行う場合は G と入力して ENTER キー押下
⑥ 検索する文字列を入力して ENTER キー押下
⑦ 新しい文字列を入力して ENTER キー押下

コマンド実行中の変更を取り消す場合【取消】

① CHANGETEXT コマンド実行中に U を入力して ENTER キー押下

定義幅を変更する場合【幅】



① CHANGETEXT コマンドを実行
② 属性を変更したい文字を選択(複数選択可)
③ ENTER キー押下
④ W を入力して ENTER キー押下
⑤ (選択したオブジェクト全てに適用またはオブジェクトが 1 つのみの場合は手順⑥へ進む)
選択した文字に 1 つずつ幅係数を指定する場合は I と入力して ENTER キー押下
幅係数の最大・最小・平均値を確認する場合は L と入力して ENTER キー押下
※L を入力した場合はコマンドラインに最大・最小・平均値が表示されるのみ
⑥ 幅係数を入力して ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：[注釈] > [文字] > [文字変更]
ツール　：[ET：テキストツール] > [文字変更]
メニュー　：[文字] > [文字変更]
コマンド　：CHANGETEXT

補足

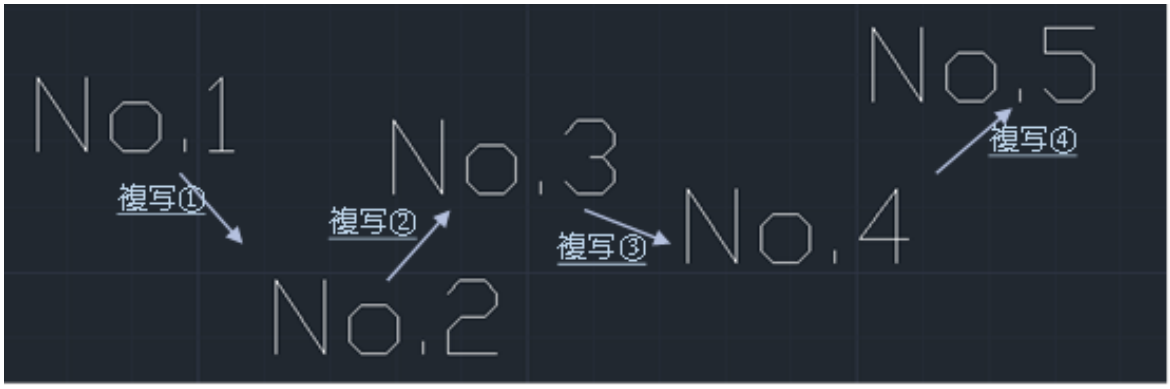
・ 文字のスタイルを変更する場合に、コマンドラインに「スタイル名を検索しますか？」と表記されてしまうのは、不具合として開発へ報告済みとなっています。

GC_DZTEXT（連続文字）

拡張ツール　独自機能

できること

対象とした数字またはアルファベットをカウントアップしながら連続で複写します。
数字またはアルファベット以外の文字列は対象になりません。
増分させることができる文字は１つの文字列につき１文字のみです。



操作手順

① GC_DZTEXT コマンドを実行
② カウントアップ対象の文字を選択
　※文字列になっている場合は、カウントアップ対象の数字またはアルファベットを選択
③ 増分ダイアログに距離と増分値を入力(距離と数量をフリー入力する場合はチェックオフにします)

④ クリックで配置　※連続で配置可能です。
⑤ ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：[注釈] > [文字] > [連続文字]
ツール　：[ET：テキスト ツール] > [連続文字]
メニュー　：[文字] > [連続文字]
コマンド　：GC_DZTEXT

補足

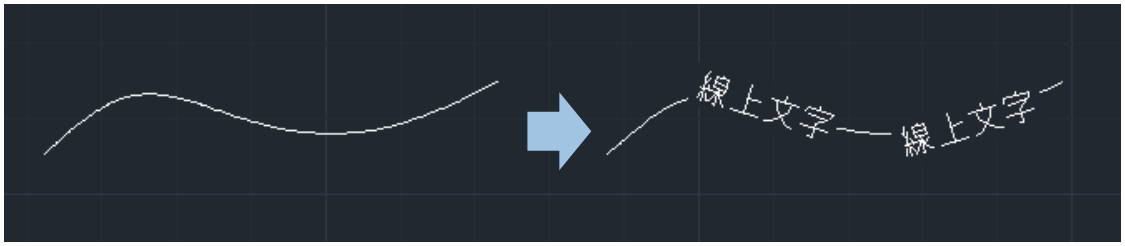
・　マルチテキストには使用できません。

TEXTONLINE（線上文字）

拡張ツール　独自機能

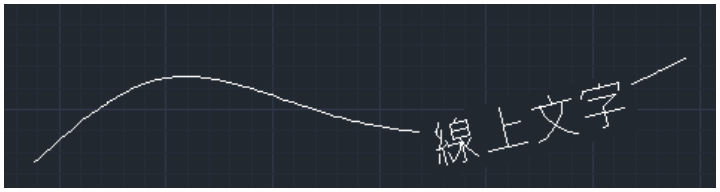
できること

線分・円弧・スプラインなどの線上に文字を作成します。



操作手順

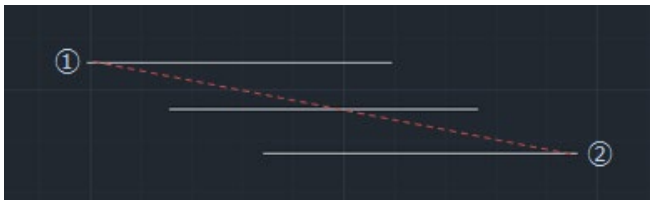
クリックした位置に線上文字を記入する場合(線に沿う)



① TEXTONLINE コマンドを実行
② X を入力して ENTER キー押下　(文字変更)
③ 線上に表示したい文字を入力して ENTER キー押下
④ T を入力して ENTER キー押下　(タイプ変更)
⑤ L を入力して ENTER キー押下　(線に沿う)
⑥ 方法を入力
　R (ランダム)　：クリックで指定した 1 点に配置します。⇒R を選択した場合は手順⑧へ
　F (等分割)　　：指定した分割数で線分を分割して配置します。
　D (メジャー)　：距離を指定してその距離分間隔を離して配置します。
　M (中点)　　：指定した線分の中心に配置します⇒M を選択した場合は手順⑧へ
⑦ F の場合は分割数、D の場合は間隔を入力
⑧ 文字を記入するオブジェクトを選択
⑨ ENTER キー押下

クリックした 2 点に交差する線の位置に線上文字を記入する場合(フェンス)

① TEXTONLINE コマンドを実行
② X を入力して ENTER キー押下 （文字変更）
③ 線上に表示したい文字を入力して ENTER キー押下
④ T を入力して ENTER キー押下 （タイプ変更）
⑤ F を入力して ENTER キー押下
⑥ 線上文字を挿入したい位置に交差する線分を作図するように 2 点を選択



⑦ ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン ： [注釈] > [文字] > [線上文字]
ツール ： [ET：テキスト ツール] > [線上文字]
メニュー ： [文字] > [線上文字]
コマンド ： TEXTONLINE

補足

・ 線上文字を削除すると、元の線が表示されます。

EXPLODETEXT（文字アウトライン）

拡張ツール　独自機能

できること

文字・マルチテキストをポリラインのアウトラインに変換する事ができます。

操作手順

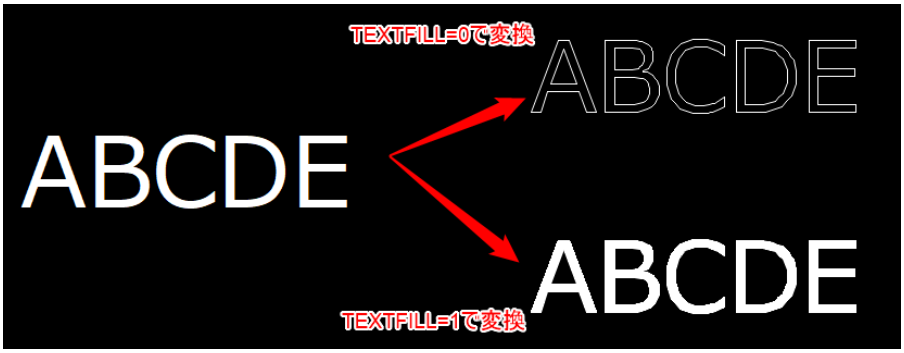
① EXPLODETEXT コマンドを実行
② アウトラインに変換したい文字またはマルチテキストを選択します
③ ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］＞［文字］＞［文字アウトライン］
ツール　：［ET：テキスト ツール］＞［文字アウトライン］
メニュー　：［文字］＞［文字アウトライン］
コマンド　：EXPLODETEXT

補足

・　システム変数「TEXTFILL」の値によりアウトライン内を塗り潰す or 中抜きを設定できます。



TEXTMATCH（文字マッチング）

拡張ツール　独自機能

できること

文字列や文字の属性をコピー＆ペーストすることができます。

操作手順

① TEXTMATCH コマンドを実行
② S を入力して ENTER キー押下
③ コピーしたい属性をチェックボックスで選択
　内容　　：文字列を対象にします。
　色　　：色を対象にします。
　高さ　　：文字高さを対象にします。
　角度　　：角度を対象にします。
　位置合わせ　：位置合わせ(基点)を対象にします。
　画層　　：画層を対象にします。
　幅係数　　：幅係数を対象にします。
　スタイル：文字スタイルを対象にします。
④ 属性コピー元の文字を選択
⑤ 属性コピー先の文字を選択
⑥ ENTER キー押下

コマンドの場所

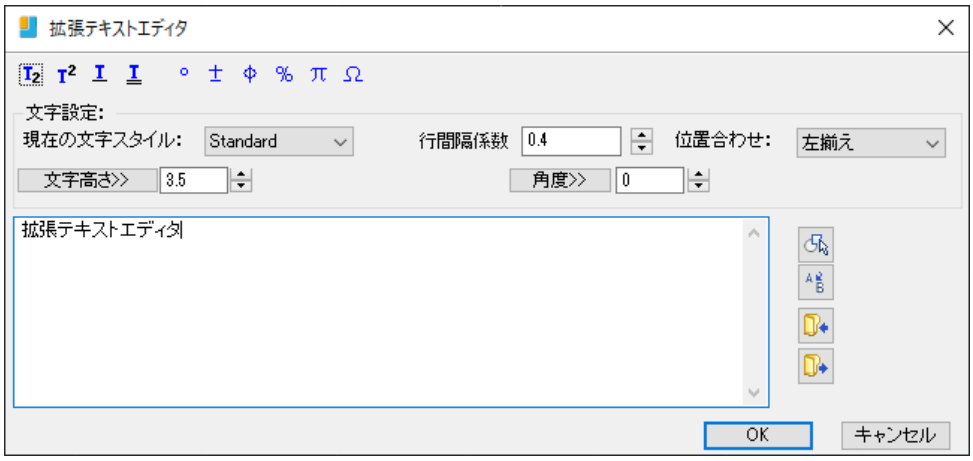
リボン　：[注釈] > [文字] > [文字マッチング]
ツール　：[ET：テキスト ツール] > [文字マッチング]
メニュー　：[文字] > [文字マッチング]
コマンド　：TEXTMATCH

MMTEXT（拡張テキストエディタ）

拡張ツール　独自機能

できること

特殊な文字や特殊記号の入力、テキストファイルの読み込み・書き出しができます。



操作手順

① MMTEXT コマンドを実行
② 拡張テキストエディタダイアログで図面に入力したい文字を設定
③ OK ボタンを押下
④ 図面上の文字を挿入したい位置でクリック

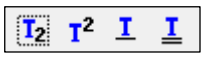
コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］＞［文字］＞［拡張テキスト エディタ］
ツール　：［ET：テキスト ツール］＞［拡張テキスト エディタ］
メニュー　：［文字］＞［拡張テキスト エディタ］
コマンド　：MMTEXT

補足

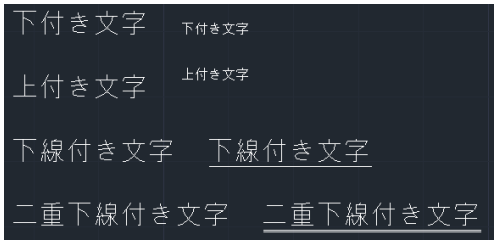
各コマンドの内容は以下の通り。

・ 装飾文字

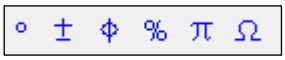


- 下付き文字：下付き文字を入力します。
- 上付き文字：上付き文字を入力します。
- 下線付き文字：下線付き文字を入力します。
- 二重下線付き文字：二重下線付き文字を入力します。

下付き文字 <L>下付き文字</L>
上付き文字 <U>上付き文字</U>
下線付き文字 <S>下線付き文字</S>
二重下線付き文字 <D>二重下線付き文字</D>



・ 特殊記号



- 角度記号：角度記号を入力します。
- 幾何公差記号：幾何公差記号を入力します。
- 直径記号：直径記号を入力します。
- パーセンテージ記号：パーセンテージ記号を入力します。
- π記号：π記号を入力します。
- Ω記号：Ω記号を入力します。

・ 文字設定

- 現在の文字スタイル：文字スタイルを設定します。
- 行間隔係数：行間隔を指定します。
- 位置合わせ：文字を配置する際の基点を設定します。
- 文字高さ：文字高さを設定します。
- 角度：角度を設定します。

・ 文字操作

- 文字を選択：選択した文字の文字列を取得します（現在この機能は開発中です）。
- 検索/置換文字：文字入力エリアの文字列を検索/置換します。

・ ファイル操作

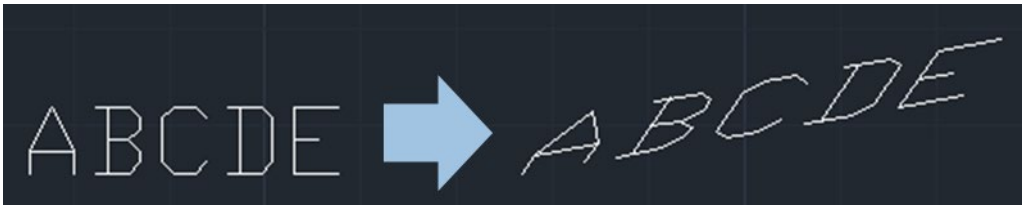
- ファイル読み込み：txt 形式で保存されたファイルを読み込みます。
- ファイル書き出し：入力した文字列を txt ファイルとして書き出します。

EDTXT（文字の高さ、幅係数、傾斜角度を一括変更）

拡張ツール　独自機能

できること

選択した文字の文字高さ、幅係数、傾斜角度、回転角度を一括で変更することができます。



操作手順

① EDTXT コマンドを実行
② 設定を変更したい文字を選択
③ ENTER キー押下
④ 文字高さを入力し、ENTER キー押下
⑤ 幅と高さの比率(幅係数)を入力し、ENTER キー押下
⑥ 傾斜角度を入力し、ENTER キー押下
⑦ 回転角度を入力し、ENTER キー押下

コマンドの場所

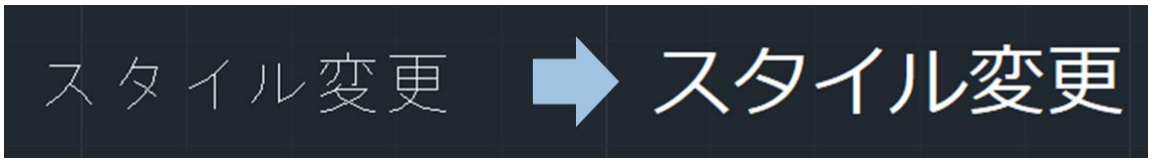
リボン　：[拡張ツール] > [IJCAD ツール] > [文字の高さ、幅係数、傾斜角度を一括変更]
ツール　：[ET：IJCAD ツール] > [文字一括編集]
メニュー　：[拡張ツール] > [IJCAD ツール] > [文字編集] > [オプション]
コマンド　：EDTXT

CHGSTY（文字スタイル変更）

拡張ツール　独自機能

できること

図面の文字を現在の文字スタイルに連続で変更します。



操作手順

① 事前に変更後の文字スタイルを現在の文字スタイルに設定
② CHGSTY コマンドを実行
③ 変更対象の文字オブジェクトをクリック(連続選択可)
④ ENTER キー押下

コマンドの場所

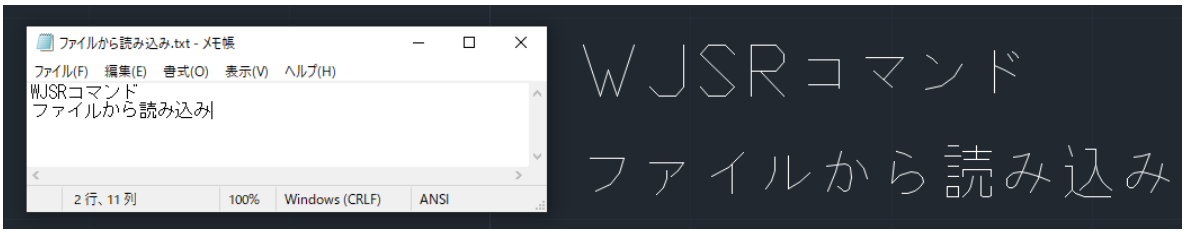
リボン　：　-
ツール　：　-
メニュー　：　[拡張ツール] > [テキストツール] > [文字スタイル変更]
コマンド　：　CHGSTY

WJSR（ファイルから読み込み）

拡張ツール　独自機能

できること

テキストファイル(*.txt)に記載されている文字を、文字オブジェクトとして挿入することができます。



操作手順

① WJSR コマンドを実行
② 挿入するテキストファイルを選択して[開く]をクリック
③ 挿入基点を指定(またはクリック)
④ 文字高さを指定して ENTER キー押下
⑤ 行間隔を指定して ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：-
ツール　：-
メニュー　：-
コマンド　：WJSR

補足

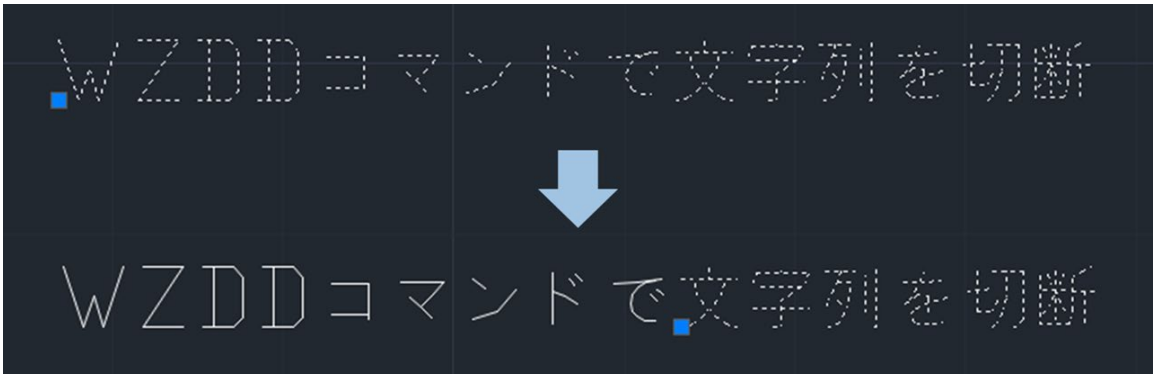
・文字化けした場合、テキストファイルの文字コードを ANSI にして保存します。

WZDD（文字列切断）

拡張ツール　独自機能

できること

文字列を、任意の位置で切断することができます。



操作手順

① WZDD コマンドを実行
② 切断対象の文字列を選択
③ 切断する位置を選択
④ ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：　－
ツール　：　－
メニュー　：　－
コマンド　：　WZDD

補足

・　対象となるのは TEXT コマンドで作成した文字列のみです。マルチテキストや属性定義文字は切断できません。

・　手順 3 で選択した文字の位置で分割されます。例えば「WZDD コマンドで文字列を切断」に対し、「で」の位置をクリックすると「WZDD コマンドで」と「文字列を切断」に分割されます。

ブロックツール

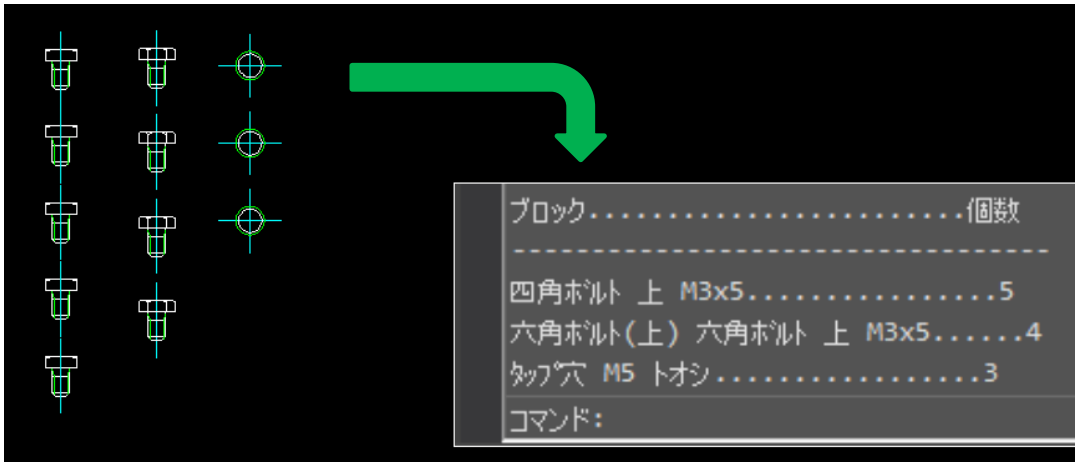
BCOUNT（ブロック数集計） 49
BLOCKREPLACE（ブロック置き換え） 50
NCOPY（ネストされたオブジェクトを複写） 52
BURST（属性を文字に分解） 54
ATTOUT（属性値書き出し） 56
ATTIN（属性値読み込み） 58
XLIST（ブロック属性を表示） 60
BLOCKTOXREF（ブロックを外部参照に変更） 61
BLOCKBREAK（部分削除ブロック） 63
ATTINC（属性値の増分） 65
BLKNUM（拡張ブロック数集計） 67
bChgCol（ブロック色変更） 69
bChgWid（ブロック線の太さ変更） 70
bChgAng（ブロック文字角度変更） 71
bChgHei（ブロック文字高さ変更） 72
BCHGLAY（ブロック画層変更） 73

BCOUNT（ブロック数集計）

拡張ツール　互換機能

できること

図面内のブロックの数を集計し、コマンドラインに表示します。
指定した範囲または図面全体を対象に集計ができます。



操作手順

① BCOUNT コマンドを実行
② オブジェクトを選択します。
　→選択したブロックの数を集計します

コマンドの場所

リボン	：	[拡張ツール] > [ブロック] > [ブロック数 集計]
ツールバー	：	[ET：ブロックツール] > [ブロック数集計]
メニューバー	：	[拡張ツール] > [ブロックツール] > [ブロック数集計]
コマンド	：	BCOUNT

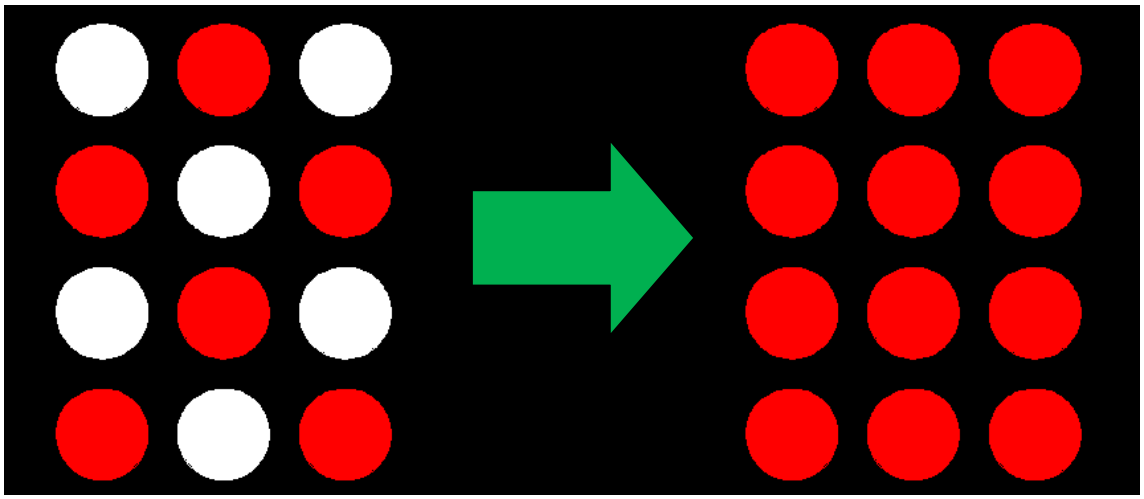
BLOCKREPLACE（ブロック置き換え）

拡張ツール　互換機能

できること

図面内のブロックを置き換えます。

置き換え後に、置き換えられたブロックの定義を削除することも可能です。



操作手順

① BLOCKREPLACE コマンドを実行

② 置換されるブロックを選択します
（「置換されるブロック」が「置換するブロック」に変更される）

③ 置換するブロックを選択します

④ 置換されるブロックの定義を残す場合は N と入力して ENTER キー押下
置換されるブロックの定義を残さない場合は Y と入力して ENTER キー押下
→ブロックが置き換えられ、参照されない名前が削除されます。

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］>［ブロック］>［ブロック置き換え］

ツールバー　：［ET：ブロックツール］>［ブロック置き換え］

メニューバー　：［拡張ツール］>［ブロックツール］>［ブロック置き換え］

コマンド　：BLOCKREPLACE

補足

・名前のないブロック(*U25 等)には使用できません

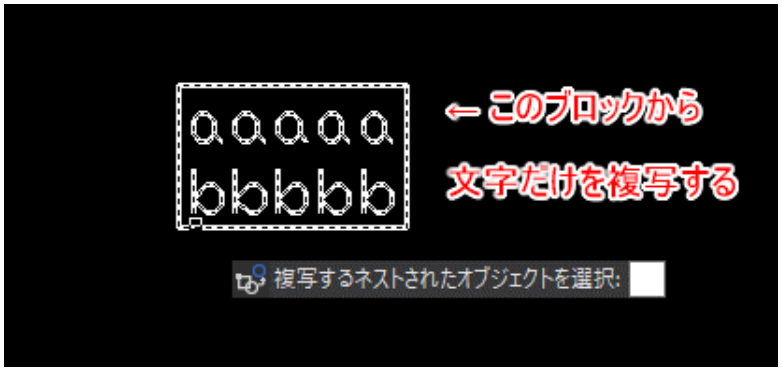
・ダイナミックブロックはアクションを実行した状態(変形した状態)だと使用できません。
右クリックよりブロックをリセットしてから適用してください。

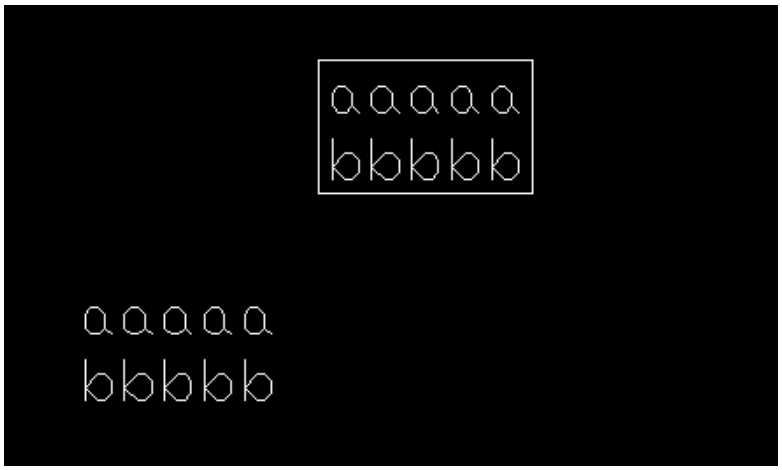
NCOPY（ネストされたオブジェクトを複写）

拡張ツール　互換機能

できること

外部参照、ブロック、DGN アンダーレイに含まれているオブジェクトを複写します





操作手順

① NCOPY コマンドを実行
② 複写するネストされたオブジェクトを選択します。
③ 基点を指定または（移動距離、追加の場所を指定すると、自動的に複数の複写が作成される複数）を選択します
④ 2 点目を指定します。
→ ネストされたオブジェクトが複写されます。

コマンドの場所

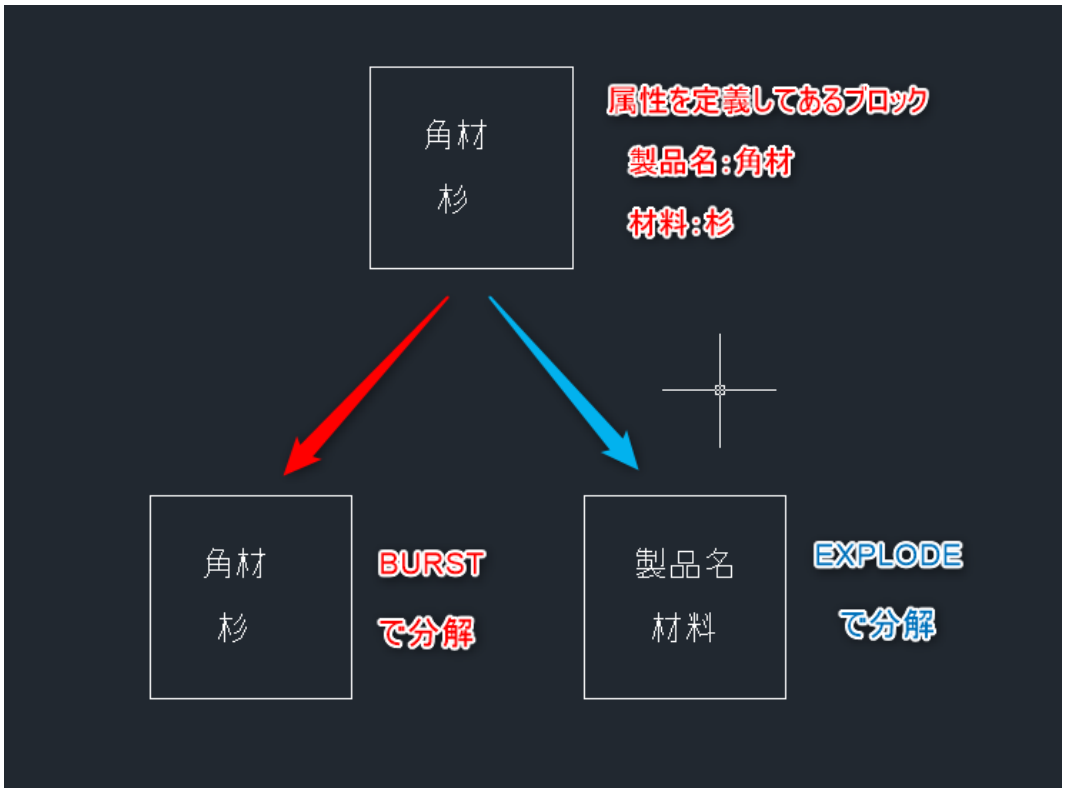
リボン	：	[拡張ツール] > [ブロック] > [ネストされたオブジェクトを複写]
ツールバー	：	[ET：ブロックツール] > [ブロック内の図形を複写]
メニューバー	：	[拡張ツール] > [ブロックツール] > [ブロック内の図形を複写]
コマンド	：	NCOPY

BURST（属性を文字に分解）

拡張ツール　互換機能

できること

ブロックを分解し、属性値をテキストに変換します。



操作手順

① BURST コマンドを実行

② オブジェクトを選択します

→ ブロックが分解され、属性値がテキストに変換されます

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］>［ブロック］>［属性を文字に分解］

ツールバー　：［ET：ブロックツール］>［属性を文字に分解］

メニューバー　：［拡張ツール］>［ブロックツール］>［属性を文字に分解］

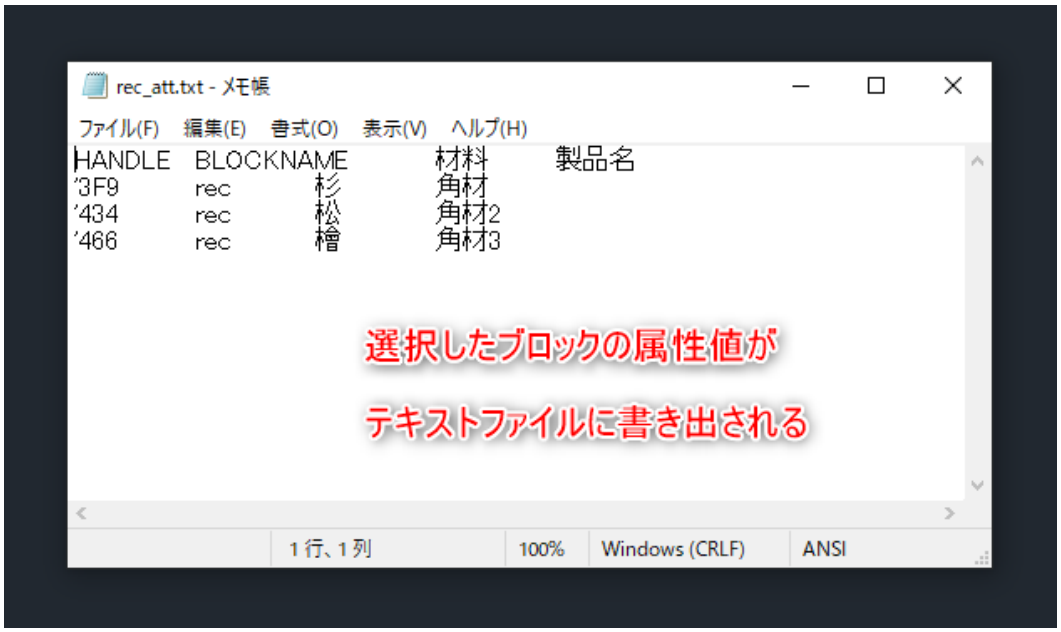
コマンド　：BURST

ATTOUT（属性値書き出し）

拡張ツール　互換機能

できること

図面内にあるブロックを参照し、属性値をテキスト形式で書き出します



操作手順

① ATTOUT コマンドを実行
② 書き出しファイルの名前を保存します
③ オブジェクトを選択します
→ 選択したブロックの属性値がテキスト形式で書き出されます

コマンドの場所

リボン ： [拡張ツール] > [ブロック] > [属性値書き出し]
ツールバー ： －
メニューバー ： [拡張ツール] > [ブロックツール] > [属性値書き出し]
コマンド ： ATTOUT

ATTIN（属性値読み込み）

拡張ツール　互換機能

できること

ブロックの属性値を読み込み、一括で変更することができます

操作手順

① ATTIN コマンドを実行
② 内容を反映させたいテキストファイルを指定して開く
　→ 読み込んだテキストファイルの内容がブロックに反映されます

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］＞［ブロック］＞［属性値読み込み］
ツールバー　：－
メニューバー　：［拡張ツール］＞［ブロックツール］＞［属性値読み込み］
コマンド　：ATTIN

補足

・読み込むテキストファイルの形式は、ATTOUT で自動生成された形式と同じである必要があります

XLIST（ブロック属性を表示）

拡張ツール　互換機能

できること

外部参照や、ブロックの属性を表示します。

操作手順

① XLIST コマンドを実行

② 一覧に表示された外部参照又はブロックを選択

→ 選択した外部参照又は、ブロックの属性が表示されます

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］＞［ブロック］＞［ブロック属性を表示］

ツールバー　：［ET：ブロックツール］＞［ブロック属性を表示］

メニューバー　：［拡張ツール］＞［ブロックツール］＞［ブロック属性を表示］

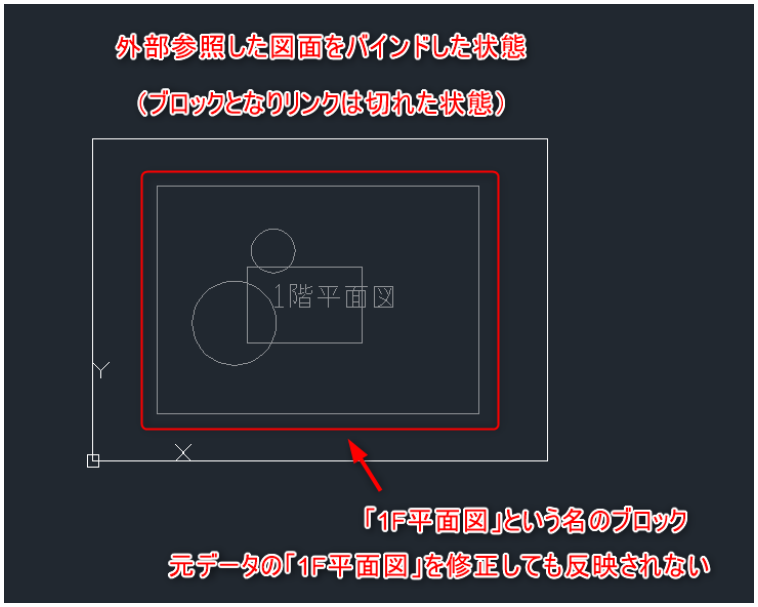
コマンド　：XLIST

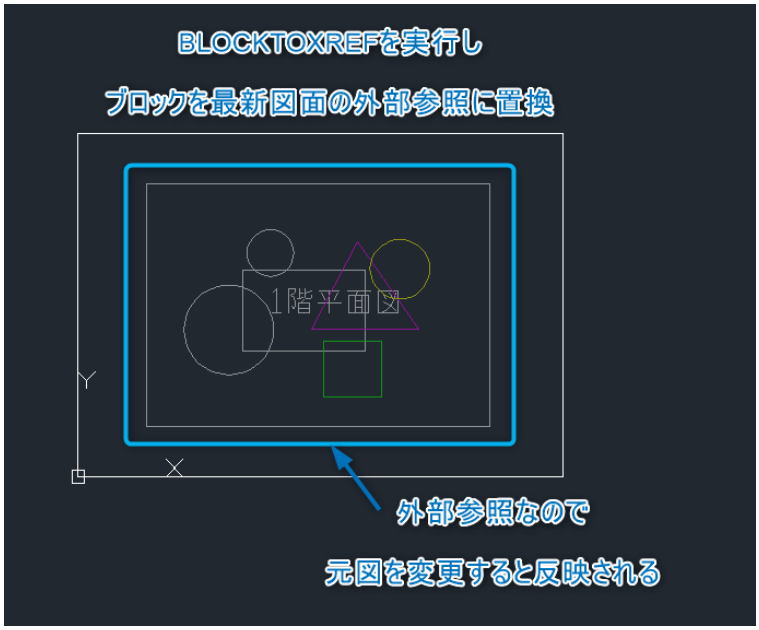
BLOCKTOXREF（ブロックを外部参照に変更）

拡張ツール　互換機能

できること

図面内にあるブロックを外部参照に置換します。「バインドしてブロックになっている図面を最新図面の情報に置き換えたい時」などに便利なコマンドです。





操作手順

① BLOCKTOXREF コマンドを実行
② 置き換えたいブロックを選択
③ 外部参照ファイルを選択
④ 終了時使用されていないブロックを削除するかを選択
→ 選択したブロックが外部参照に置換されます

コマンドの場所

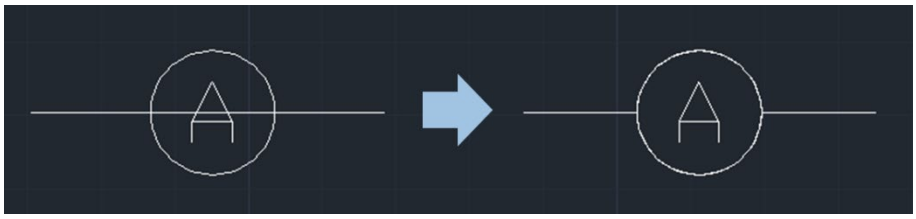
リボン ： -
ツールバー ： -
メニューバー ： [拡張ツール] > [ブロックツール] > [ブロックを外部参照に変更]
コマンド ： BLOCKTOXREF

BLOCKBREAK（部分削除ブロック）

拡張ツール　独自機能

できること

ブロックを現在の図面に挿入、または図面内のブロックを選択して、そのブロックの下にあるオブジェクトを部分的に削除、または覆い隠すことができるコマンドです。



操作手順

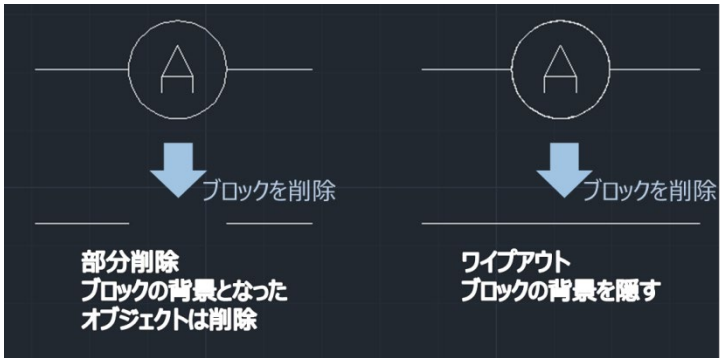
① BLOCKBREAK コマンドを実行
② 部分削除対象のブロックを以下のいずれかの方法で選択
　・名前欄のプルダウンから選択(図面にブロックが配置されている場合)
　・参照ボタンからファイルを選択
　・選択ボタンをクリックし、図面中から選択
③ 尺度・角度・プロセスモードを設定
④ ブロックを挿入または図面上のブロックを選択
⑤ ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］>［ブロック］>［部分削除ブロック］
ツール　：［ET:ブロックツール］>［部分削除ブロック］
メニュー　：［拡張ツール］>［ブロック　ツール］>［部分削除ブロック］
コマンド　：BLOCKBREAK

補足

・　プロセスモードの選択肢により、以下のような処理結果となります。

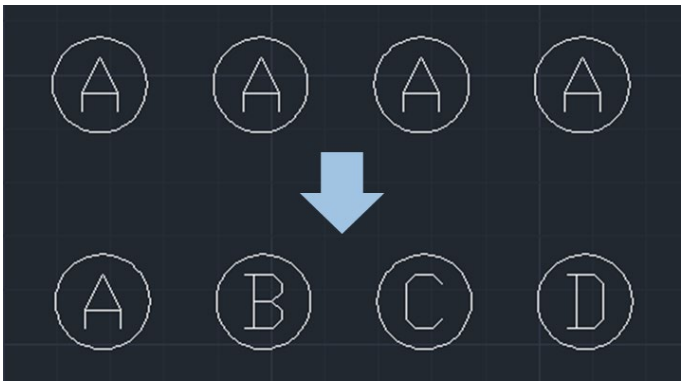


ATTINC（属性値の増分）

拡張ツール　独自機能

できること

属性定義を持つブロックの文字や数字をカウントアップすることができます。

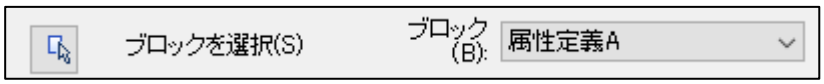


操作手順

① 属性定義を持つブロックを事前に配置

② ATTINC コマンドを実行

③ ブロックを選択ボタンまたはプルダウンからカウントアップ対象のブロックを選択



④ 値を増加させる属性にチェックを入れる

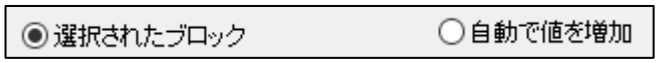
⑤ 増分パラメータ設定　（補足を参照）

⑥ カウントアップ対象のブロック選択手段を設定

選択されたブロック：選択したブロックのみを増加対象にします

自動で値を増加：手順③で設定したものと同じ名前のブロックを全て増分します

⇒手順⑧と⑨は省略



⑦ OK ボタンを押下
⑧ カウントアップ対象のブロックを選択します。
⑨ ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：[挿入] > [ブロック] > [属性値の増分]
ツール　：-
メニュー　：[修正] > [オブジェクト] > [属性] > [属性値の増分]
コマンド　：ATTINC

補足

増分パラメータの各設定内容は以下の通り。

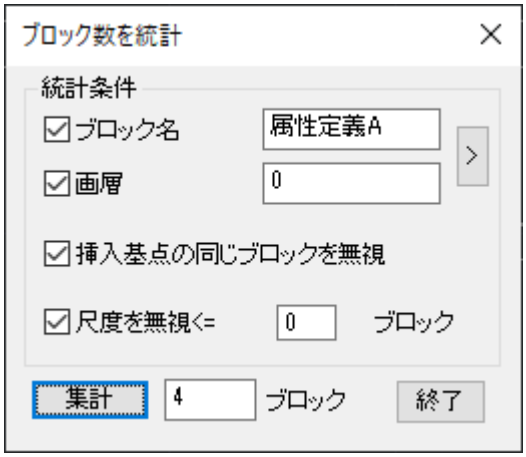
- 増分：選択したオブジェクトの属性値が、パラメータの設定に沿って増加していきます。
- 比率を追加：「選択されたブロック」の場合のみ使用できます。「増分」欄に入力した値の分カウントアップされた文字から増分が始まります。
- インクリメントモード：増加させたい文字や数字の位置を設定します。
- 増分：増分や比率の追加分を指定します。入力した整数の値のぶん、数字や文字の値が増加します。
- ソート：「選択されたブロック」の場合のみ使用できます。選択したブロックの並べ替え方法を設定します。
  - 表示順序：図面に追加されたブロック順
  - 順序を選択：ブロックを選択した順
  - 左から右：左から右に並べた順
  - 上から下：上から下に並べた順
  - 曲線パス：基準となる曲線パスを選択。ブロックの挿入基点が曲線パスに近いもの順
- 逆順でソートする：ソートで選択した設定とは逆の順番となります。

BLKNUM（拡張ブロック数集計）

拡張ツール　独自機能

できること

条件を絞り込んでブロック数の集計を行うことができます。



操作手順

① BLKNUM コマンドを実行
② 「>」ボタンをクリックし、集計対象としたいブロックを選択
③ 集計対象の絞り込み手段を選択 （絞り込み手段は補足を参照）
④ 集計ボタン押下で集計結果が表示
⑤ 終了ボタン押下

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］>［ブロック］>［拡張ブロック数 集計］
ツール　：［ET：ブロックツール］>［拡張ブロック数集計］
メニュー　：［拡張ツール］>［ブロックツール］>［拡張ブロック数集計］
コマンド　：BLKNUM

補足

絞り込み手段の各設定内容は以下の通り。

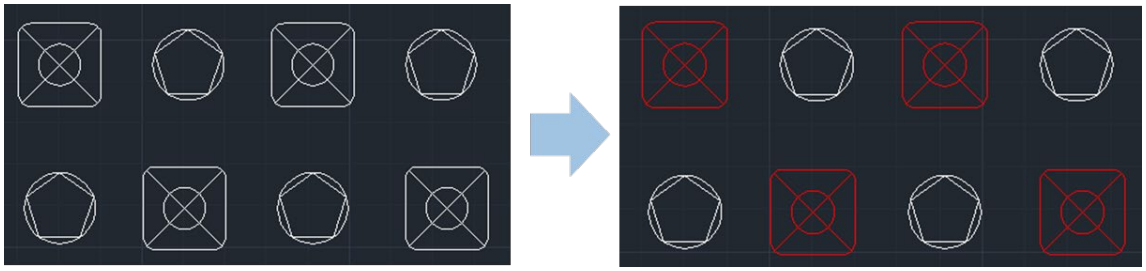
- ブロック名：チェックを入れると、指定したブロック名を集計の対象とします。
- 画層：チェックを入れると、指定した画層を集計の対象とします。
- 挿入基点の同じブロックを無視：同位置に重ねて配置されているブロックは数量から除外します。
- 尺度を無視：入力した尺度と同じか入力した尺度よりも小さい尺度のブロックは数量から除外します。
- 以下、ヘルプ記事における記載の間違いについては、開発へ修正依頼済み。
  - ➢ 機能概要
    - × 文字の属性を読み取り、別の文字に反映させることができます。文字の属性を読み取り、別の文字に反映させることができます。
    - ○ 条件を絞り込んでブロック数の集計を行うことができます。
  - ➢ コマンド名
    - × TJNUM
    - ○ BLKNUM
- 集計結果の欄が書き込めてしまうが、当件について開発へ修正依頼済み。

BCHGCOL（ブロック色変更）

拡張ツール　独自機能

できること

図面内にある同じ名前のブロックの色を一括で変更します。



操作手順

① BCHGCOL コマンドを実行
② 色番号を入力し、ENTER キー押下
③ 色を変更するブロックを選択
④ ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］>［ブロック］>［ブロック色変更］
ツール　：-
メニュー　：［拡張ツール］>［ブロックツール］>［ブロック色変更］
コマンド　：BCHGCOL

補足

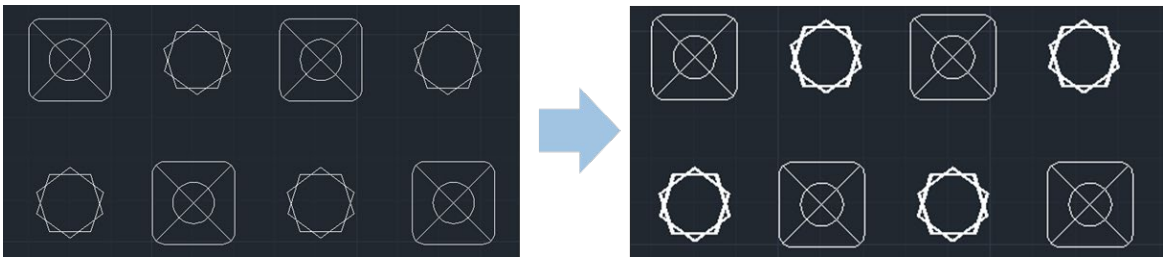
・ ブロックの選択では 1 つだけ選択すれば図面内の同じ名前のブロック全て色が変わります。

BCHGWID（ブロック線の太さ変更）

拡張ツール　独自機能

できること

ブロックの線の太さを変更することができます。ブロックエディタで変更した場合と同じになる為、同じ名前のブロックは一括で変更されます。線の太さはグローバル幅として定義されます。文字には適用されません。



操作手順

① BCHGWID コマンドを実行
② 線の太さを入力
③ 線の太さを変更するブロックを選択
④ ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン	：	[拡張ツール] > [ブロック] > [ブロック線の太さ変更]
ツール	：	-
メニュー	：	[拡張ツール] > [ブロックツール] > [ブロック線の太さ変更]
コマンド	：	BCHGWID

補足

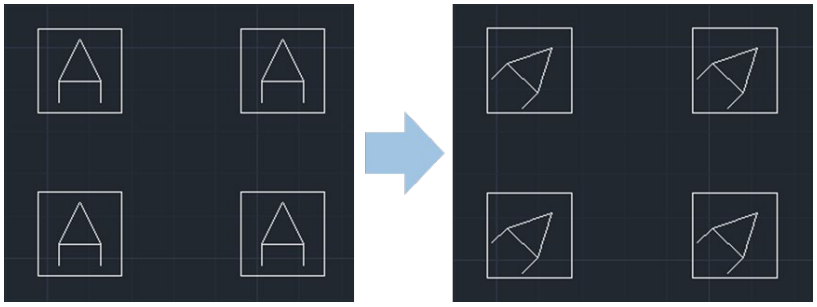
・　対象はポリラインのみとなります。線分や円は変更できません。

BCHGANG（ブロック文字角度変更）

拡張ツール　独自機能

できること

ブロック内の文字列のみを角度変更することができます。



操作手順

① BCHGANG コマンドを実行
② 文字の回転角度を入力
③ 文字を回転するブロックを選択
④ ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］＞［ブロック］＞［ブロック文字角度変更］
ツール　：-
メニュー　：［拡張ツール］＞［ブロックツール］＞［ブロック文字角度変更］
コマンド　：BCHGANG

補足

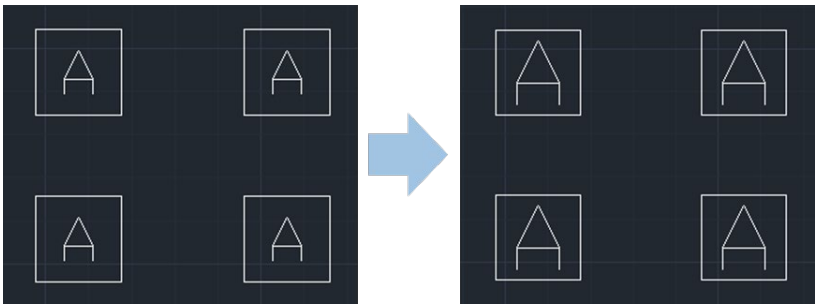
・　回転の基点は文字の基点位置となります。

BCHGHEI（ブロック文字高さ変更）

拡張ツール　独自機能

できること

ブロック内の文字高さを変更することができます。



操作手順

① BCHGHEI コマンドを実行
② 文字高さを入力
③ 文字高さを変更するブロックを選択
④ ENTER キー押下

コマンドの場所

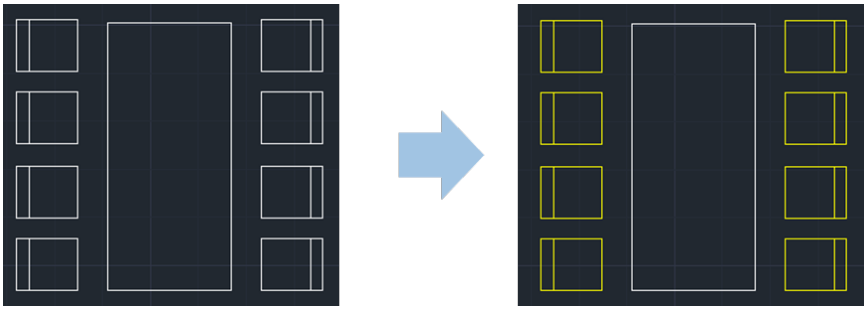
リボン　：［拡張ツール］>［ブロック］>［ブロック文字角度変更］
ツール　：-
メニュー　：［拡張ツール］>［ブロックツール］>［ブロック文字角度変更］
コマンド　：BCHGHEI

BCHGLAY（ブロック画層変更）

拡張ツール　独自機能

できること

選択したブロックの画層を変更することができます。その際、ブロックに含まれるオブジェクトの画層も同時に変更します。



操作手順

① BCHGLAY コマンドを実行
② 画層名を入力し、ENTER キー押下
③ 画層を変更するブロックを選択
④ ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：-
ツール　：-
メニュー　：[拡張ツール] > [ブロックツール] > [ブロック画層変更]
コマンド　：BCHGLAY

補足

・　手順②で入力した画層が図面に無い場合は、入力した画層名の画層が作成されます。

寸法ツール

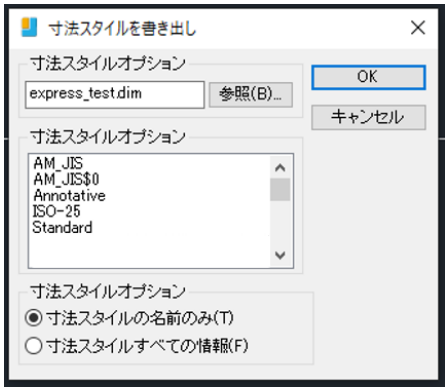
DIMEX（寸法スタイル書き出し） 75
DIMIM（寸法スタイル読み込み） 76
DIMREASSOC（寸法値を元に戻す） 77
chgdimtxt（寸法値編集） 78
DIMUPDATE（寸法スタイル更新） 79

DIMEX（寸法スタイル書き出し）

拡張ツール　互換機能

できること

名前の付いた寸法スタイルとその設定を外部ファイルに書き出します。



操作手順

① DIMEX コマンドを実行

② 「寸法スタイルを書き出し」ダイアログボックスが開く

③ 書き出したい寸法スタイル、名前のみかすべての情報かを選択 し、OK を押下

→ 寸法スタイルが外部ファイルに書き出されました

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］>［寸法］>［寸法スタイル書き出し］

ツールバー　：－

メニューバー　：［拡張ツール］>［寸法スタイル］>［寸法スタイル書き出し］

コマンド　：DIMEX

補足

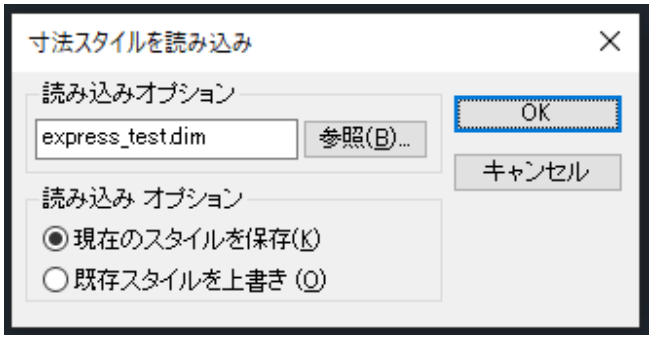
・書き出し場所を参照しない場合は、ドキュメントフォルダに書き出しされます。

DIMIM（寸法スタイル読み込み）

拡張ツール　互換機能

できること

名前の付いた寸法スタイルとその設定を外部ファイルから読み込みます



操作手順

① DIMIM コマンドを実行

② 「寸法スタイルを読み込み」ダイアログボックスが開く

③ 読み込むファイルを指定し、現在のスタイルを保存か既存スタイルを上書きかを選択し OK を押下

→ 外部ファイルの寸法スタイルが読み込まれました

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］>［寸法］>［寸法スタイル書き出し］

ツールバー　：－

メニューバー　：［拡張ツール］>［寸法スタイル］>［寸法スタイル書き出し］

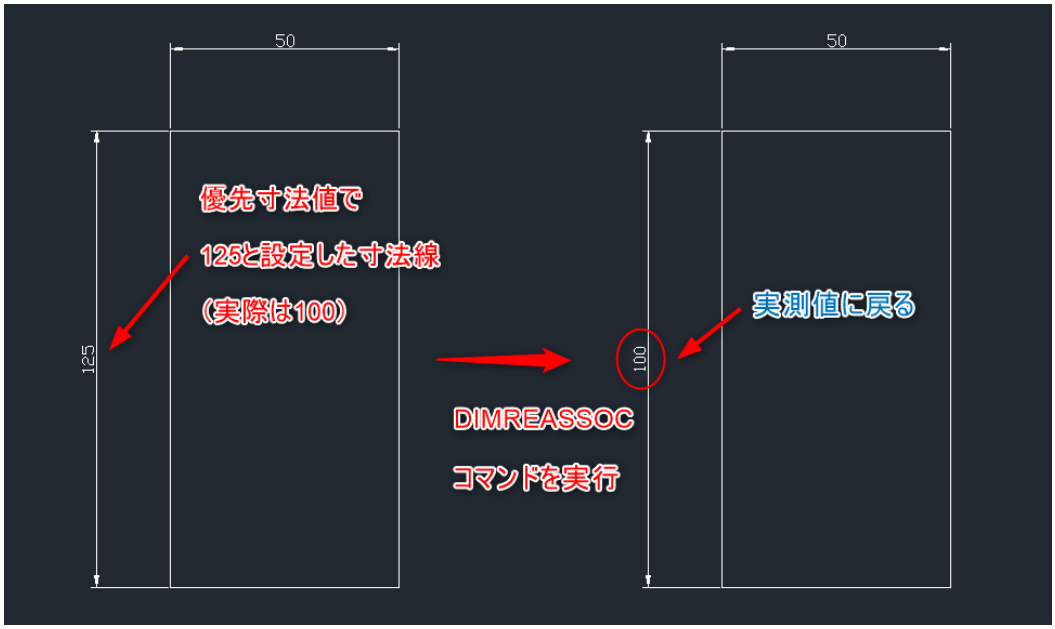
コマンド　：DIMEX

DIMREASSOC（寸法値を元に戻す）

拡張ツール　互換機能

できること

優先設定した寸法値または修正した寸法値を、計測値に戻します。



操作手順

① DIMREASSOC コマンドを実行

② オブジェクトを選択

→優先設定または修正されていた寸法値が、実際の値に戻ります。

コマンドの場所

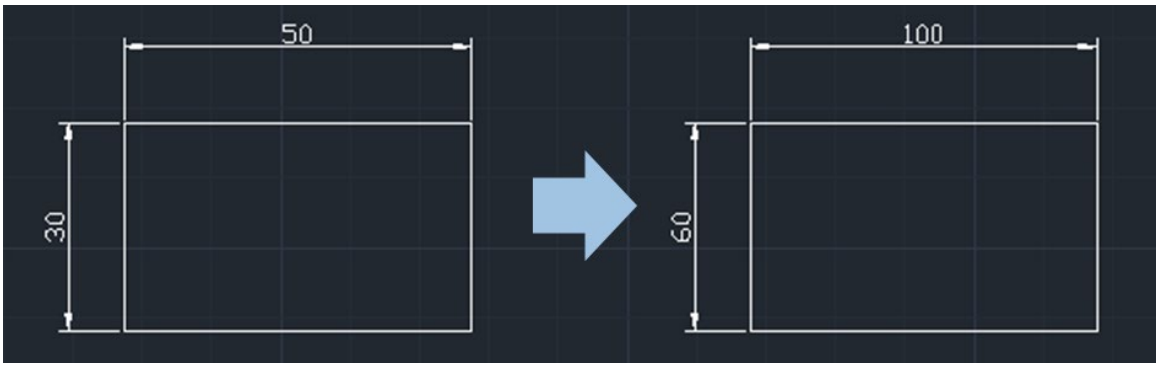
リボン	：	[拡張ツール] > [寸法] > [寸法値を元に戻す]
ツールバー	：	[ET：寸法スタイルツール] > [寸法値を元に戻す]
メニューバー	：	[拡張ツール] > [寸法スタイル] > [寸法値を元に戻す]
コマンド	：	DIMREASSOC

CHGDIMTXT（寸法値編集）

拡張ツール　独自機能

できること

図面中の寸法値を上書きしたり、実測値に戻したりすることができます。



操作手順

① CHGDIMTXT コマンドを実行
② 寸法値を変更したい寸法を選択
③ 変更後の寸法値を入力
④ ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン ： [拡張ツール] > [寸法] > [寸法値編集]
ツール ： [ET:寸法スタイル ツール] > [寸法値編集]
メニュー ： [拡張ツール] > [寸法スタイル] > [寸法値編集]
コマンド ： CHGDIMTXT

補足

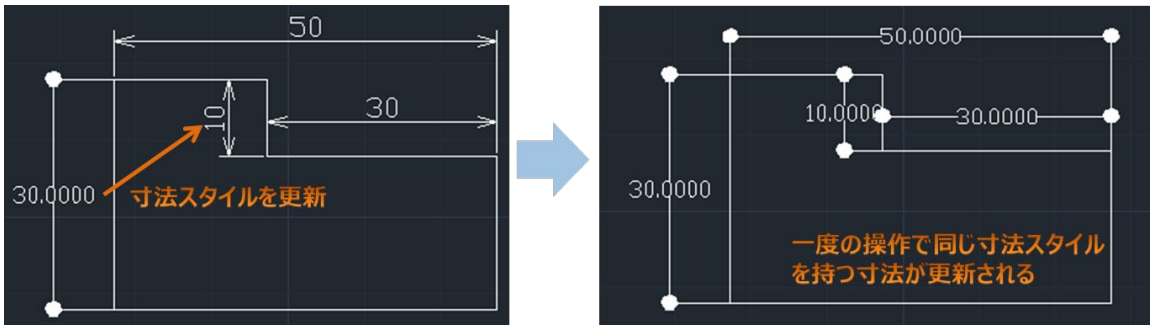
・ 寸法値を実測値に戻す場合は、手順③で空を入力します。

DIMUPDATE（寸法スタイル更新）

拡張ツール　独自機能

できること

寸法スタイルをコピー＆ペーストし、ペースト先の寸法に適用します。
ペースト先の寸法スタイル更新に加え、ペースト先と同じ寸法スタイルの寸法も更新されます。



操作手順

① DIMUPDATE コマンドを実行
② 基準とする(寸法スタイルをコピーする)寸法を選択します
③ 寸法スタイルを更新したい(ペースト先の)寸法を選択します

コマンドの場所

リボン　：[拡張ツール] > [寸法] > [寸法スタイル更新]
ツール　：[ET:寸法スタイル ツール] > [寸法スタイル更新]
メニュー　：[拡張ツール] > [寸法スタイル] > [寸法スタイル更新]
コマンド　：DIMUPDATE

修正ツール

SUPERHATCH（スーパーハッチング） 81
FLATTEN（オブジェクトをフラット化） 84
OVERKILL（重複線削除） 86
BREAKLINE（切断線） 88
MOCORO（移動 / 複写 / 回転） 90
EXOFFSET（オフセット拡張機能） 92
EXTRIM（トリム拡張機能） 94
MKLTYPE（カスタム線種作成） 96
BREAKOBJECT（オブジェクト分割） 98
SPTPL（スプラインをポリラインに変換） 100
spline2line（スプラインを線分に変換） 101
mpedit（複数ポリライン編集） 102
gxfilt（通常接続） 104
gxfss（伸縮接続） 106
ett（可視的延長） 107
sascl（作図尺度） 108
DYJT（部分拡大/縮小） 109
FREESCALE（自由スケーリング） 110

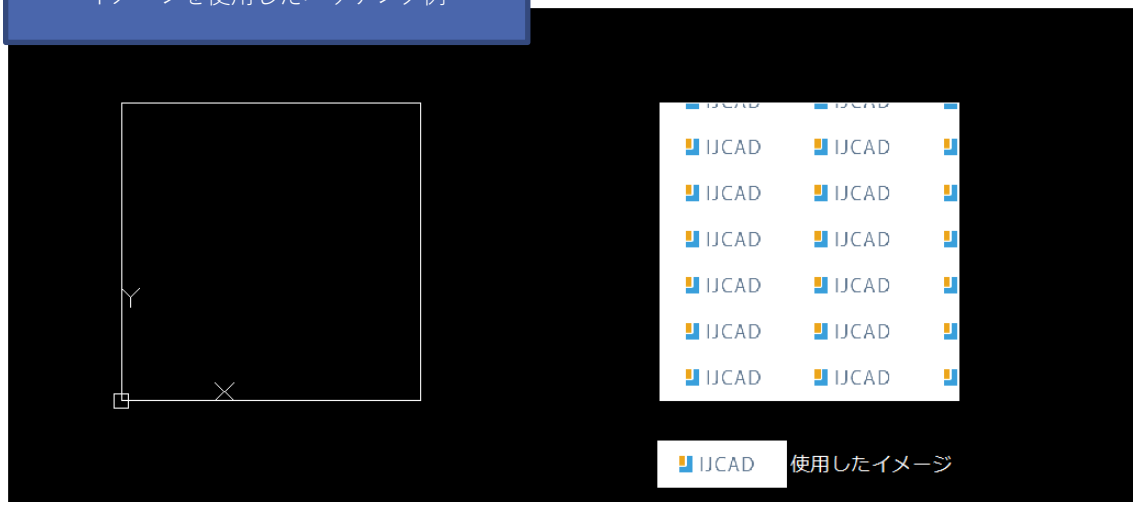
SUPERHATCH（スーパーハッチング）

拡張ツール　互換機能

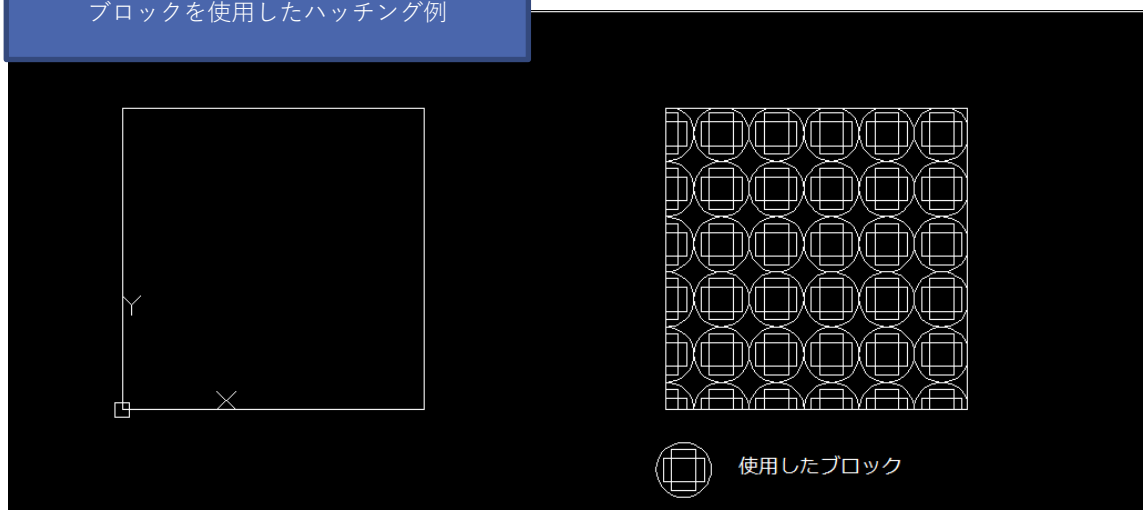
できること

選択したイメージ、ブロック、外部参照、またはワイプアウト オブジェクトを使用して領域をハッチングします。

イメージを使用したハッチング例



ブロックを使用したハッチング例



手順

イメージを使用する場合

① SUPERHATCH コマンドを実行
② [イメージをアタッチ]ボタンをクリック
③ ハッチングに使用したいイメージファイルを選択し[開く]
④ 挿入位置、尺度、回転角度を指定
⑤ [OK]ボタンをクリック
⑥ ハッチングの基点としたい点をクリック
⑦ ハッチングをかけたいオブジェクトの内側の点をクリック
⑧ ENTER キー押下

ブロックを使用する場合

① SUPERHATCH コマンドを実行
② [ブロック ハッチング]ボタンをクリック」
③ 図面内にあるブロックを使用する場合…[ブロック]ボタンをクリック
手持ちの DWG ファイルを使用する場合…[ファイル]ボタンをクリック
④ 挿入位置、尺度、回転角度を指定
⑤ [OK]ボタンをクリック
⑥ ハッチングの基点としたい点をクリック
⑦ ハッチングの窓範囲を指定
（※1:この手順で指定した窓の分を列間距離と行間距離の定義として使用します）
⑧ ハッチングをかけたいオブジェクトの内側の点をクリック
⑨ ENTER キー押下

外部参照使用する場合

① SUPERHATCH コマンドを実行
② [外部参照ハッチング]ボタンをクリック
③ ハッチングに使用したい DWG ファイルを選択して[OK]ボタンをクリック
④ 挿入位置、尺度、回転角度を指定
⑤ [OK]ボタンをクリック

⑥ ハッチングの基点としたい点をクリック

⑦ ハッチングの窓範囲を指定

（※1:この手順で指定した窓の分を列間距離と行間距離の定義として使用します）

⑧ ハッチングをかけたいオブジェクトの内側の点をクリック

⑨ ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン	：	[拡張ツール] > [修正] > [スーパーハッチング]
ツールバー	：	－
メニューバー	：	[拡張ツール] > [作成] > [スーパーハッチング]
コマンド	：	SUPERHATCH

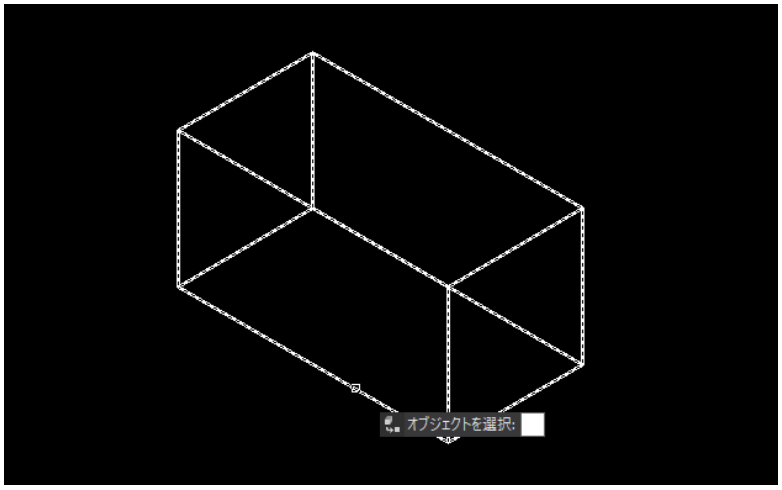
FLATTEN（オブジェクトをフラット化）

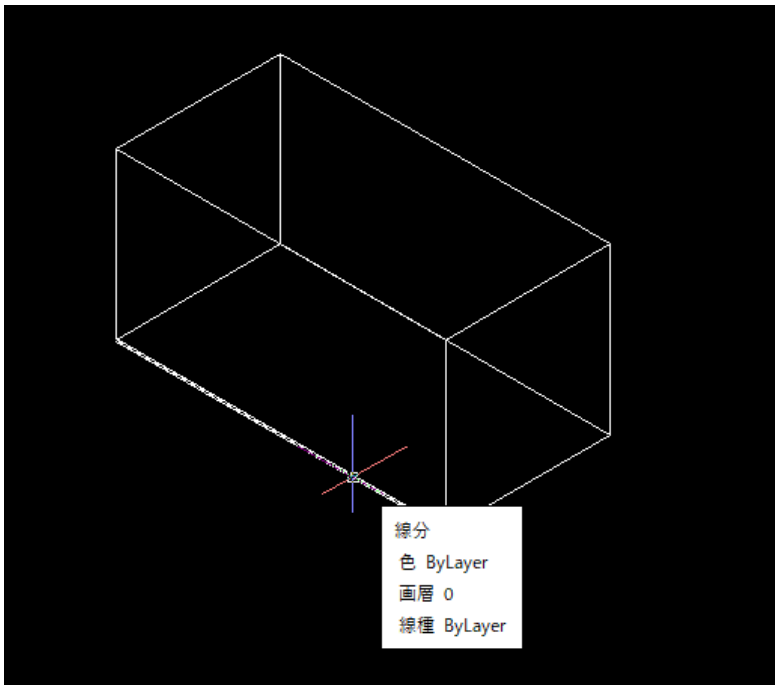
拡張ツール　互換機能

できること

3D ジオメトリを、投影された 2D 表現に変換します。

3D モデルから 2D 図面を作成したり、選択したオブジェクトの厚さと高さを強制的に 0 にするために使用できます。





操作手順

① Flatten コマンドを実行

② オブジェクトを選択します。

→選択したオブジェクトの 2D 表現を作成して、現在のビュー平面に投影します。
3D オブジェクト(ソリッド等)の場合は現在表示されている内容が線分になります。
高さのあるポリライン等は、高さが強制的に 0 になります。
（小数点以下がある場合も強制的に 0.00…0 になります）

コマンドの場所

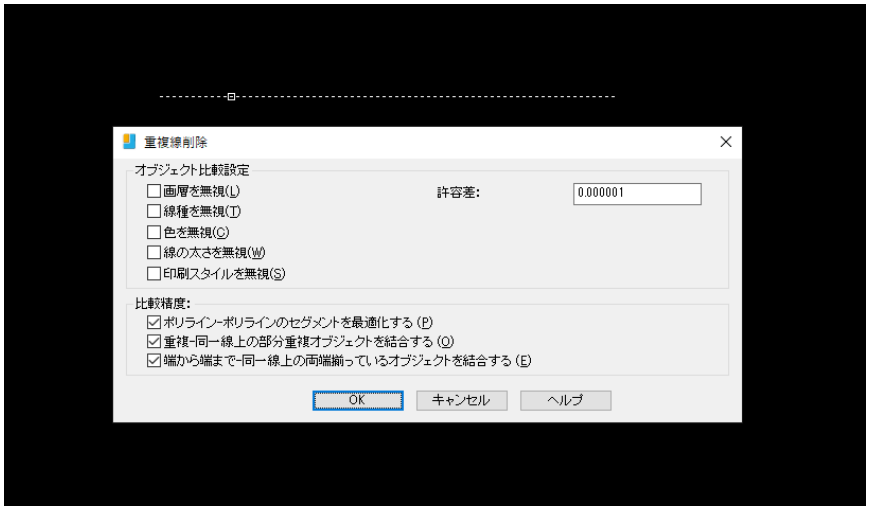
リボン	：	[拡張ツール] > [修正] > [オブジェクトをフラット化]
ツールバー	：	[ET:編集ツール] > [オブジェクトをフラット化]
メニューバー	：	[拡張ツール] > [修正] > [オブジェクトをフラット化]
コマンド	：	FLATTEN

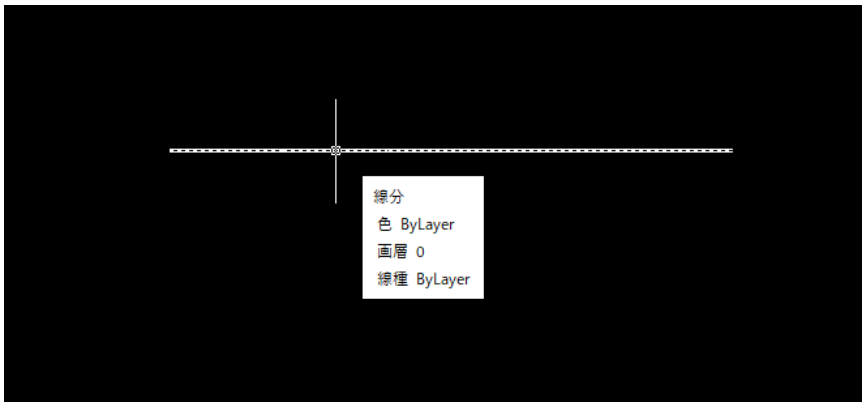
OVERKILL（重複線削除）

拡張ツール　互換機能

できること

重複している、または重なり合っている線、円弧、ポリラインを削除します。
また、部分的に重なり合っている、または隣接している線、円弧、ポリラインを 1 つにまとめます。





操作手順

① OVERKILL コマンドを実行
② オブジェクトを選択します
③ 重複線削除ダイアログ上にてオブジェクトの比較設定、比較制度の設定を選択します
→重複している線、円弧、ポリラインを削除します。また、部分的に重なり合っている線、円弧、ポリラインを 1 つにまとめます

コマンドの場所

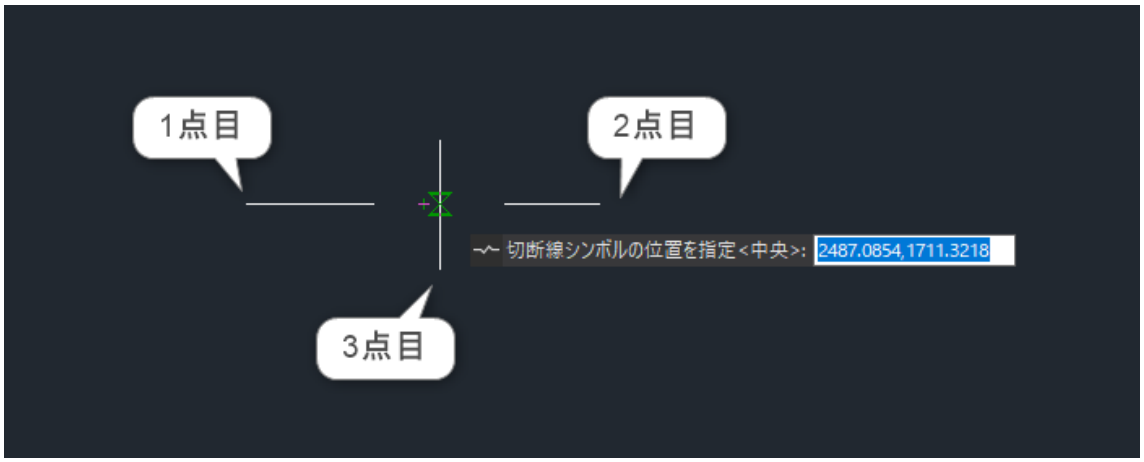
リボン ： [ホーム] > [修正] > [重複するオブジェクトを削除する]
ツールバー ： －
メニューバー ： [修正(M)] > [重複するオブジェクトを削除する]
コマンド ： OVERKILL

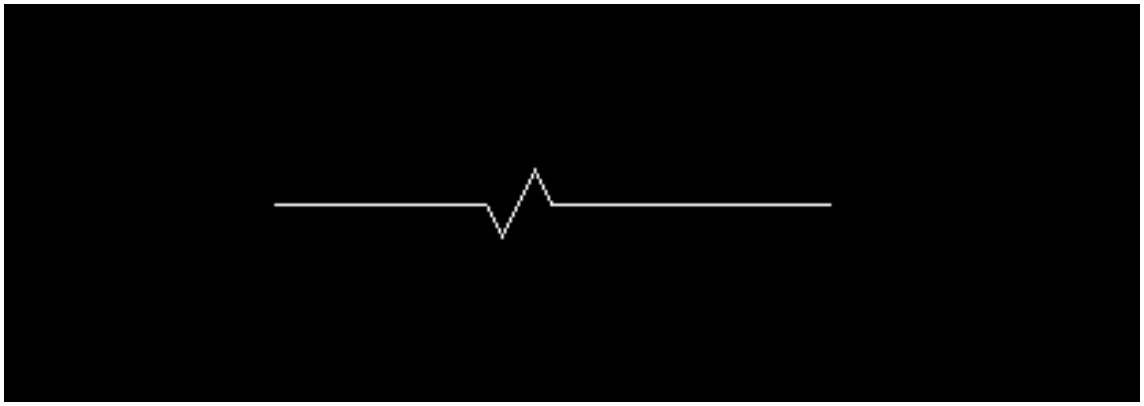
BREAKLINE（切断線）

拡張ツール　互換機能

できること

切断線を描画します。又は既存の線分にシンボルを挿入し切断線にします





操作手順

① BREAKLINE コマンドを実行
② 切断線の始点を指定、又はオプションのブロック、サイズ、延長、シンボル挿入を指定
③ 切断線の終点を指定
④ 切断線のシンボルの位置を指定
　→ 切断線が作成されます

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］＞［修正］＞［切断線］

ツールバー　：［ET：編集 ツール］＞［切断線シンボル］

メニューバー　：［拡張ツール］＞［作成］＞［切断線］

コマンド　：BREAKLINE

補足

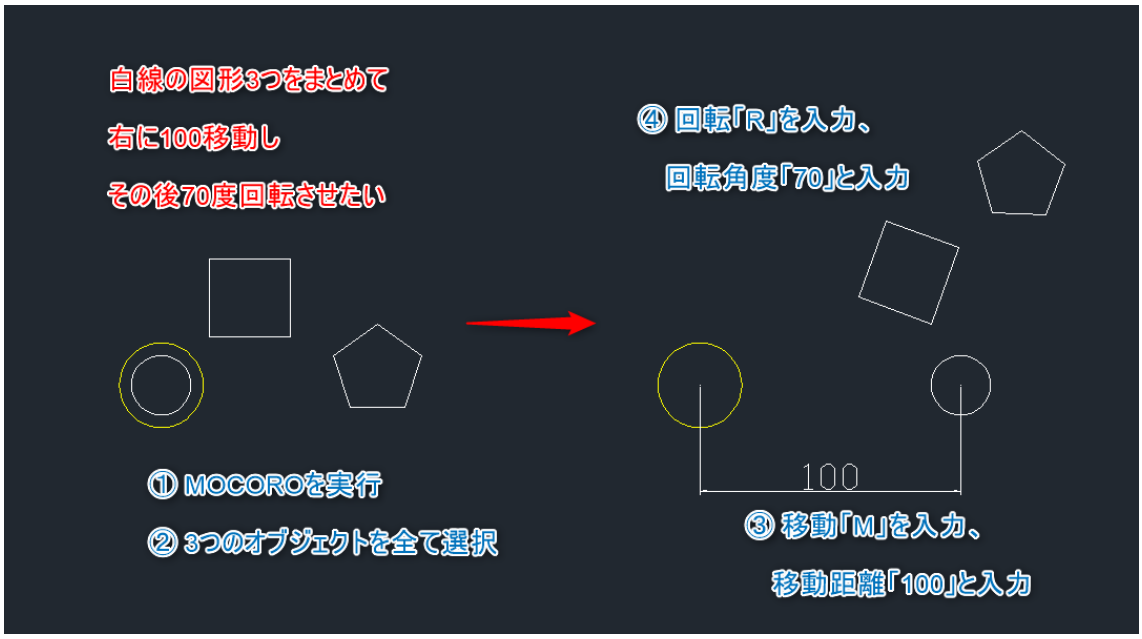
・オプションで切断線シンボルの描かれた図面ファイルを指定することができます。
　デフォルトでは『BRKLINE.DWG』が設定されています。

MOCORO（移動 / 複写 / 回転）

拡張ツール　互換機能

できること

選択したオブジェクトの移動・複写・回転をひとつのコマンドでまとめて行うことができます。



操作手順

① MOCORO コマンドを実行
② 変更を加えたいオブジェクトを全て選択
③ 基点を指定
④ 「移動(M)」を指定し、移動したい方向にカーソルを動かして（この場合右方向に）移動距離「100」と入力
⑤ 「回転(R)」を指定し、回転距離「70」と入力
⑥ Enter 押下で終了
→ 選択したオブジェクトが移動・回転されます

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］＞［修正］＞［移動/複写/回転］

ツールバー　：［ET：編集　ツール］＞［移動/複写/回転］

メニューバー　：［拡張ツール］＞［修正］＞［移動/複写/回転］

コマンド　：MOCORO

補足

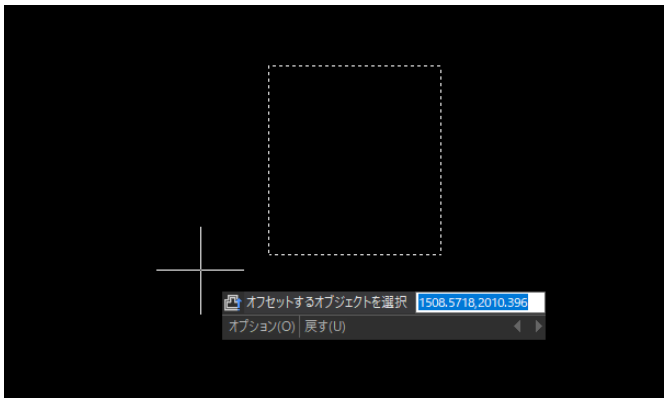
・コマンドの途中で「元に戻す（U）」動作を差しはさむ事ができます

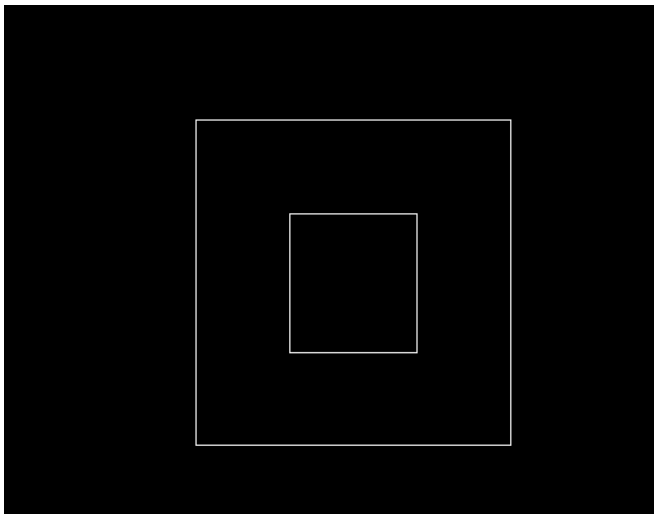
EXOFFSET（オフセット拡張機能）

拡張ツール　互換機能

できること

従来の OFFSET コマンドの機能に加え、オフセット後の線の交差点の処理などが設定できます。





操作手順

① EXOFFSET コマンドを実行
② オフセット間隔を入力、または通過点を指定
③ オフセットするオブジェクトを選択し、必要に応じてオプションの距離、画層、間隔を指定
距離：オフセット間隔を入力、または通過点を指定
画層：オフセットして作成されたオブジェクトの画層について、ソース(選択したオブジェクトの画層)を使用するか、現在層にするかを指定
間隔　：オフセットした時に生じる線分の交差点をどの形で処理するか（普通に延長する、フィレット、面取り）を指定
④ Enter 押下でオプション選択から抜ける
⑤ オフセットする側を指定
⑥ Enter 押下で終了
→ 選択したオブジェクトがオフセットされます

コマンドの場所

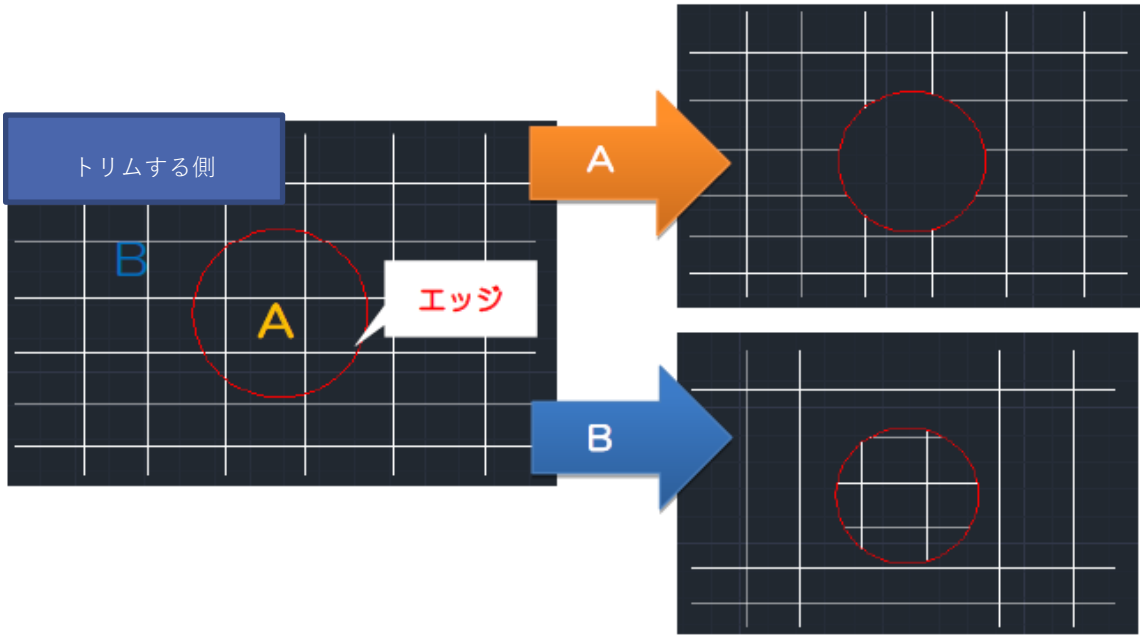
リボン　：［拡張ツール］＞［修正］＞［オフセット拡張機能］
ツールバー　：－
メニューバー　：［拡張ツール］＞［修正］＞［オフセット拡張機能］
コマンド　：EXOFFSET

EXTRIM（トリム拡張機能）

拡張ツール　互換機能

できること

エッジとして選択した基準線に接するオブジェクトを一括でトリムします。



操作手順

① EXTRIM コマンドを実行
② トリムのエッジを選択します
③ トリムする側を選択します
　→ オブジェクトが一括でトリムされます

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］>［修正］>［トリム拡張機能］

ツールバー　：　–

メニューバー　：［拡張ツール］>［修正］>［トリム拡張機能］

コマンド　：　EXTRIM

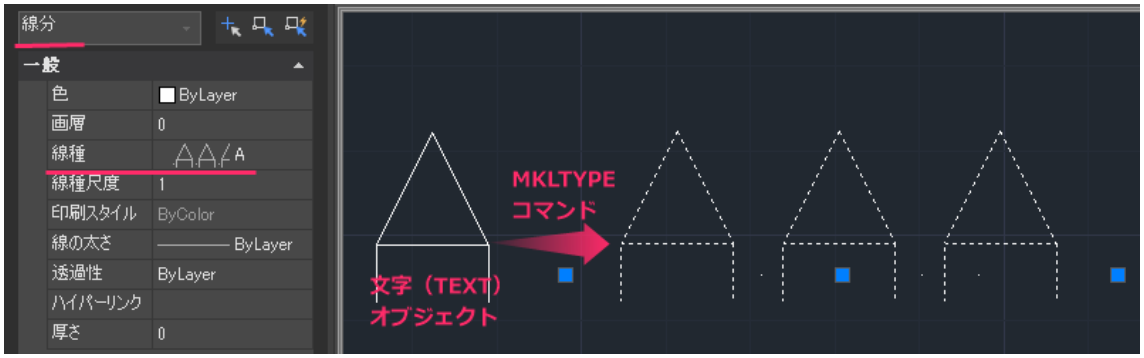
MKLTYPE（カスタム線種作成）

拡張ツール　互換機能

できること

選択したオブジェクトを基に線種定義を作成して、指定した線種定義(LIN)ファイルに保存することが可能です。

オブジェクトとして選択できるのは線分・ポリライン・点・文字（TEXT）です。



操作手順

テキストオブジェクトを指定する場合

① MKLTYPE コマンドを実行します

② これから作成する線種定義を保存する線種ファイルを選択します

③ 線種名を入力します

④ 線種説明を入力します

⑤ 線分定義の始点を指定します

→指定点が点オブジェクトで記録されます。

⑥ 線分定義の終点を指定します

⑦ オブジェクトを選択します

→作成した線種定義を指定したファイルに保存しました。

線種として使用された際は、指定した始点から終点の幅で、指定したオブジェクトが繰り返されます。

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］＞［図面］＞［カスタム線種作成］

ツールバー　：　－

メニューバー　：　－

コマンド　：　MKLTYPE

補足

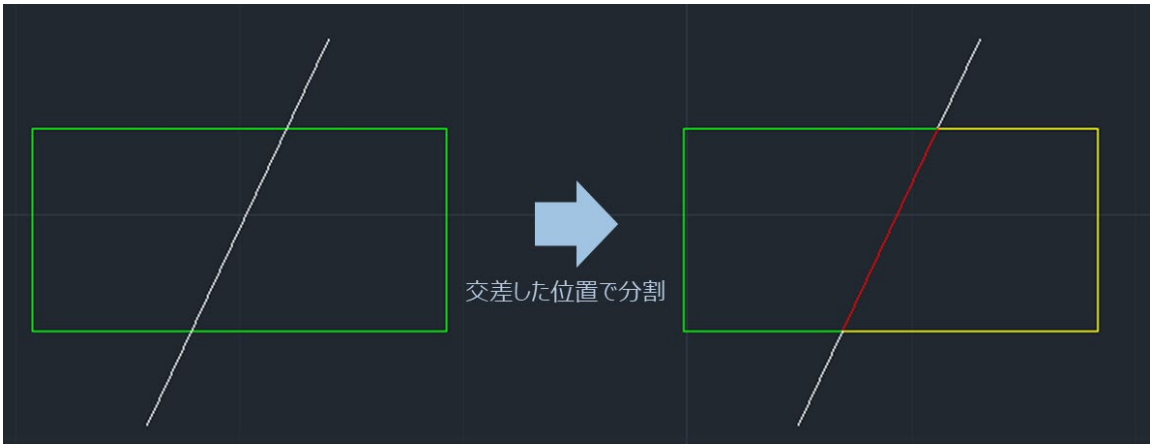
・既存の線種ファイルを指定する際に「上書きしますか？」とメッセージが表示されます。
　「はい」で進んでください。（指定したファイル内の既存の線種は保持されます。）

BREAKOBJECT（オブジェクト分割）

拡張ツール　独自機能

できること

オブジェクト同士が交差した位置で、オブジェクトを分割します。



操作手順

① BREAKOBJECT コマンドを実行

② ギャップの値を入力

分割時に分割位置に隙間を作る場合に入力します。入力した値の分、隙間が空きます。(mm 指定)

③ 分割の種類を選択

④ 分割するオブジェクトを選択

- 選択した両方のオブジェクトを分割：分割対象となるすべてのオブジェクトを選択。
- 選択したオブジェクトを他のオブジェクトで分割：選択セット A を選択し、ENTER キー押下。選択セット B を選択し、ENTER キー押下。
- 選択したオブジェクトに接するオブジェクトで分割：分割境界とするオブジェクトを選択。
- 選択したオブジェクトに接するオブジェクトを分割：分割するオブジェクトを選択。

⑤ ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：[拡張ツール] > [修正] > [オブジェクト分割]
ツール　：[ET:編集ツール] > [オブジェクト分割]
メニュー　：[拡張ツール] > [修正] > [オブジェクト分割]
コマンド　：BREAKOBJECT

補足

分割の種類は以下の通り。

- 選択した両方のオブジェクトを分割：選択したオブジェクト同士の全ての交点が分割されます。
- 選択したオブジェクトを他のオブジェクトで分割：選択セット A が選択セット B との交点で分割されます。
- 選択したオブジェクトに接するオブジェクトで分割：選択したオブジェクトに交差しているオブジェクト全てが、選択したオブジェクトとの交点で分割されます。
- 選択したオブジェクトに接するオブジェクトを分割：選択したオブジェクトが、他のオブジェクトとの交点すべてで分割されます。

SPTPL（スプラインをポリラインに変換）

拡張ツール　独自機能

できること

スプラインをポリラインに変換します。
ポリラインは指定したセグメント数の直線に変換されます。

操作手順

① SPTPL コマンドを実行
② 変換対象のスプラインを選択し、ENTER キー押下
③ 元のスプラインを削除する場合は Y、残す場合は N を入力し、ENTER キー押下
④ セグメント数(何本の直線とするか)を入力し、ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］＞［修正］＞［スプラインをポリラインに変換］
ツール　：－
メニュー　：［拡張ツール］＞［作成］＞［スプラインをポリラインに変更］
コマンド　：SPTPL

補足

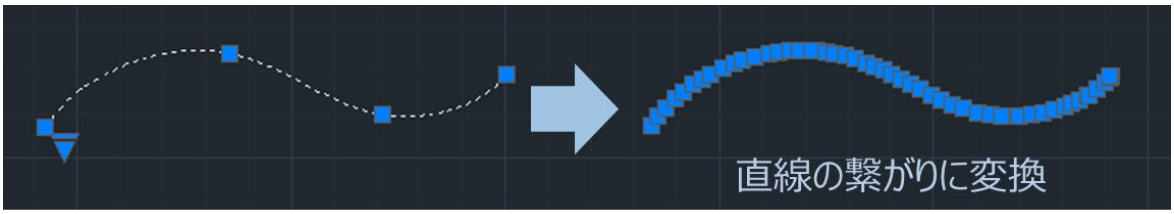
・　セグメント数が多いほど、元のスプラインに近い形状となります。

SPLINE2LINE（スプラインを線分に変換）

拡張ツール　独自機能

できること

スプラインを線分に変換します。



操作手順

① SPLINE2LINE コマンドを実行
② 変換対象のスプラインを選択し、ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］＞［修正］＞［スプラインを線分に変換］
ツール　：－
メニュー　：［拡張ツール］＞［作成］＞［スプラインを線分に変更］
コマンド　：SPLINE2LINE

補足

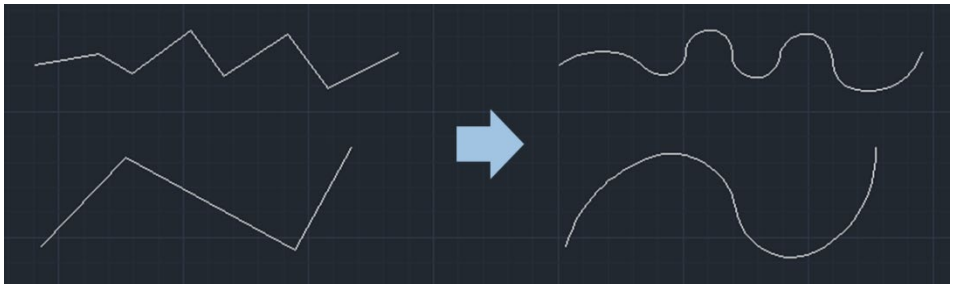
・　パラメータオプションで設定できる、ライン精度と開始点の設定が機能していない件については、不具合として開発へ報告済み。

MPEDIT（複数ポリライン編集）

拡張ツール　独自機能

できること

ポリライン編集で実施可能な編集を複数のポリラインに対し、一括で行うことができます。



操作手順

① MPEDIT コマンドを実行
② 編集対象のポリラインを選択し、ENTER キー押下
③ 編集用のオプションを入力し、ENTER キー押下
④ (線種-モードまたは幅を選択した場合は以下の操作を実施)
- 線種-モード(L)：ON または OFF を入力し、ENTER キー押下
- 幅(W)：幅の値を入力し、ENTER キー押下

⑤ X(終了)を入力し、ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン	：	[拡張ツール] > [修正] > [複数ポリライン編集]
ツール	：	－
メニュー	：	[拡張ツール] > [作成] > [複数ポリライン編集]
コマンド	：	MPEDIT

補足

編集用のオプションは以下の通り。

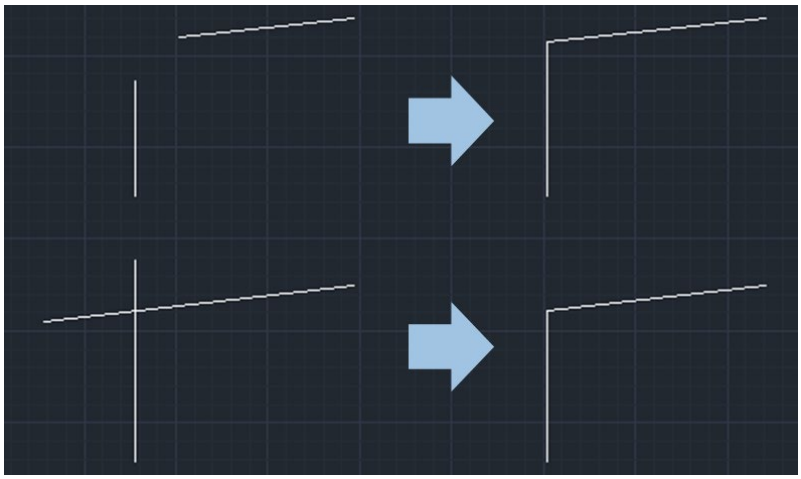
- 開く(O)　：閉じたセグメントを削除します。
- 閉じる(C)　：開始点と終点が接続します。
- カーブ解除(D)　：ポリラインのセグメントをすべて直線にします。
- フィットカーブ(F)：頂点を繋ぎ合わせた曲線を作成します。
- 線種-モード(L)　：線種生成モードの有効／無効を切り替えます。
- スプライン(S)　：スプラインに変換します。
- 幅(W)　：開始セグメント幅と終了セグメント幅を変更します。
- 終了(X)　：複数ポリライン編集を終了します。

GXFILT（通常接続）

拡張ツール　独自機能

できること

２本の平行でない線分を接続して角を作ります。届いていない場合は線分を延長して角を作成し、交差している場合はトリムして角を作ります。



操作手順

① GXFILT コマンドを実行
② 接続またはトリムしたい線分２本を選択

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］＞［IJCAD ツール］＞［通常接続］
ツール　：［ET：IJCAD ツール］＞［通常接続］
メニュー　：［拡張ツール］＞［IJCAD ツール］＞［通常接続］
コマンド　：GXFILT

補足

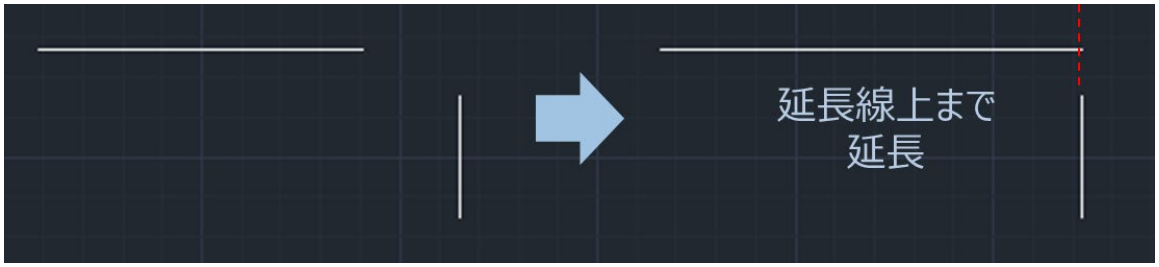
・　フィレットで半径を 0 mm に設定した際と同じ動作となります。選択する線分が交差している場合、フィレットを実行した際と同じようにどちら側の線分を選択するかで線分の残る方向が変わります。

GXFSS（伸縮接続）

拡張ツール　独自機能

できること

指定した線分の延長線上まで、延長・トリムを行います。



操作手順

① GXFSS コマンドを実行
② 延長またはトリムしたい線分を選択
③ 延長またはトリムの基準位置となる線分を選択

コマンドの場所

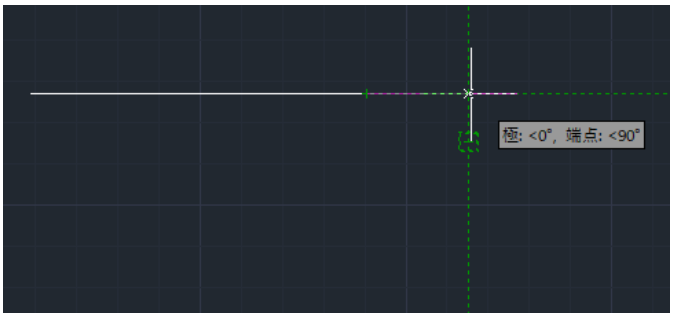
リボン　：［拡張ツール］＞［IJCAD ツール］＞［伸縮接続］
ツール　：［ET：IJCAD ツール］＞［伸縮接続］
メニュー　：［拡張ツール］＞［IJCAD ツール］＞［伸縮接続］
コマンド　：GXFSS

ETT（可視的延長）

拡張ツール　独自機能

できること

グリップでのストレッチと同様に、クリックした位置に端点を配置する形で線分を自由に変形させることが出来ます。



操作手順

① ETT コマンドを実行
② 伸縮させる線分を選択(選択した位置に近い方の端点が、ストレッチの対象)
③ 変形後の終点位置でクリック

コマンドの場所

リボン　：[拡張ツール] > [IJCAD ツール] > [可視的延長]
ツール　：[ET：IJCAD ツール] > [ダイナミックストレッチ]
メニュー　：[拡張ツール] > [IJCAD ツール] > [ダイナミックストレッチ]
コマンド　：ETT

補足

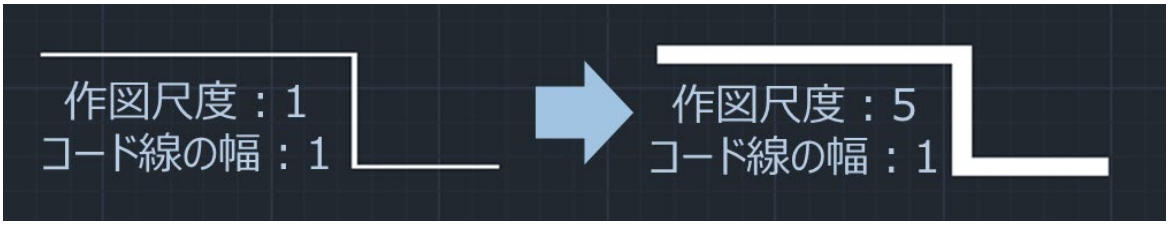
・ マウスカーソル移動中のプレビューは、角度が付く場合にはストレッチの対象となる端点から折れ曲がった線分が作成されるようなプレビューとなりますが、クリックするとストレッチ対象ではない端点からクリックした位置までの線分が生成される為、プレビューとは異なる結果となります。

SASCL（作図尺度）

拡張ツール　独自機能

できること

SALPL（コード線）コマンド実行時の線分の幅の比率を設定することができます。



操作手順

① SASCL コマンドを実行
② 比率の値を入力
③ ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］＞［IJCAD ツール］＞［作図尺度］
ツール　：［ET：IJCAD ツール］＞［作図尺度］
メニュー　：［拡張ツール］＞［IJCAD ツール］＞［作図尺度］
コマンド　：SASCL

補足

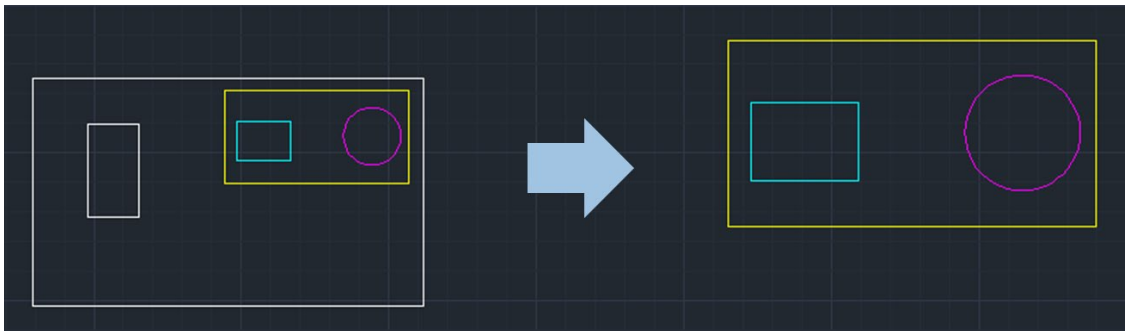
・　ポリラインコマンドで作図する線には影響しません。

DYJT（部分拡大/縮小）

拡張ツール　独自機能

できること

選択したオブジェクトの縮尺を変更しながら複写します。



操作手順

① DYJT コマンドを実行
② 矩形を作図するように、１点目・２点目をクリックし、拡大・縮小の対象部を範囲選択
③ 拡大・縮小の対象部の配置位置をクリック
④ 倍率を入力
⑤ ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：　－
ツール　：　[ET：編集　ツール] > [部分拡大 / 縮小]
メニュー　：　－
コマンド　：　DYJT

補足

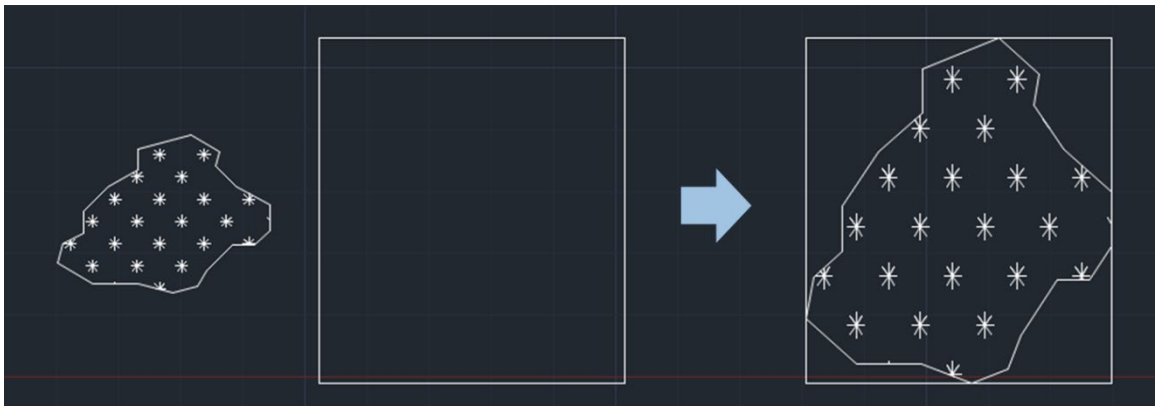
・　倍率は 2 と入力すれば元のオブジェクトの 2 倍の大きさ、0.5 と入力すれば元のオブジェクトの 1/2 の大きさになります。

FREESCALE（自由スケーリング）

拡張ツール　独自機能

できること

X 方向と Y 方向の縮尺をそれぞれ指定する、指定した範囲に収まるように拡大・縮小するなど、様々な手段で選択したオブジェクトの縮尺を変更することができます。



操作手順

X 方向と Y 方向の尺度を指定する場合

① FREESCALE コマンドを実行
② 尺度変更対象のオブジェクトを選択し、ENTER キー押下
③ 基点位置でクリック
④ X 方向の尺度を入力し、ENTER キー押下
⑤ Y 方向の尺度を入力し、ENTER キー押下

指定した範囲に収まるように尺度を変更する場合

① FREESCALE コマンドを実行
② 尺度変更対象のオブジェクトを選択し、ENTER キー押下
③ R を入力して ENTER キー押下(矩形)
④ 範囲指定の最初の点をクリック
⑤ 範囲指定の対角の点をクリック

2 つの矩形同士の X 方向と Y 方向の倍率を基準に尺度を変更する場合

① FREESCALE コマンドを実行
② 尺度変更対象のオブジェクトを選択し、ENTER キー押下
③ F を入力して ENTER キー押下(自由)
④ 基準スケールの矩形をクリック
⑤ 尺度変更後のサイズをしている矩形をクリック

コマンドの場所

リボン　：　-
ツール　：　-
メニュー　：　[修正] > [自由スケーリング]
コマンド　：　FREESCALE

補足

・　2 つの矩形同士の X 方向と Y 方向の倍率を基準に尺度を変更する場合、選択する矩形は 4 つの直角な角を持つポリラインである必要があります。

作成ツール

DLINE（二重線）..... 113
IJTANCIR2ENT（2 図形接円）..... 115
IJTANCIR3ENT（3 図形接円）..... 117
IJWDIST（距離記入）..... 119
IJLEAD1（片矢印）..... 121
IJLEAD2（両矢印）..... 123
BGE（表作成）..... 125
BGH（セル結合）..... 126
SFILLET（スーパーフィレット）..... 128
LCW（線の太さを変更）..... 129
CBK（交差切断）..... 130
AREATABLE（面積表）..... 132
GC_CTE（表を Excel 表に変換）..... 135
BGSH（行削除）..... 136
BGSL（列削除）..... 137
BGF（セル分割）..... 138
BGX（斜線作成）..... 140
BGZH（行挿入）..... 141
BGZL（列挿入）..... 143
BGMT（複数本の罫線をドラッグ）..... 144
BGST（1 本の罫線をドラッグ）..... 145
formtxt（表入力）..... 146
BGSC（表削除）..... 147

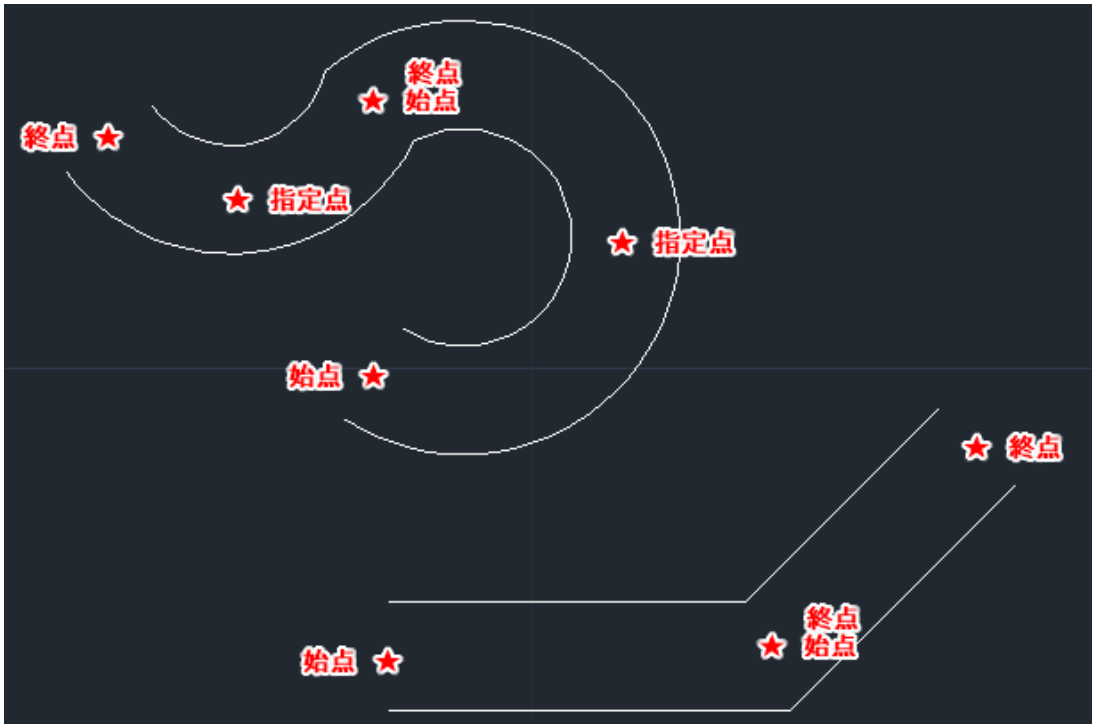
DLINE（二重線）

PLUS ツール　独自機能

できること

線分や円弧の二重線を作成します。

作成できるオブジェクトはマルチライン（MLINE コマンド）ではなく、コーナーごとに分解された線分です。



操作手順

直線の二重線を作成する場合

① DLINE コマンドを実行
② 作成する二重線の始点を指定
③ 直線の終点を指定（引き続き二重線を作成する場合は続けて操作）
④ Enter 押下でコマンド終了
　→指定した始点と終点の間に直線の二重線が作成されます。

円弧の二重線を作成する場合

① DLINE コマンドを実行
② 作成する二重線の始点を指定
③ 「A=円弧」オプションを選択
④ 円弧上の点を指定（ここで指定した点を通る円弧が作成されます）
⑤ 円弧の終点を指定（引き続き二重線を作成する場合は続けて操作）
⑥ Enter 押下でコマンド終了
→指定した 3 点を元に円弧の二重線が作成されます。

コマンドの場所

リボン　：[PLUS] > [二重線] > [二重線]
ツールバー　：[PLUS] > [二重線]
メニューバー　：[PLUS ツール] > [二重線]
コマンド　：DLINE

補足

・「B=ブレイク」オプション
二重線が重なり合ったときに、はみ出た線を削除するか設定します。

・「CA=キャップ」オプション
二重線の端点の開閉を設定します。

・「D=基準線」オプション
二重線の基準線について設定します。

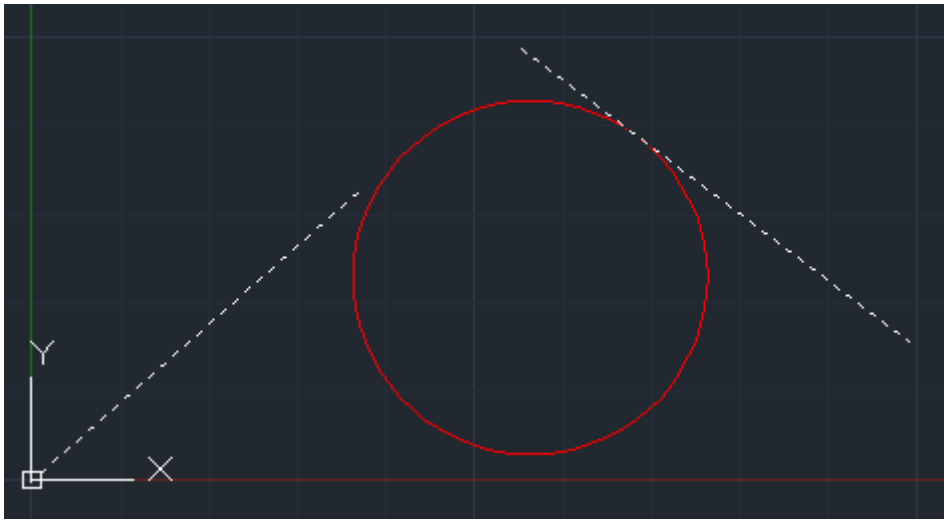
・「W=幅」オプション
二重線の幅を設定します。

IJTANCIR2ENT（2 図形接円）

PLUS ツール　独自機能

できること

2 つの図形に接する円を作図します。



操作手順

① IJTANCIR2ENT コマンドを実行
② 作成する円の基準になるオブジェクトの 1 つ目を指定
③ 作成する円の基準になるオブジェクトの 2 つ目を指定
④ 作成する円の半径を指定
⑤ 先に選んだ基準のオブジェクトの線を延長した場合に作成可能な円も作図するかを指定
⑥ ENTER 押下
　→赤い線でプレビューされていた円が確定されます。

コマンドの場所

リボン　　：[PLUS] > [作図] > [2 図形接円]
ツールバー　：[PLUS] > [2 図形接円]
メニューバー　：[PLUS ツール] > [2 図形接円]
コマンド　　：IJTANCIR2ENT

補足

・指定可能な図形要素は、線分（LINE）、円（CIRCLE）、円弧（ARC）に限定されています。
他の図形要素（POLYLINE など）は、現時点ではサポートされていません。

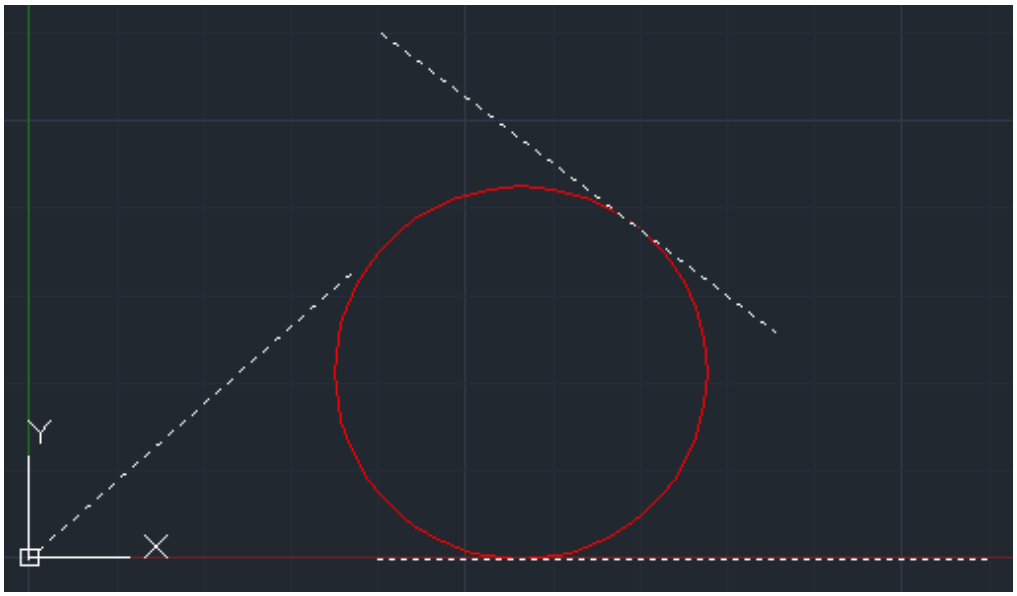
・手順⑥「この図形で確定しますか？」に対し「N=次」を選ぶと他にも作成可能な円がプレビューされます。「A=全て」を選ぶと作成可能な全ての円がプレビューされます。

IJTANCIR3ENT（3 図形接円）

PLUS ツール　独自機能

できること

3 つの図形に接する円を作図します。



操作手順

① IJTANCIR3ENT コマンドを実行
② 作成する円の基準になるオブジェクトの 1 つ目を指定
③ 作成する円の基準になるオブジェクトの 2 つ目を指定
④ 作成する円の基準になるオブジェクトの 3 つ目を指定
⑤ 先に選んだ基準のオブジェクトの線を延長した場合に作成可能な円も作図するかを指定
⑥ ENTER を押す
　→赤い線でプレビューされていた円が確定されます。

コマンドの場所

リボン　：[PLUS] > [作図] > [3 図形接円]

ツールバー　：[PLUS] > [3 図形接円]

メニューバー　：[PLUS ツール] > [3 図形接円]

コマンド　：IJTANCIR2ENT

補足

・指定可能な図形要素は、線分（LINE）、円（CIRCLE）、円弧（ARC）に限定されています。
他の図形要素（POLYLINE など）は、現時点ではサポートされていません。

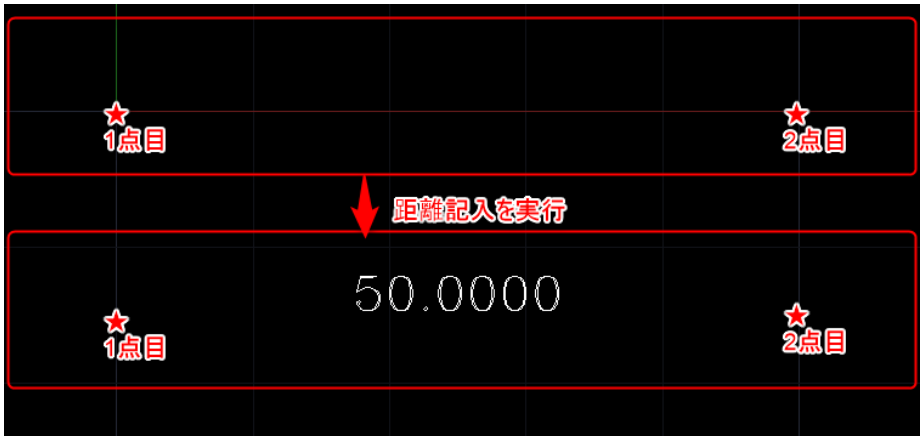
・手順⑥「この図形で確定しますか？」に対し「N=次」を選ぶと他にも作成可能な円がプレビューされます。「A=全て」を選ぶと作成可能な全ての円がプレビューされます。

IJWDIST（距離記入）

PLUS ツール　独自機能

できること

2 点を指示して、その計測距離を文字として配置します。



操作手順

① IJWDIST コマンドを実行
② 距離を測りたい 1 点目を指定
③ 距離を測りたい 2 点目を指定
　→1 点目と 2 点目の距離が文字オブジェクトとして作成されます。

コマンドの場所

リボン　：[PLUS] > [作図] > [距離記入]
ツールバー　：[PLUS] > [距離記入]
メニューバー　：[PLUS ツール] > [距離記入]
コマンド　：IJWDIST

補足

・文字高さは 2.5 です。（TEXTSIZE の値は適用されません）
　必要な場合は作成後にオブジェクトプロパティ等で変更してください。
・文字は 1 点目と 2 点目の中点に作成されます。
・本コマンドで計測される長さは 1 点目と 2 点目を直線で繋いだ線分の長さです。

IJLEAD1（片矢印）

PLUS ツール　独自機能

できること

始点に矢印がついた連続線(片矢印線)を作成します。

操作手順

① IJLEAD1 コマンドを実行
② 1 点目を指定（この点が矢印の始点になります）
③ 中継点を指定　※必要な分だけ中継点を指定する
④ ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：[PLUS] > [作図] > [片矢印]
ツールバー　：[PLUS] > [片矢印]
メニューバー　：[PLUS ツール] > [片矢印]
コマンド　：IJLEAD1

補足

・矢印の形状は現在の寸法スタイルの「1 番目の矢印」設定で変更できます。

・「塗りつぶし矢印」以外の矢印の大きさは指定できません。

オブジェクトプロパティ上で「尺度」を変更してください。

ただしプロパティ変更後に新たに作成した矢印に適用され、既存の矢印には適用されません。

・色は現在の画層に依存します。

IJLEAD2（両矢印）

PLUS ツール　独自機能

できること

始点と終点に矢印をついた連続線(両矢印線)を作成します。

操作手順

① IJLEAD1 コマンドを実行
② 1 点目を指定（この点が矢印の始点になります）
③ 中継点を指定　※必要な分だけ中継点を指定する
④ ENTER キー押下（ENTER キーを押した点が終点となります）

コマンドの場所

リボン　：[PLUS] > [作図] > [両矢印]
ツールバー　：[PLUS] > [両矢印]
メニューバー　：[PLUS ツール] > [両矢印]
コマンド　：IJLEAD2

補足

・矢印の形状は現在の寸法スタイルの設定で変更できます。
始点の矢印は「1 番目の矢印」、終点の矢印は「2 番目の矢印」です。

・「塗りつぶし矢印」以外の矢印の大きさは指定できません。
オブジェクトプロパティ上で「尺度」を変更してください。
ただしプロパティ変更後に新たに作成した矢印に適用され、既存の矢印には適用されません。

・色は現在の画層に依存します。

BGE（表作成）

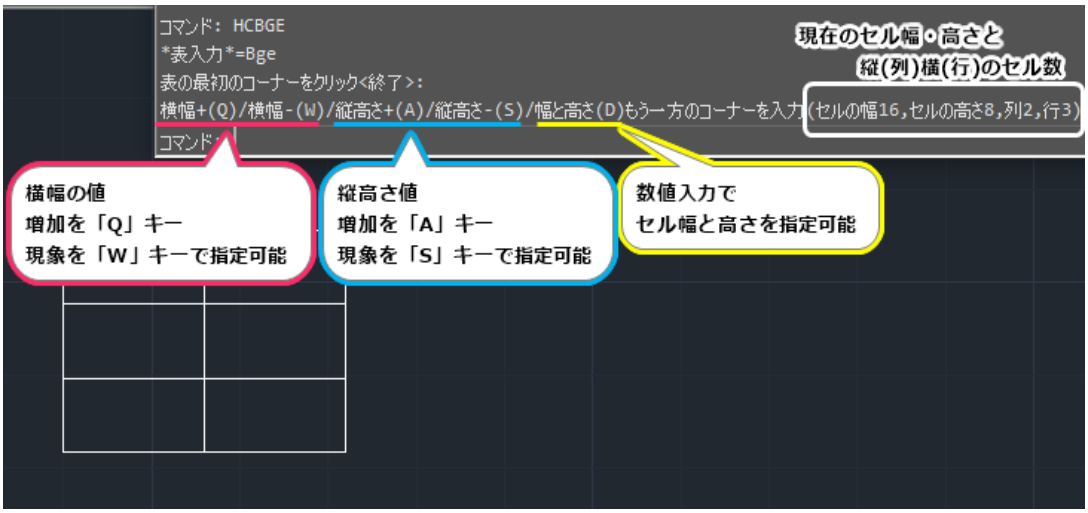
拡張ツール　互換機能

できること

IJCAD 内にて線分オブジェクトで構成された表を作成することができます。

操作手順

① BGE コマンドを実行
② 表の開始地点をクリックで指定
③ オプションにてセルの大きさを調整



④ 表の縦横のセル数を調整しながら、表の終了地点をクリックで指定
→表が作成されます。

コマンドの場所

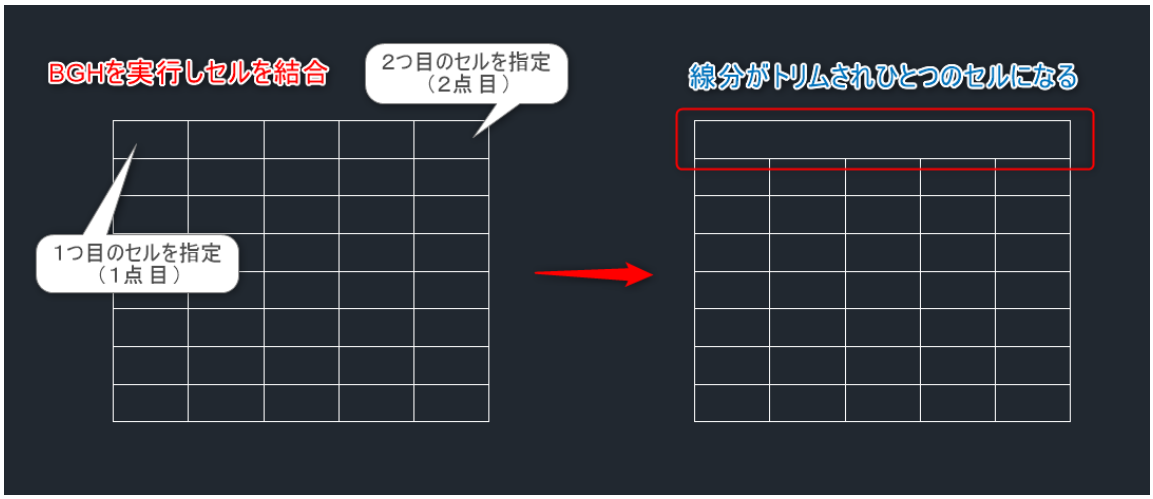
リボン　：［拡張ツール］>［表］>［表作成］
ツールバー　：［ET：表ツール］>［表作成］
メニューバー　：［拡張ツール］>［表ツール］>［表作成］
コマンド　：BGE

BGH（セル結合）

拡張ツール　互換機能

できること

表作成（BGE）で作成した表のセルを結合します。



操作手順

① BGH を実行
② 結合する表の境界線または最初のセルを指定
③ 結合したい範囲の最終セルを指定
④ Enter 押下で終了
→ 指定した範囲のセルが結合されます

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］＞［表］＞［セルを結合］
ツールバー　：［ET：表ツール］＞［セルを結合］
メニューバー　：［拡張ツール］＞［表ツール］＞［セルを結合］
コマンド　：BGH

補足

・BGE（表を作成）コマンドで作成していない表に対しても BGH コマンドが適用できます。

・セル結合後、以下のコマンドは使用できません。

BGMT（複数本の罫線をドラッグ）

BGST（１本の罫線をドラッグ）

BGZH（行挿入）

BGZL（列挿入）

BGSH（行削除）

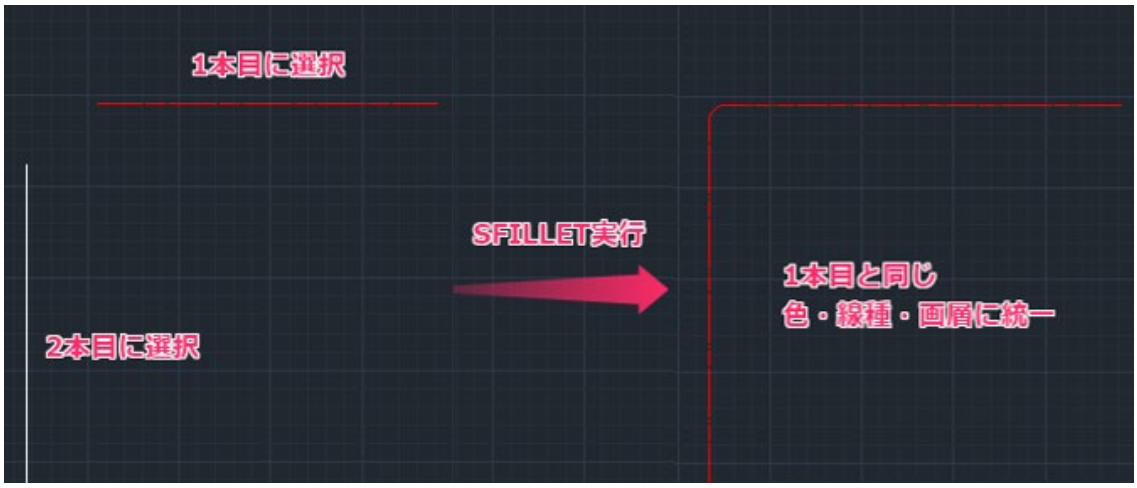
BGSL（列削除）

SFILLET（スーパーフィレット）

拡張ツール　互換機能

できること

選択した２つの線分の端点を結合し、フィレットします。



操作手順

① SFILLET コマンドを実行
② フィレットの半径を入力します
③ 一番目の線分を選択します
④ 二番目の線分を選択します
　→選択した２つの線分がフィレットされました

コマンドの場所

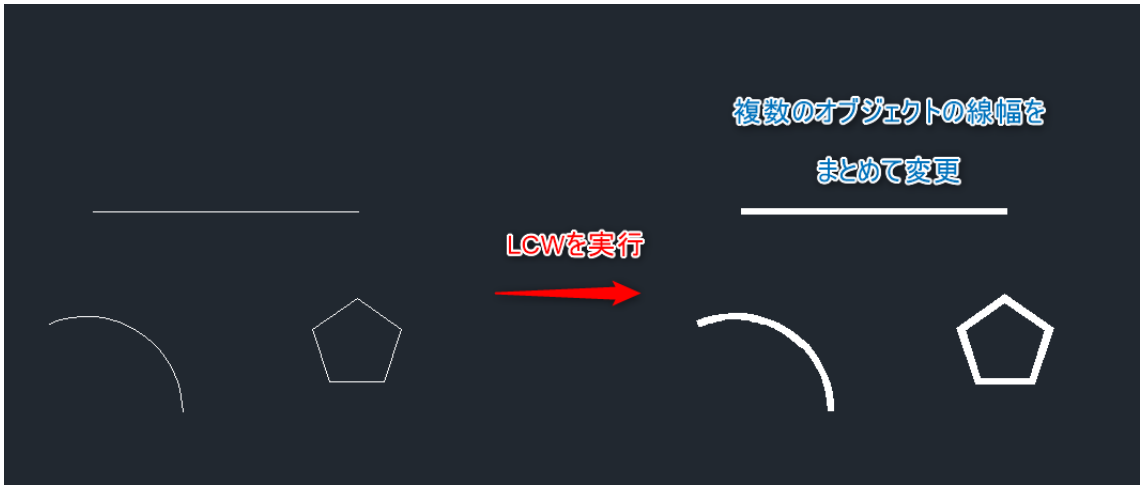
リボン　：［拡張ツール］＞［IJCAD ツール］＞［スーパーフィレット］
ツールバー　：［ET：IJCAD ツール］＞［スーパーフィレット］
メニューバー　：［拡張ツール］＞［IJCAD ツール］＞［スーパーフィレット］
コマンド　：SFILLET

LCW（線の太さを変更）

拡張ツール　互換機能

できること

選択した複数のオブジェクトの線の太さをまとめて変更することができます。



操作手順

① LCW コマンドを実行
② 線の太さを変更したいオブジェクトをすべて選択
③ 新しいオブジェクトの幅を入力
　→ 選択したオブジェクトの線の幅がまとめて変更されます

コマンドの場所

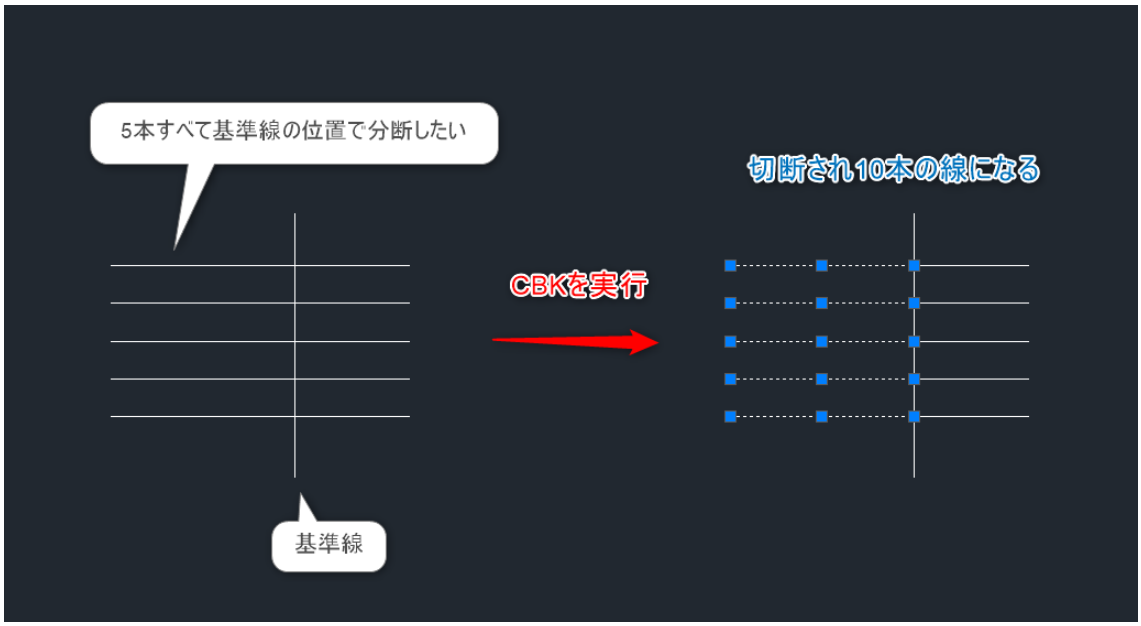
リボン　：［拡張ツール］＞［IJCAD ツール］＞［線の太さを変更］
ツールバー　：［ET：IJCAD ツール］＞［線の太さを変更］
メニューバー　：［拡張ツール］＞［IJCAD ツール］＞［線の太さを変更］
コマンド　：LCW

CBK（交差切断）

拡張ツール　互換機能

できること

複数の線分を、基準にする線分と交差した部分で切断して、別々のオブジェクトに分解します。



操作手順

① CBK コマンドを実行
② 切断の基準線を選択します
③ 切断したい線を選択します（複数の場合は 1 オブジェクトずつ選択していく）
　→ 指定した基準線との交差部分で線分が切断され、別々のオブジェクトに分解されます

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］＞［IJCAD ツール］＞［交差切断］

ツールバー　：［ET：IJCAD ツール］＞［交差切断］

メニューバー　：［拡張ツール］＞［IJCAD ツール］＞［交差切断］

コマンド　：CBK

補足

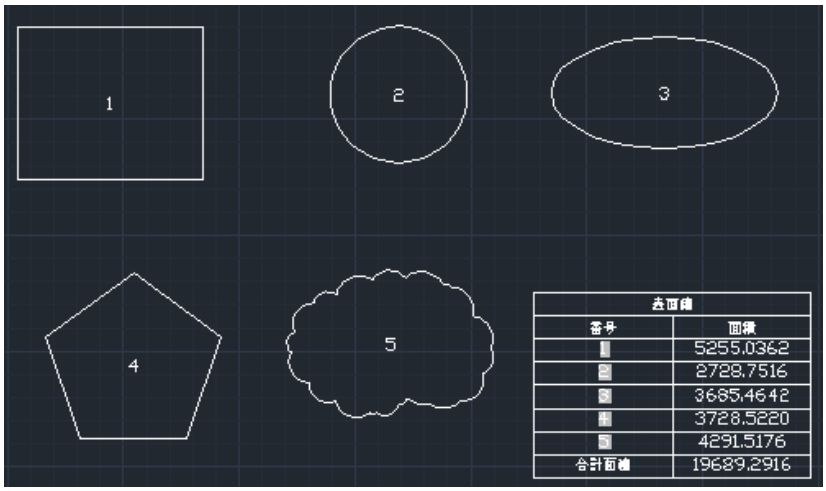
・CBKWID コマンドで、切断時の幅を指定できます。基準線を中心に指定した幅が切り取られます。

AREATABLE（面積表）

拡張ツール　独自機能

できること

閉じた領域または選択したオブジェクト内部の面積を計算し、面積表を作成します。面積表の作成をせずに、面積の値だけを挿入することもできます。



操作手順

面積表を作成する場合

① AREATABLE コマンドを実行
② 「テキスト設定」欄で面積か番号を選択
　面積：後に面積を測りたい領域を選択した際、各領域に面積の値が表示されます。
　番号：後に面積を測りたい領域を選択した際、各領域に番号が振られます。
③ 文字スタイルや文字高さ、最初の番号などを設定
④ 「表設定」欄の「表を作成する」をチェック
⑤ 「表設定」欄及び「単位の変換」欄の設定
⑥ OK ボタンを押下
⑦ 表挿入の基点位置をクリック
⑧ 面積を測定したい各領域を選択
⑨ ENTER キー押下

面積表を作成せずに各領域に面積を記入する場合

① AREATABLE コマンドを実行
② 「テキスト設定」欄で面積を選択
③ 文字スタイルや文字高さ、最初の番号などを設定
④ 「表設定」欄の「表を作成する」のチェックを外す
⑤ OK ボタンを押下
⑥ 面積を測定したい各領域を選択
⑦ ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］>［表］>［面積表］
ツール　：［作成］>［面積表］
メニュー　：［注釈］>［表］>［面積表］
コマンド　：AREATABLE

補足

- 「境界」欄に関する設定内容は以下の通り。
  - 点を指定：閉じた領域を指定します。
  - オブジェクトを選択：面積を計算するオブジェクトを選択します。
    - オブジェクトを選択すると、サイズを変更してもリアルタイムで面積に反映されます。
- ファイルを出力する：面積と番号を記録するテキストファイルを出力できます。
- 「テキスト設定」欄に関する設定内容は以下の通り。
  - 文字スタイル：面積や番号の文字に関する文字スタイルを指定します。
  - 文字の高さ：面積や番号の文字に関する文字高さを指定します。
  - 位置合わせ：面積や番号の文字に関する位置を指定します。
    - 中心：オブジェクトや閉じた領域の中心。
    - 点を指定：挿入点を指定します。
    - 引出線を追加：引出線で文字を記入します。引出線を追加する場合、面積の更新は REGEN コマンドで行います。
  - 最初の番号：開始番号を指定できます。
  - 面積の接頭辞：面積の値の先頭に付ける文字を指定します。

- 面積の接尾辞：面積の値の末尾に付ける文字を指定します。
- 番号の接頭辞：番号の値の先頭に付ける文字を指定します。
- 番号の接尾辞：番号の値の末尾に付ける文字を指定します。

・「表設定」欄に関する設定内容は以下の通り。

- 表を作成する：面積表を作成する場合にチェックします。
- 番号と関連付ける：番号と関連付ける場合チェックします。
- 面積の合計を計算する：表の一番下の行に、面積の合計を表示する場合、チェックします。
- 表スタイル：表スタイルを指定します。
- タイトル：面積表のタイトル名を入力します。
- 最初のヘッダ：一列目ヘッダ名を入力します。
- 2 番目のヘッダ：二列目のヘッダ名を入力します。

・「単位の変換」欄に関する設定内容は以下の通り。

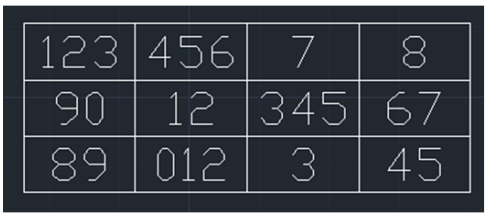
- 元の単位：測定する単位を指定します。
- 変換後の単位：変換後の単位を指定します。
- 比率：元の単位と変換後の単位から、変換を行う比率が表示されます。

GC_CTE（表を EXCEL 表に変換）

拡張ツール　独自機能

できること

表作成(BGE)コマンドを使用して線分として作成した表を、Excel で開くことができます。



123	456	7	8
90	12	345	67
89	12	3	45

操作手順

① GC_CTE コマンドを実行
② 表を選択(範囲選択)
③ ENTER キー押下
④ Excel で開かれる

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］＞［表］＞［表を Excel 表に変換］
ツール　：－
メニュー　：［拡張ツール］＞［表ツール］＞［CAD 表を Excel 表に変換］
コマンド　：GC_CTE

補足

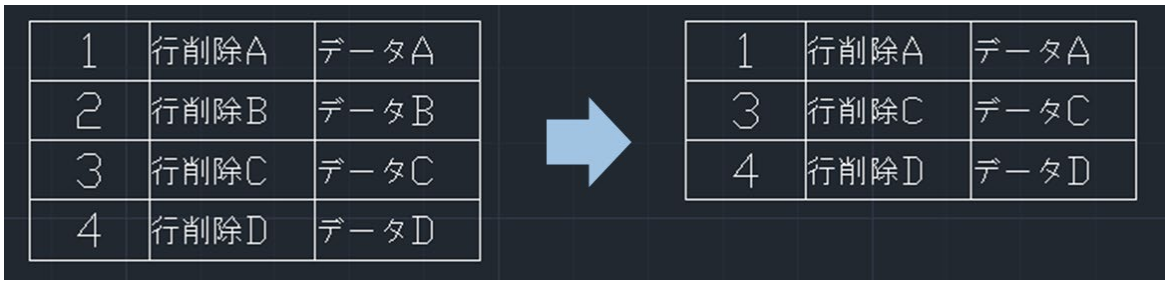
・　線分として作成されている表のみに適用できます。表オブジェクトには適用できません。

BGSH（行削除）

拡張ツール　独自機能

できること

表作成(BGE)コマンドを使用して線分として作成した表の行を削除します。



操作手順

① BGSH コマンドを実行
② 削除したい行の上でクリック

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］＞［表］＞［行削除］
ツール　：［ET：表ツール］＞［行削除］
メニュー　：［拡張ツール］＞［表ツール］＞［行削除］
コマンド　：BGSH

補足

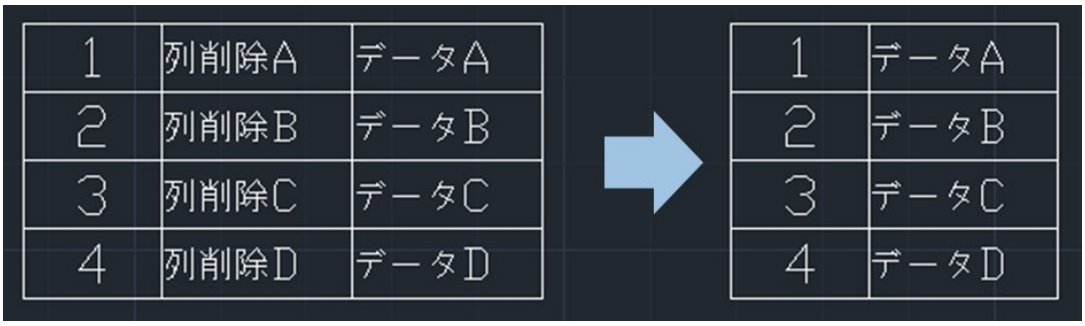
・　セルを結合した表で実行すると、意図しない動作となる可能性があります。 結合する前に、BGSH コマンドを実行してください。

BGSL（列削除）

拡張ツール　独自機能

できること

表作成(BGE)コマンドを使用して線分として作成した表の列を削除します。



操作手順

① BGSL コマンドを実行
② 削除したい列の上でクリック

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］＞［表］＞［列削除］
ツール　：［ET：表ツール］＞［列削除］
メニュー　：［拡張ツール］＞［表ツール］＞［列削除］
コマンド　：BGSL

補足

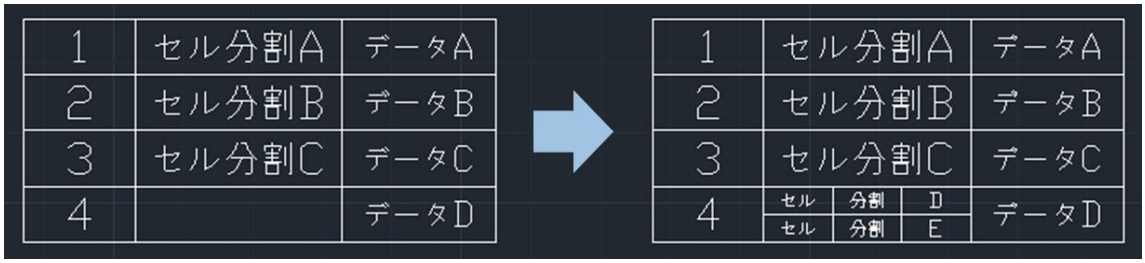
・　セルを結合した表で実行すると、意図しない動作となる可能性があります。 結合する前に、BGSL コマンドを実行してください。

BGF（セル分割）

拡張ツール　独自機能

できること

表作成(BGE)コマンドを使用して線分として作成した表のセルを分割します。

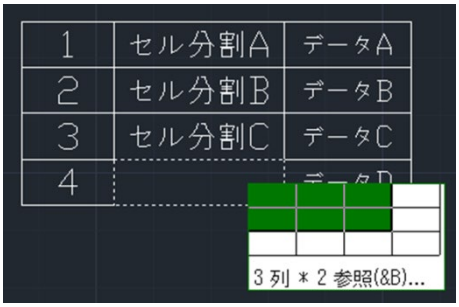


操作手順

① BGF コマンドを実行

② 分割したいセルの位置でクリック

③ 分割数の選択ウインドウで分割数を選択



④ ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］>［表］>［セル分割］

ツール　：［ET：表ツール］>［セル分割］

メニュー　：［拡張ツール］>［表ツール］>［セル分割］

コマンド　：BGF

補足

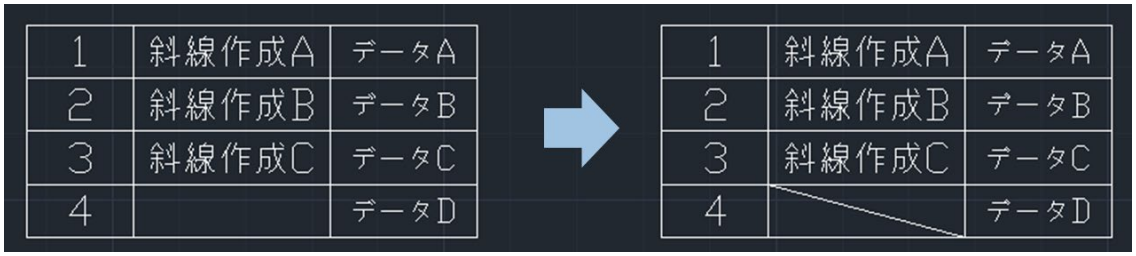
- セルを分割後に、BGMT（複数本の罫線をドラッグ）／BGST（１本の罫線をドラッグ）／BGZH（行挿入）／BGZL（列挿入）／BGSH（行削除）／BGSL（列削除）コマンドは使えません。
- セル分割前にセルにデータが入力してあった場合、そのデータは文字オブジェクトの為、そのまま残ります。手動で削除して下さい。

BGX（斜線作成）

拡張ツール　独自機能

できること

表作成(BGE)コマンドを使用して線分として作成した表に、斜線を作成します。



操作手順

① BGX コマンドを実行
② 斜線を作成したいセル内をクリック
③ 斜線の終点をクリック
④ ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：　－
ツール　：　[ET：表ツール] > [斜線作成]
メニュー　：　[拡張ツール] > [表ツール] > [斜線作成]
コマンド　：　BGX

補足

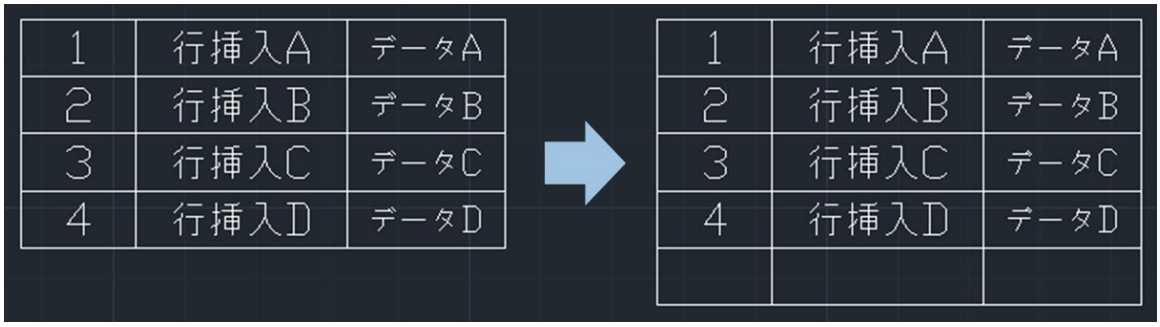
- コマンドを起動すると、自動でオブジェクトスナップが ON になります。 1 点目で、セル内のどの点にもスナップが効かないところをクリックした場合、自動でセルの左上の角にスナップされます。
- セルを結合した表で実行すると、意図しない動作となる可能性があります。 結合する前に BGX コマンドを実行してください。

BGZH（行挿入）

拡張ツール　独自機能

できること

表作成(BGE)コマンドを使用して線分として作成した表に、行を挿入します。



操作手順

① BGZH コマンドを実行

② 上段に行を追加するか、下段に行を追加するか選択

- デフォルトでは下段となる。上段にしたい場合は D を入力して ENTER キー押下

③ 行を追加したい位置をクリック

④ ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］>［表］>［行挿入］

ツール　：［ET：表ツール］>［行挿入］

メニュー　：［拡張ツール］>［表ツール］>［行挿入］

コマンド　：BGZH

補足

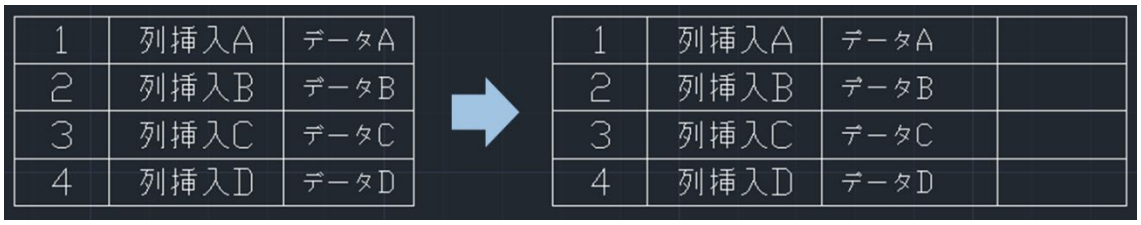
- 文字は移動されない為、セルの高さが同じである場合には最上段または最下段に行を追加しているように見えます。
- セルを結合した表で実行すると、意図しない動作となる可能性があります。 結合する前に、BGZH コマンドを実行してください。

BGZL（列挿入）

拡張ツール　独自機能

できること

表作成(BGE)コマンドを使用して線分として作成した表に、列を挿入します。



操作手順

① BGZL コマンドを実行

② 右に列を追加するか、左に列を追加するか選択

- デフォルトでは右となる。左にしたい場合は D を入力して ENTER キー押下

③ 行を追加したい位置をクリック

④ ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］＞［表］＞［列挿入］

ツール　：［ET：表ツール］＞［列挿入］

メニュー　：［拡張ツール］＞［表ツール］＞［列挿入］

コマンド　：BGZL

補足

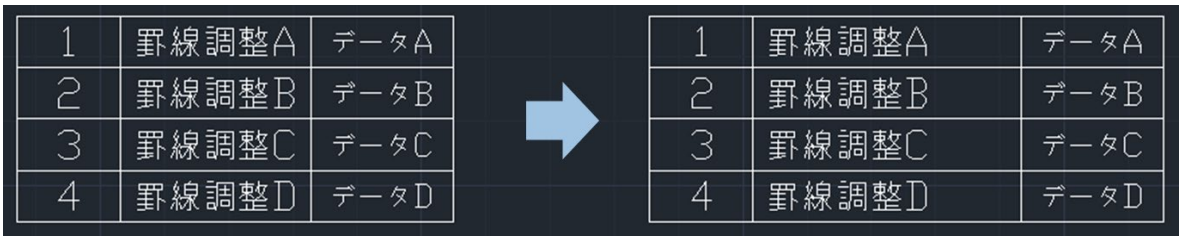
・　文字は移動されない為、セルの幅が同じである場合には表の一番右側または一番左側に列を追加しているように見えます。

BGMT（複数本の罫線をドラッグ）

拡張ツール　独自機能

できること

表作成(BGE)コマンドを使用して線分として作成した表で、セルの高さや幅を調整します。文字オブジェクトも連動して移動します。



操作手順

① BGMT コマンドを実行
② 高さや幅を調整したい罫線をクリック
③ プレビューを確認しながら調整したい位置でクリックまたは移動距離を入力
④ ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：[拡張ツール] > [表] > [複数本の罫線をドラッグ]
ツール　：[ET：表ツール] > [複数本の罫線をドラッグ]
メニュー　：[拡張ツール] > [表ツール] > [複数本の罫線をドラッグ]
コマンド　：BGMT

補足

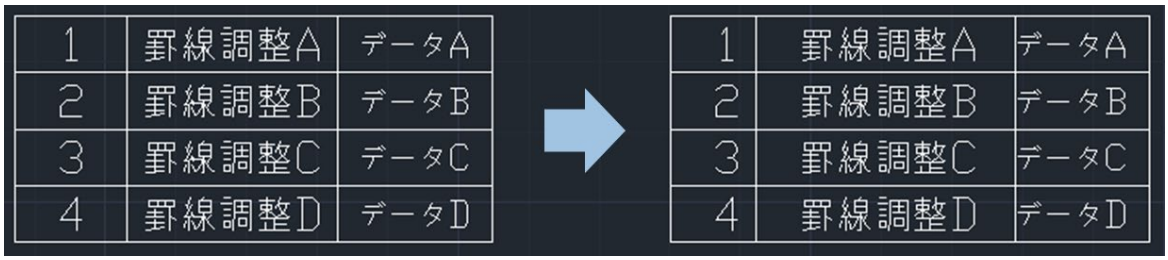
・　鉛直方向の罫線をクリックすると幅の調整となり、水平方向の罫線をクリックすると高さの調整となります。

BGST（1 本の罫線をドラッグ）

拡張ツール　独自機能

できること

表作成(BGE)コマンドを使用して線分として作成した表で、セルの高さや幅を調整します。表全体のサイズは変更されません。文字オブジェクトも移動しません。



操作手順

① BGST コマンドを実行
② 高さや幅を調整したい罫線をクリック
③ プレビューを確認しながら調整したい位置でクリックまたは移動距離を入力
④ ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：[拡張ツール] > [表] > [1 本の罫線をドラッグ]
ツール　：[ET：表ツール] > [1 本の罫線をドラッグ]
メニュー　：[拡張ツール] > [表ツール] > [1 本の罫線をドラッグ]
コマンド　：BGST

補足

・　鉛直方向の罫線をクリックすると幅の調整となり、水平方向の罫線をクリックすると高さの調整となります。

FORMTXT（表入力）

拡張ツール　独自機能

できること

表作成(BGE)コマンドを使用して線分として作成した表に、文字を入力します。

操作手順

① FORMTXT コマンドを実行
② 文字を挿入したいセル内をクリック
③ 文字を入力
④ 各セルに文字入力
⑤ ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：[拡張ツール] > [表] > [表入力]
ツール　：[ET：表ツール] > [表入力]
メニュー　：[拡張ツール] > [表ツール] > [表入力]
コマンド　：FORMTXT

補足

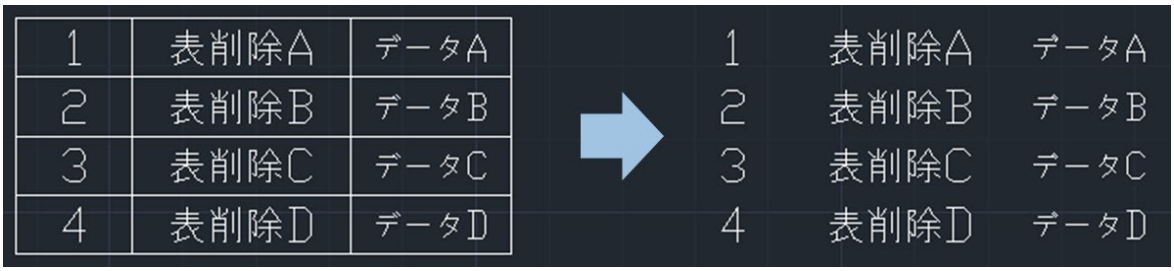
・ FORMTXT コマンド実行後のオプションとしてパラメータ設定(Q)がありますが、現時点ではパラメータ設定を行っても変更した設定が反映されません。

BGSC（表削除）

拡張ツール　独自機能

できること

表作成(BGE)コマンドを使用して線分として作成した表を削除します。



操作手順

① BGSC コマンドを実行
② 削除したい罫線を選択
③ ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：[拡張ツール] > [表] > [表削除]
ツール　：[ET：表ツール] > [表削除]
メニュー　：[拡張ツール] > [表ツール] > [表削除]
コマンド　：BGSC

補足

・　文字は削除できません。

図面ツール　ほか

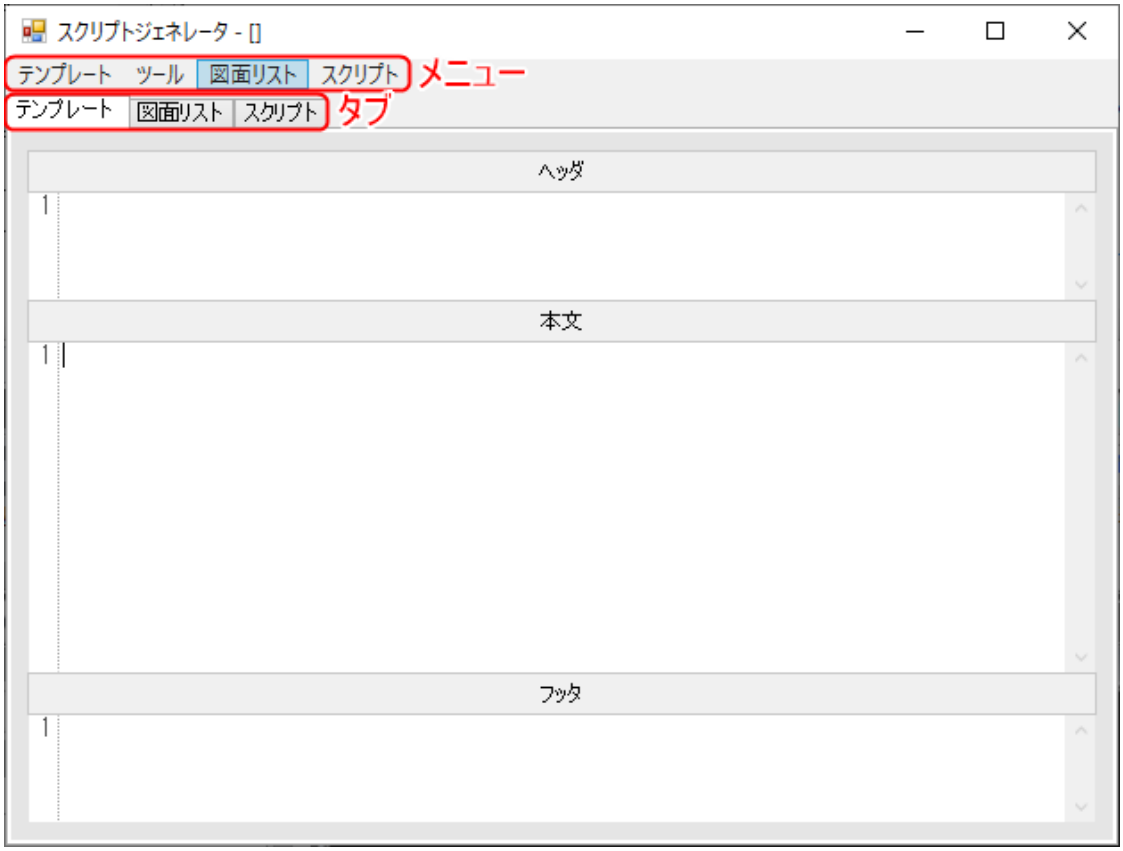
SCRIPTGENERATOR（スクリプトジェネレータ）.....149
IJLAYLIST（画層一覧表示）.....153
DWFIN（DWF 読み込み）.....157
KLL01（集計処理）.....159
OCMP（図形比較）.....162
CMP（図面比較）.....165
lockup（図面変更防止）.....167
BATPURGE（バッチ削除）.....168
PrintPlt（PLT 印刷）.....169
rtcur（リアルタイム回転）.....170
salpl（コード線）.....172
SUPERAXON（スーパー軸測）.....174
ZC（軸測）.....175
AUTOLAYER（オートレイヤー）.....176
CHANGEZ（Z 座標変更）.....178
GC_BOOLOP（ポリラインのブール演算）.....179
M2LVPORT（レイアウトビューポートを定義して作成）.....181

SCRIPTGENERATOR（スクリプトジェネレータ）

PLUS ツール　独自機能

できること

スクリプト処理を一つ、または複数の図面へ一括で適用させることができます。
同じ処理を複数の図面に適用させたい際に便利な機能です。
また、スクリプト用のテンプレートを作成し、保存することも可能です。
テンプレートを作成しておくと、適用先図面の指定と［スクリプトを作成］を選択するだけで各図面に適用できるスクリプトを作成できるため、スクリプト本文の作成工程を省略することが可能です。



操作手順

スクリプトの作成

① SCRIPTGENERATOR コマンドを実行
② テンプレートタブの「ヘッダ」にスクリプトの最初にのみ実行したい内容を記載 ※1
③ テンプレートタブの「本文」に複数の図面に適用させたい内容を記載　※2
④ テンプレートタブの「フッタ」にスクリプトの最後にのみ実行したい内容を記載　※1
⑤ 「図面リスト」タブに「本文」の処理を適用させたい図面をドラッグアンドドロップ
⑥ スクリプトメニューをクリックし「スクリプトを作成」を選択
→「スクリプト」タブにスクリプトが作成されます。
この後スクリプトの実行や保存を行う場合は「スクリプトの保存」や
「スクリプトの実行」をご覧ください。
※1：特にない場合は空欄でも構いません。
※2：図面ファイル名やパスを指定する場合、ファイル名やパスは画面上部の
「ツール」メニューを使用して入力してください

スクリプトの保存

① 「スクリプトの作成」を手順⑥まで実行する
② スクリプトメニューをクリックし「スクリプトを保存」を選択
③ 任意の場所、名称で保存する
→保存したスクリプトスクリプトファイルを作図画面にドラッグアンドドロップするか、
「Script」コマンドで選択することで実行できます。

スクリプトの実行

① 「スクリプトの作成」を手順⑥まで実行する
② スクリプトメニューをクリックし「スクリプトを実行」を選択
③ 任意の場所、名称で保存する
※既に保存したスクリプトを実行するにはスクリプトファイルを作図画面に
ドラッグアンドドロップするか、「Script」コマンドで選択することで実行できます。

テンプレートの作成と保存

① SCRIPTGENERATOR コマンドを実行
② テンプレートタブの「ヘッダ」にスクリプトの最初にのみ実行したい内容を記載 ※1
③ テンプレートタブの「本文」に複数の図面に適用させたい内容を記載　※2
④ テンプレートタブの「フッタ」にスクリプトの最後にのみ実行したい内容を記載　※1
⑤ テンプレートメニューをクリックし「名前をつけて保存(A)」を選択
⑥ 任意の場所、名称で保存する
　→上記で保存は完了です。

※1：特にない場合は空欄でも構いません。

※2：図面ファイル名やパスを指定する場合、ファイル名やパスは画面上部の

　「ツール」メニューを使用して入力してください

次回以降テンプレートを適用させたい場合は以下操作を行ってください。

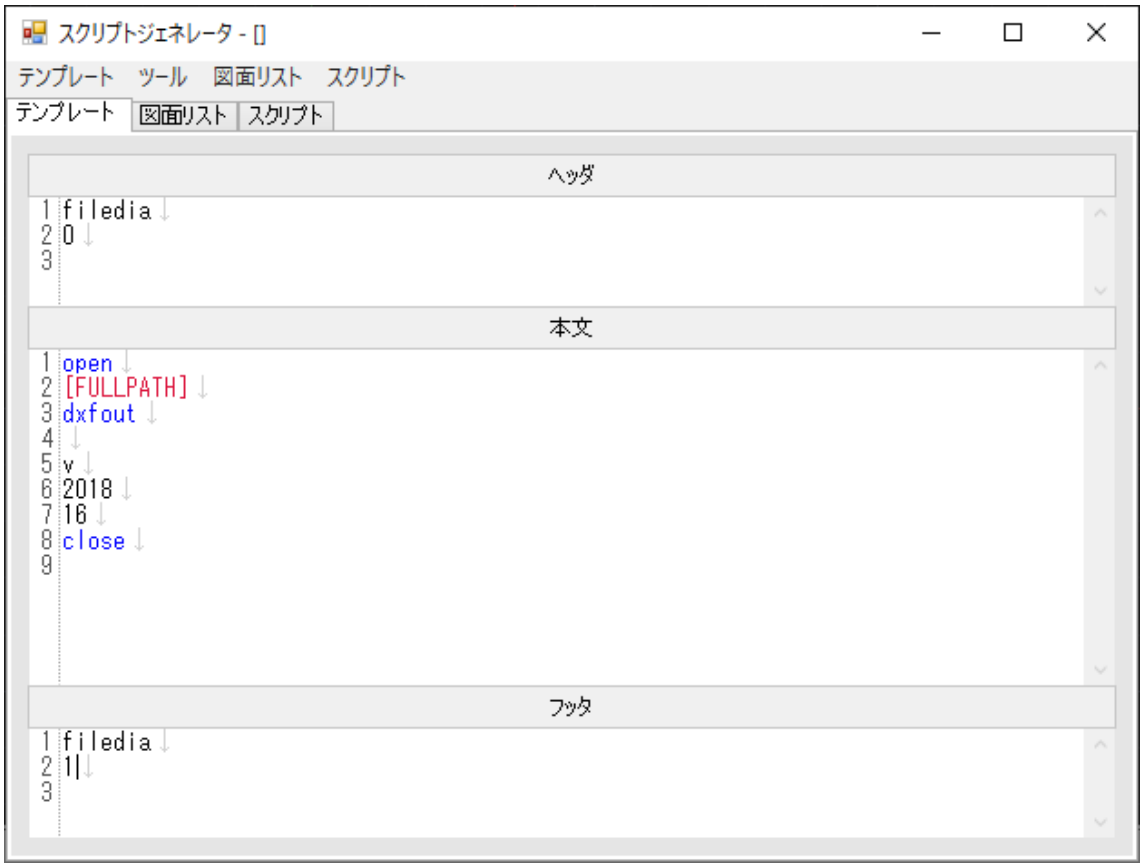
テンプレートの適用

① テンプレートメニューをクリックし「開く(O)」を選択
② 適用させたいテンプレートファイル(拡張子が*.tscr のファイル)を選択して[開く]クリック
　→上記でテンプレートの適用が完了します。

　この後、「図面リスト」タブに「本文」の処理を適用させたい図面をドラッグアンドドロップし、スクリプトメニューからスクリプトを作成、または実行してください。

使用例

DWG ファイルを DXF2018 形式のファイルに変換



コマンドの場所

リボン ： [PLUS] > [スクリプトジェネレータ]

ツールバー ： [PLUS] > [スクリプトジェネレータ]

メニューバー ： [PLUS ツール] > [スクリプトジェネレータ]

コマンド ： SCRIPTGENERATOR

補足

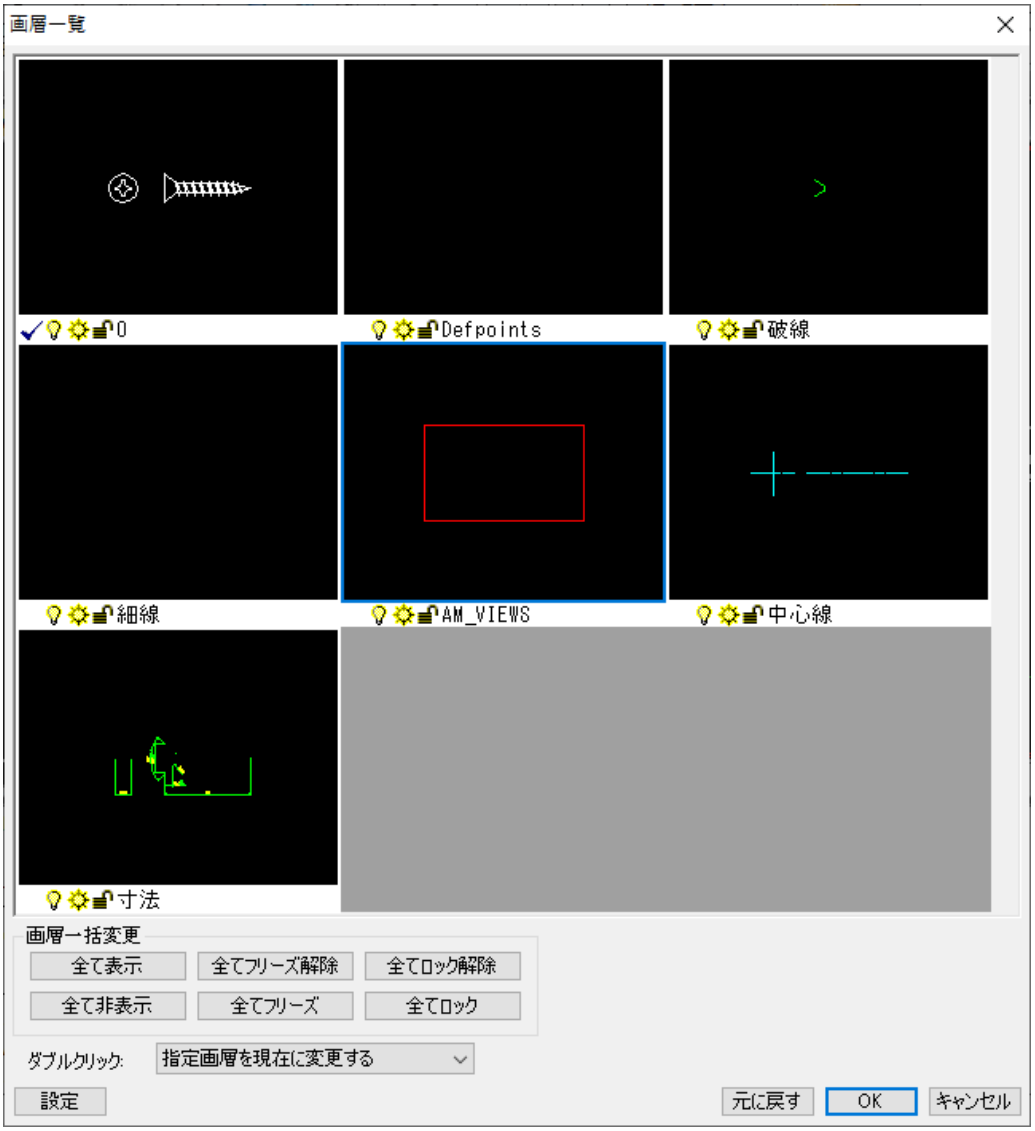
・エイリアスは使用できません。コマンドは省略せずに記入してください。

IJLAYLIST（画層一覧表示）

PLUS ツール　独自機能

できること

画層ごとにオブジェクトを表示します。



画層一覧ダイアログ上にて、各画層の表示/非表示、フリーズ/フリーズ解除、ロック/ロック解除が可能です。

画層一括変更を指定することで、すべての画層に対し状態を変更することができます。
※現在の画層に対してフリーズはできません。

ダブルクリックでの動作を指定することで、指定した画層のみ表示させることや、指定した画層を現在の画層にすることができます。

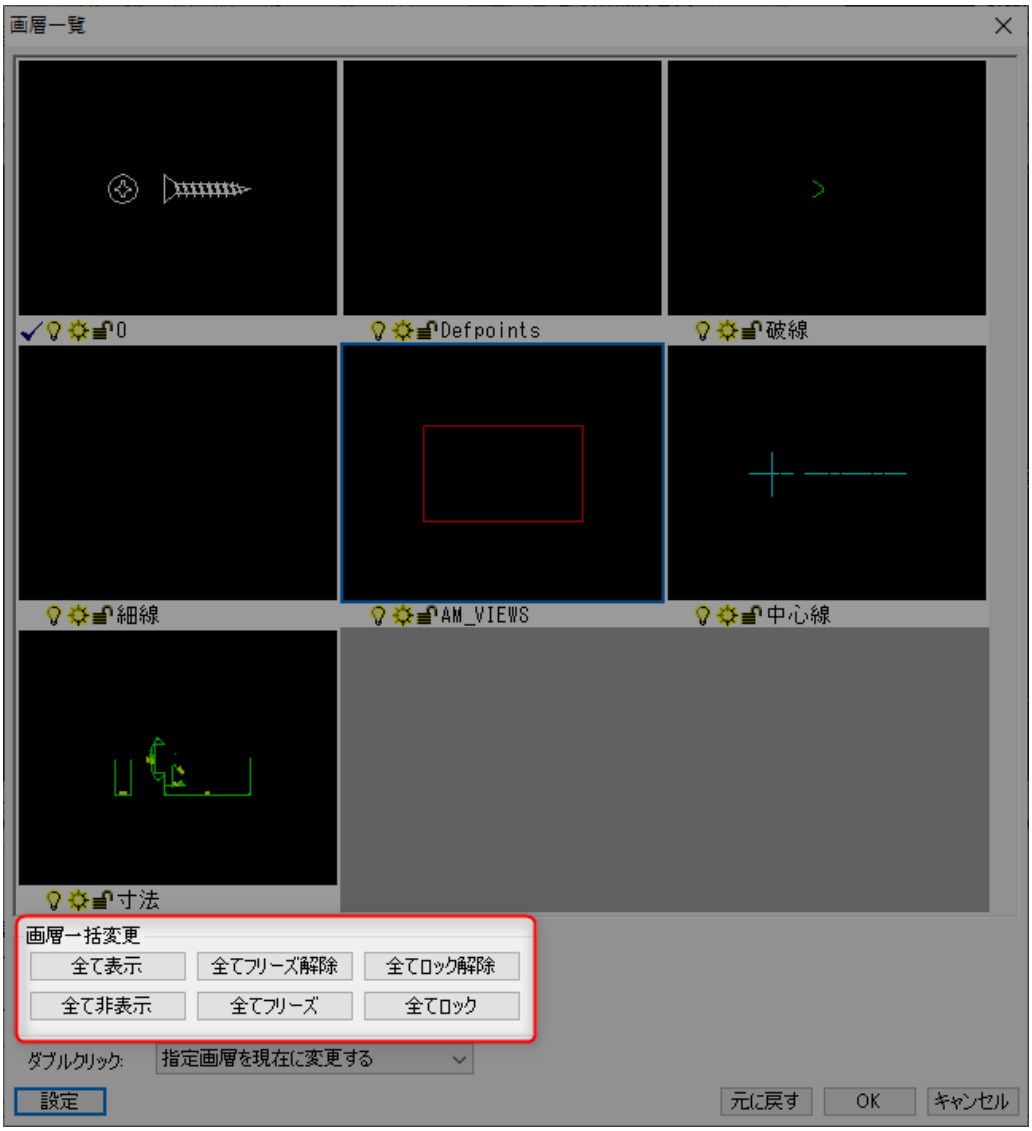
操作手順

画層一覧を表示する

① IJLAYLIST コマンドを実行

すべての画層に対して一括で操作を行う

① IJLAYLIST コマンドを実行
② 画層一括変更の中から任意のボタンをクリック



画層一覧表示自体の設定を変更する

① 左下にある[設定]ボタンをクリック

② 表示サイズ、縦横の個数を任意の値に変更する

※個数は横 1~9、縦 1~4 の範囲で設定してください。

コマンドの場所

リボン ： [PLUS] > [PLUS] > [画層一覧表示]

ツールバー ： [PLUS] > [画層一覧表示]

メニューバー ： [PLUS ツール] > [画層一覧表示]

コマンド ： IJLAYLIST

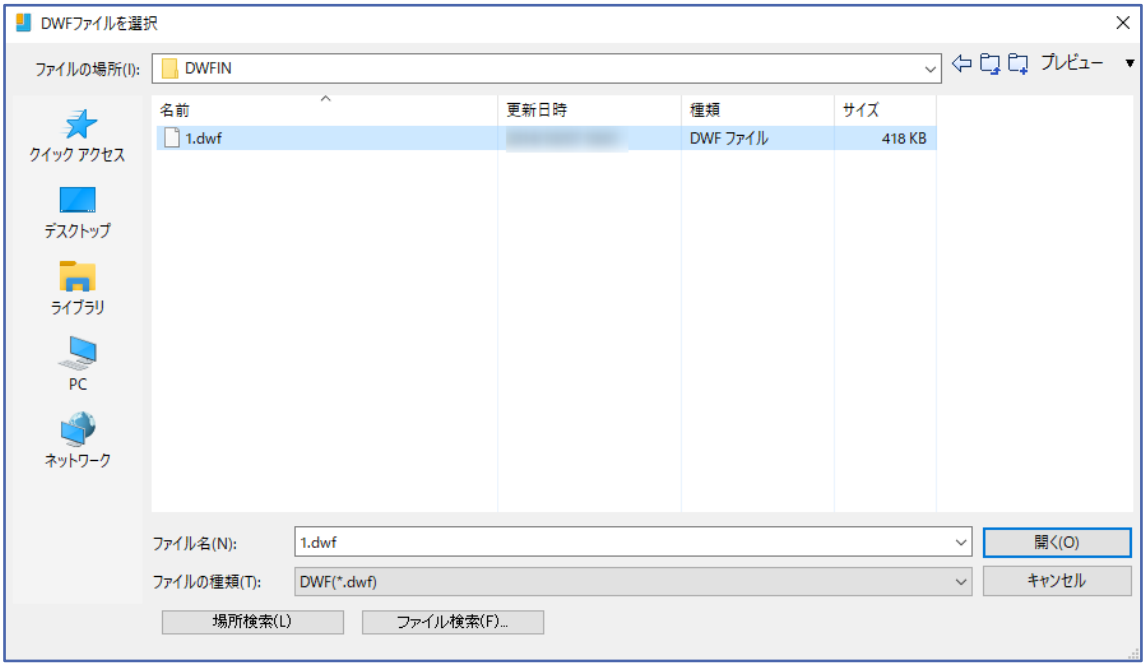
DWFIN（DWF 読み込み）

PLUS ツール　独自機能

できること

AutoCAD の「DWF ファイル」の内容を dwg 形式ファイル上に読み込むことが出来ます。

※読み込み対象のファイルサイズによっては、読み込みに時間がかかる場合があります。



操作手順

① DWFIN コマンドを実行

② ダイアログ上で対象の dwf ファイルを選択

③ 「開く」を押しデータが読み込まれるのを待つ

→dwf ファイルの内容がブロックオブジェクトとして読み込まれます。

コマンドの場所

リボン　：[PLUS] > [DWF] > [dwf 読み込み]

ツールバー　：[PLUS] > [dwf 読み込み]

メニューバー　：[PLUS ツール] > [dwf 読み込み]

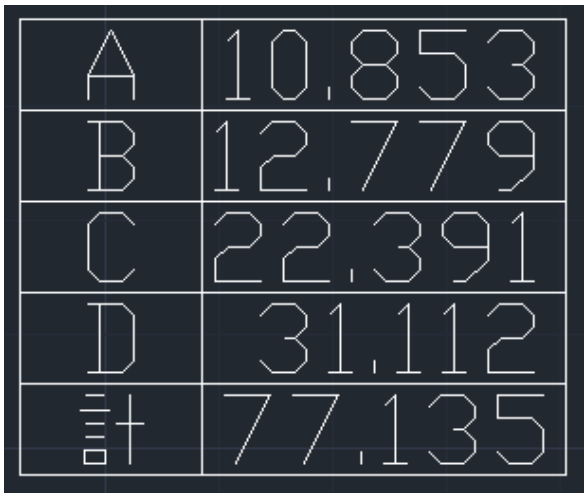
コマンド　：DWFIN

KLL01（集計処理）

拡張ツール　独自機能

できること

文字列の中の数値を合計し、計算結果を入力します。
マルチテキストで改行されている数値は１行目のみ集計されます。
間にスペースが入っていると、スペースの前までを１つの数値と認識し、集計対象とします。



操作手順

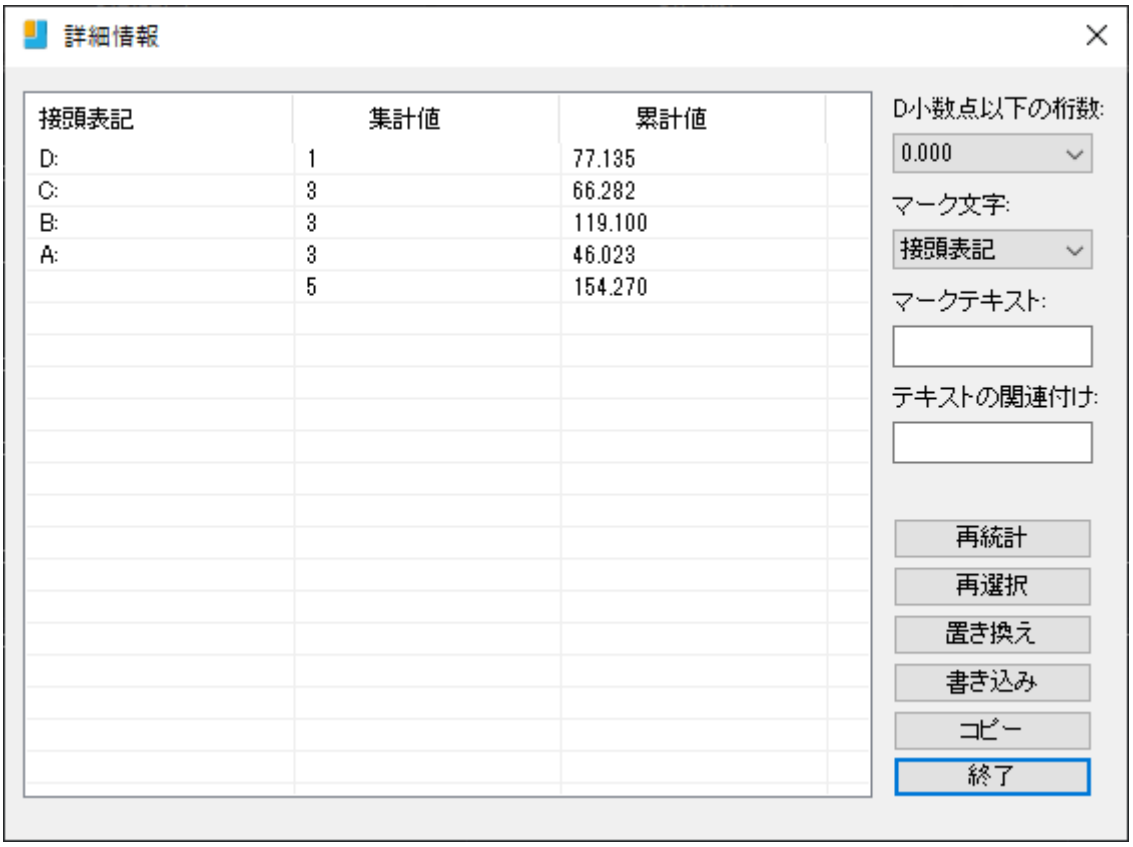
① KLL01 コマンドを実行
② 集計対象の文字を選択
③ ENTER キー押下
④ 詳細設定ダイアログで集計操作を実行
⑤ 終了ボタン押下

コマンドの場所

リボン　：［注釈］＞［文字］＞［集計処理］
ツール　：［ET：グループ ツール］＞［集計処理］
メニュー　：［文字］＞［集計処理］
コマンド　：KLL01

補足

・　詳細設定ダイアログで実施できる操作は以下となります。

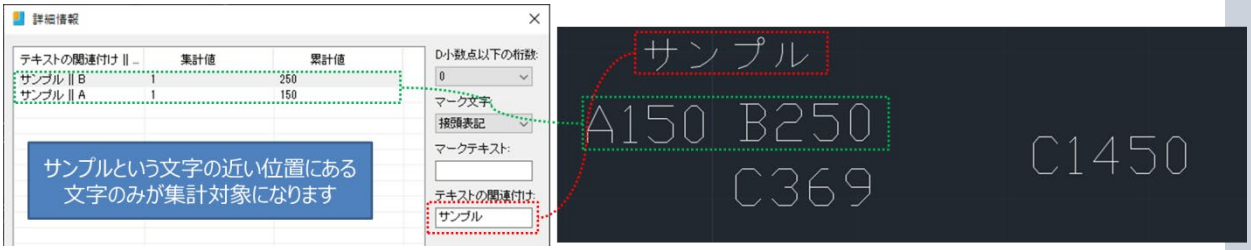


D 小数点以下の桁数：累計値に表示される小数点以下の桁数を指定します。
マーク文字＞接頭表記：数値の前に入力されている文字列で集計対象を区分けします。
マーク文字＞接尾表記：数値の後に入力されている文字列で集計対象を区分けします。
マークテキスト：入力したテキストの文字で絞り込みます。入力後には「再統計」を行います。
テキストの関連付け：図面中の文字オブジェクトと同一の文字列を入力することで、その文字オブジェクトに近い位置にある文字オブジェクトを集計対象とします。

再統計　：統計し直します。
再選択　：オブジェクトを選択し直します。
置き換え：オブジェクトを選択し、累計値と置き換えます。
書き込み：累計値を文字列として図面に入力します。

コピー　：計算結果をクリップボードにコピーして、ほかのファイルに貼り付けることができます。
終了　　：操作を終了します。

- テキストの関連付けに関する補足
  テキストの関連付けは、下図のようなイメージで近くにある文字のみを集計対象とします。
  ※入力後、再統計が必要です。



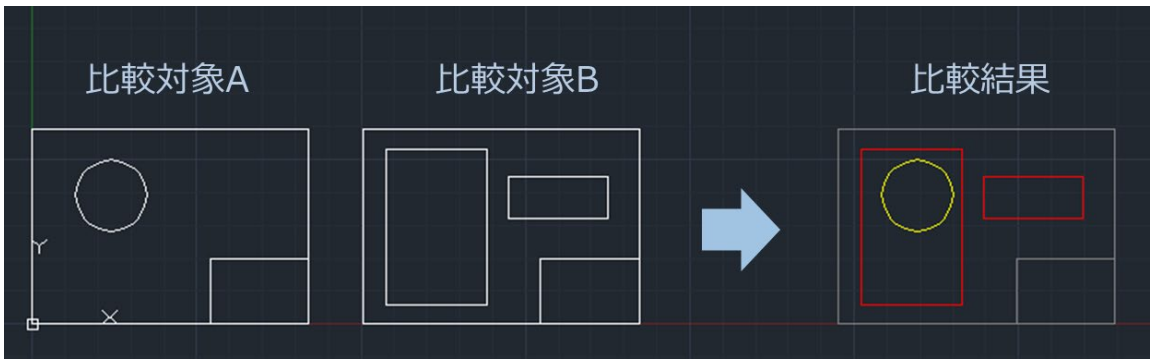
サンプルという文字が別の場所にも配置されている場合はその文字の近くにある文字も集計対象になります。入力は完全一致の文字列を入力する必要があります。

OCMP（図形比較）

拡張ツール　独自機能

できること

２つのオブジェクトまたはファイルを比較します。比較結果を現在の図面に挿入、またはファイルとして保存します。文字オブジェクトは比較対象となりません。



操作手順

開いている図面内にあるオブジェクト同士を比較する場合

① OCMP コマンドを実行
② 「オブジェクトを選択」を選択
③ 「比較元のオブジェクトと基点を選択」ボタンを押下
④ 比較元となるオブジェクトを選択し、ENTER キー押下
⑤ 比較元の基点位置をクリック
⑥ 「比較先のオブジェクトと基点を選択」ボタンを押下
⑦ 比較先となるオブジェクトを選択し、ENTER キー押下
⑧ 比較先の基点位置をクリック
⑨ 「図形を出力」欄で、比較結果の処理方法を選択
- 現在のドキュメントに挿入：比較結果を現在の図面にオブジェクトとして挿入します
- ファイルに出力：比較結果をファイルとして保存します

⑩ （「ファイルに出力」を選択した場合）　「…」ボタンを押下し、保存先とファイル名を設定
⑪ 「出力設定」ボタンを押下し、出力状態の設定
⑫ 「OK」ボタンを押下

⑬（「現在のドキュメントに挿入」を選択した場合） 挿入基点位置をクリック
（「ファイルに出力」を選択した場合） ファイルが保存される

ファイル同士を比較する場合

① OCMP コマンドを実行
② 「ファイルを指定」を選択
③ 「比較元のファイル」欄の右にある「…」ボタンをクリックし、比較元ファイルを選択
④ 「比較先のファイル」欄の右にある「…」ボタンをクリックし、比較先ファイルを選択
⑤ 「図形を出力」欄で、比較結果の処理方法を選択
- 現在のドキュメントに挿入：比較結果を現在の図面にオブジェクトとして挿入します
- ファイルに出力：比較結果をファイルとして保存します

⑥（「ファイルに出力」を選択した場合） 「…」ボタンを押下し、保存先とファイル名を設定
⑦ 「出力設定」ボタンを押下し、出力状態の設定
⑧ 「OK」ボタンを押下
⑨（「現在のドキュメントに挿入」を選択した場合） 挿入基点位置をクリック
（「ファイルに出力」を選択した場合） ファイルが保存される

コマンドの場所

リボン ： [拡張ツール] > [図面] > [図形比較]
ツール ： -
メニュー ： [拡張ツール] > [図面ツール] > [図形比較]
コマンド ： OCMP

補足

出力設定ボタン押下時に表示されるダイアログの内容は以下の通り。

・　比較元の図面にのみ存在するオブジェクト
　⇒比較元の図面にのみ存在するオブジェクトの結果を表示するときの 画像/色/線種 を設定します。

・　比較先の図面にのみ存在するオブジェクト
　⇒比較先の図面にのみ存在するオブジェクトの結果を表示するときの 画像/色/線種 を設定します。

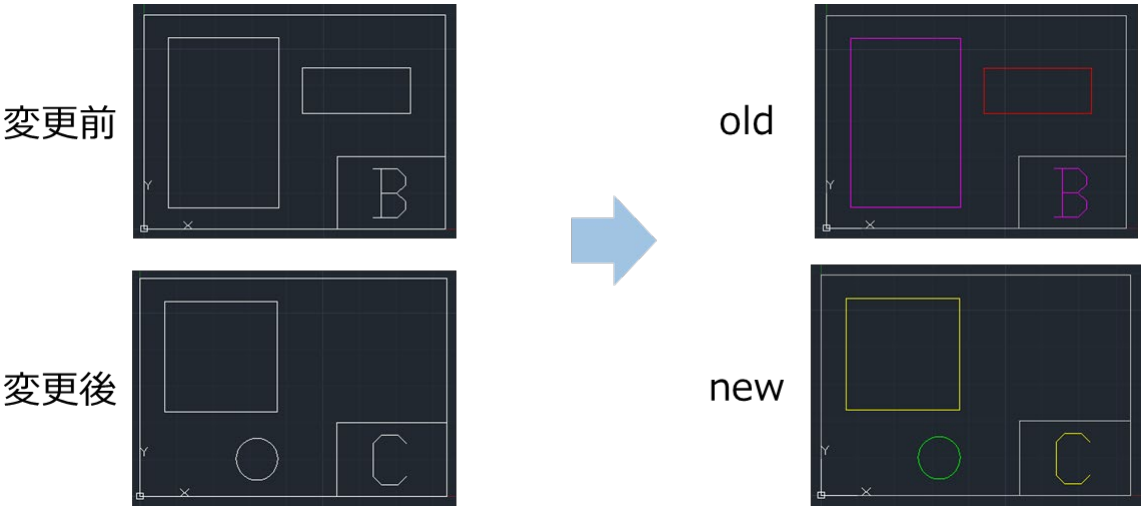
・　一致するオブジェクト
　⇒比較元と比較先で一致するオブジェクトの結果を表示するときの 画像/色/線種 を設定します。

CMP（図面比較）

拡張ツール　独自機能

できること

２つのファイルを比較し、比較結果を表示または保存します。比較元の結果は「***_old.dwg」、比較先の結果は「***_new.dwg」となります。



操作手順

① CMP コマンドを実行
② 「比較元」欄の右にある「参照」ボタンを押下し、比較元ファイルを選択
③ 「比較先」欄の右にある「参照」ボタンを押下し、比較先ファイルを選択
④ 保存欄にチェック
⑤ 「保存先」欄の右にある「参照」ボタンを押下し、保存先を選択
⑥ 「設定」ボタンを押下し、比較設定を実施
⑦ 「比較」ボタン押下

コマンドの場所

リボン　：[拡張ツール] > [図面] > [図面比較]
ツール　：－
メニュー　：[拡張ツール] > [図面ツール] > [図面比較]
コマンド　：CMP

補足

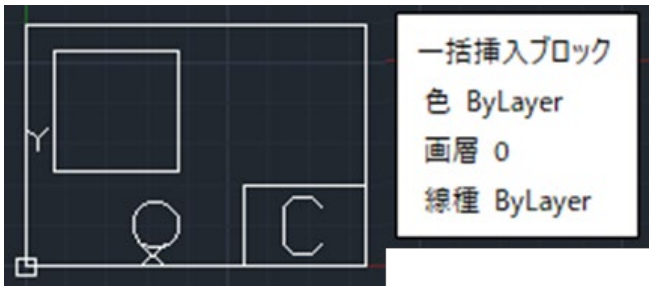
- 手順④で保存にチェックを入れなくても比較は可能です。その場合、一時ファイルとして保存された結果ファイルが表示されます。
- 設定ボタンで実施できる設定は以下の通り。
  - 比較精度：図面比較の精度を設定します。
  - 比較属性：比較対象とする属性を設定します。
  - マークの色：それぞれの結果を表示する色を指定します。

LOCKUP（図面変更防止）

拡張ツール　独自機能

できること

図面にロックをかけて編集できないようにします。



操作手順

① LOCKUP コマンドを実行
② 警告メッセージの OK を押下
③ ロック対象のオブジェクトを選択
④ ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］＞［図面］＞［図面変更防止］
ツール　：－
メニュー　：［拡張ツール］＞［図面ツール］＞［図面変更防止］
コマンド　：LOCKUP

補足

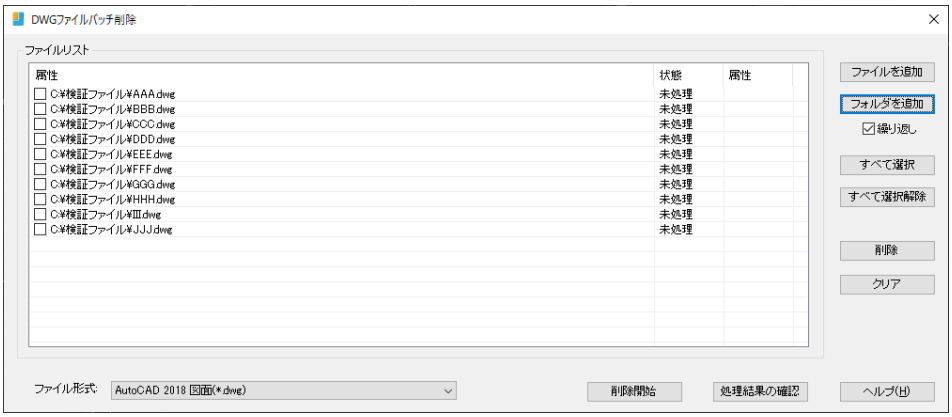
・ ロックをかけると編集が行えなくなりますので、バックアップを取得しておいてください。

BATPURGE（バッチ削除）

拡張ツール　独自機能

できること

DWG ファイルの保存バージョンの変換や削除を一括で行うことができます。



操作手順

① BATPURGE コマンドを実行

② 「ファイルを追加」「フォルダを追加」ボタンで対象ファイルを選択

③ 一覧表示されているファイルの内、変換対象としたいファイルの左側のチェックボックスにチェック

※「すべて選択」や「選択解除」、「削除」「クリア」などを使用することができます。

④ ファイル形式のプルダウンから、変換対象のファイルバージョンを選択

⑤ 「削除開始」ボタンを押下

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］＞［図面］＞［バッチ削除］

ツール　：－

メニュー　：［拡張ツール］＞［図面ツール］＞［バッチ削除］

コマンド　：BATPURGE

PRINTPLT（PLT 印刷）

拡張ツール　独自機能

できること

PLT ファイルを使用して印刷することができます。

操作手順

① PRINTPLT コマンドを実行
② プリンターを選択し、「印刷」ボタンを押下
③ PLT ファイルを選択
④ 「X 個のファイルを印刷用に選択しました。実際 X 個のファイルを印刷しました」のメッセージで「OK」を押下

コマンドの場所

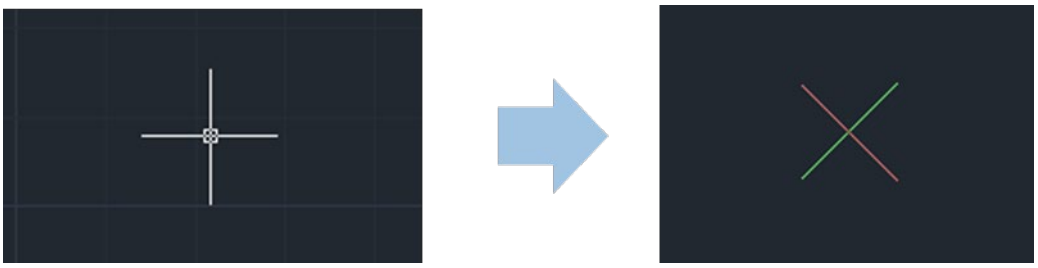
リボン　：［拡張ツール］＞［図面］＞［PLT 印刷］
ツール　：－
メニュー　：［拡張ツール］＞［図面ツール］＞［PLT 印刷］
コマンド　：PRINTPLT

RTCUR（リアルタイム回転）

拡張ツール　独自機能

できること

カーソルの角度を変更します。コマンドラインを確認しながらカーソルを回転します。
コマンドラインに現在のカーソルの角度が 0～359 度で表記されます。



操作手順

① RTCUR コマンドを実行
② コマンドラインを確認しながらカーソル角度調整
- 反時計回り(A)：角度が１５度プラスされます。
- 反時計回り微調整(W)]：１度ずつプラスされます。
- 時計回り(D)：角度が１５度マイナスされます。
- 時計回り微調整(S)：１度ずつマイナスされます。
- 標準：カーソルの角度が標準（０度）に戻り、コマンドが終了します。

③ ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］＞［IJCAD ツール］＞［リアルタイム回転］
ツール　：［ET：IJCAD ツール］＞［リアルタイム回転］
メニュー　：［拡張ツール］＞［IJCAD ツール ］＞［回転カーソル］＞［リアルタイム回転］
コマンド　：RTCUR

補足

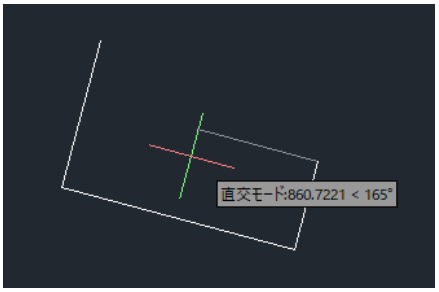
・ SALPL（コード線）コマンド実行時に、ここで傾けた角度でコード線を作図することができます。

SALPL（コード線）

拡張ツール　独自機能

できること

カーソルを回転させて直交モードの傾きを変更することで、指定した角度のポリラインを描画することができます。
投影図を作図する際に便利なコマンドです。



操作手順

① SALPL コマンドを実行
② 線の幅を入力
③ 線分作成の開始点でクリック
④ 角度設定が必要な場合、以下のいずれかを入力して ENTER キー押下
- I：角度を入力
- .：0 度
- /：45 度

⑤ 線分作成
⑥ ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］>［IJCAD ツール］>［コード線］
ツール　：［ET：IJCAD ツール］>［コード線］
メニュー　：［拡張ツール］>［IJCAD ツール］>［コード線］
コマンド　：SALPL

補足

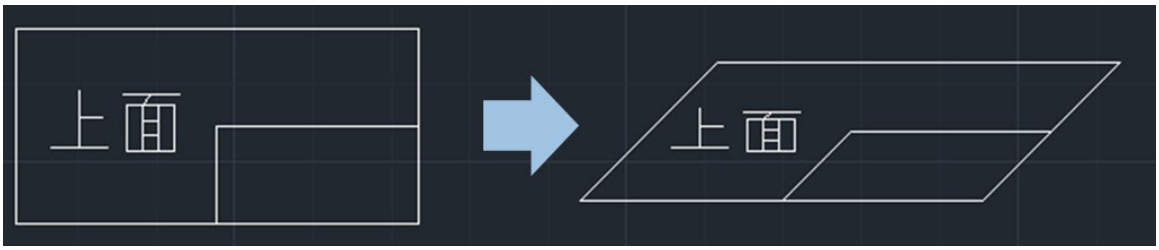
・ SASCL(作図尺度)および RTCUR(リアルタイム回転)などと組み合わせて利用すると便利です。

SUPERAXON（スーパー軸測）

拡張ツール　独自機能

できること

オブジェクトを任意の角度で傾けます。



操作手順

① SUPERAXON コマンドを実行
② 傾けるオブジェクトを選択し、ENTER キー押下
③ 角度を入力し、ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：［拡張ツール］＞［IJCAD ツール］＞［スーパー軸測］
ツール　：［ET：IJCAD ツール］＞［スーパー軸測］
メニュー　：［拡張ツール］＞［IJCAD ツール］＞［スーパー軸測］
コマンド　：SUPERAXON

補足

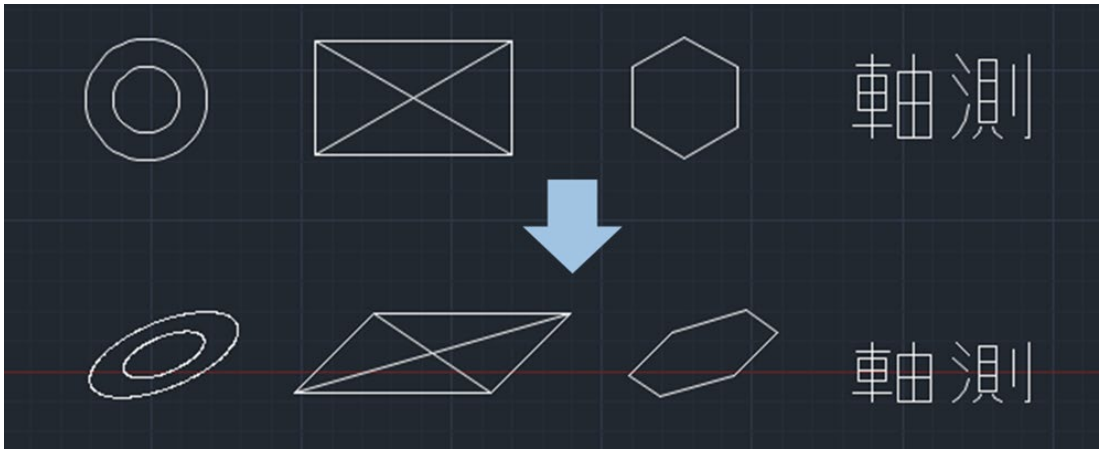
・　軸測(ZC)と同じ動きとなります。

ZC（軸測）

拡張ツール　独自機能

できること

線分、ポリライン、テキスト、ブロック等のオブジェクトをアイソメ角度に傾けます。



操作手順

① ZC コマンドを実行
② アイソメ角度に傾けたいオブジェクトを選択し、ENTER キー押下
③ 角度を指定して、ENTER キー押下

コマンドの場所

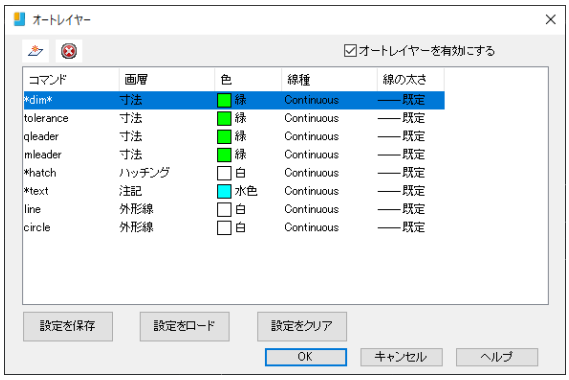
リボン　：　－
ツール　：　－
メニュー　：　－
コマンド　：　ZC

AUTOLAYER（オートレイヤー）

拡張ツール　独自機能

できること

コマンドの名前に応じて、対応するレイヤーを定義できます。該当するコマンドが実行されると、事前に定義した設定で自動的にレイヤーが生成されます。



操作手順

コマンドに画層を定義する場合

① AUTOLAYER コマンドを実行
② 「画層設定を作成」ボタンを押下
③ 新しく追加された行にコマンド名・画層名を入力し、色・線種・太さを設定
　※複数のコマンドを同じ画層にする場合は、画層名を同名に設定する。
④ 「オートレイヤーを有効にする」にチェック
⑤ 「OK」ボタンを押下

コマンドの場所

リボン　：　-
ツール　：　-
メニュー　：　-
コマンド　：　AUTOLAYER

補足

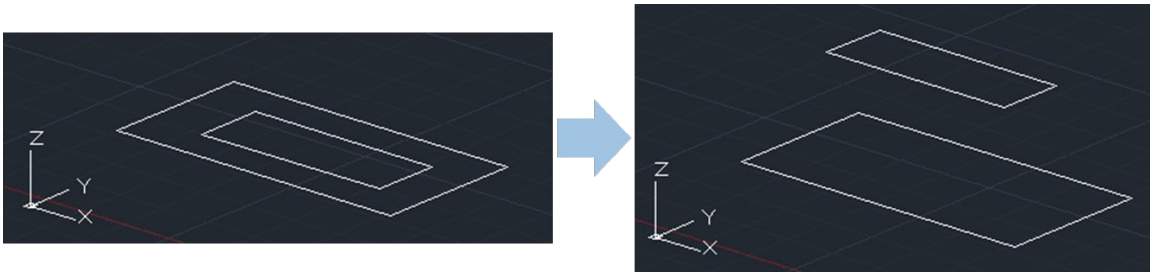
- コマンド名にはワイルドカード(*)を使用することができます。
- 各ボタンの内容は以下の通り。
  - 設定を保存：現在の画層設定ファイルを外部に ini ファイルとして保存します。
  - 設定をロード：外部ファイルから、画層設定ファイルを読み込みます。
  - 設定をクリア：現在の画層設定をクリアにします。

CHANGEZ（Z 座標変更）

拡張ツール　独自機能

できること

選択したオブジェクトの Z 座標値を変更することができます。



操作手順

① CHANGEZ コマンドを実行
② Z 座標を変更したいオブジェクトを選択
③ Z 座標値を入力
④ ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：　-
ツール　：　-
メニュー　：　[拡張ツール] > [座標ツール] > [Z 座標変更]
コマンド　：　CHANGEZ

補足

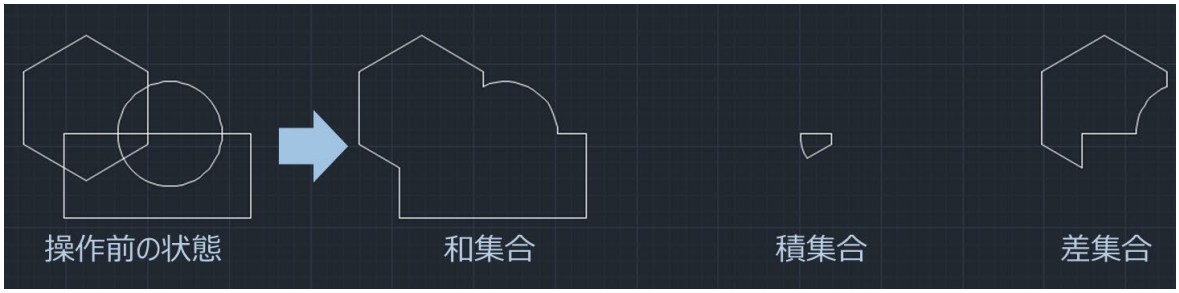
・　対象は 2D オブジェクトのみとなります。3D には適用できません。

GC_BOOLOP（ポリラインのブール演算）

拡張ツール　独自機能

できること

ポリライン同士を加算・除算した場合や共通部の外形に変換することができます。
和集合：加算／積集合：共通部／差集合：除算



操作手順

① GC_BOOLOP コマンドを実行
② ブール操作オプションダイアログで「和集合」「積集合」「差集合」から実行するブール演算のタイプを選択
③ 基準となるオブジェクトを選択
④ 2 番目のオブジェクトを選択（複数選択可）
⑤ ENTER キー押下

コマンドの場所

リボン　：　－
ツール　：　－
メニュー　：　－
コマンド　：　GC_BOOLOP

補足

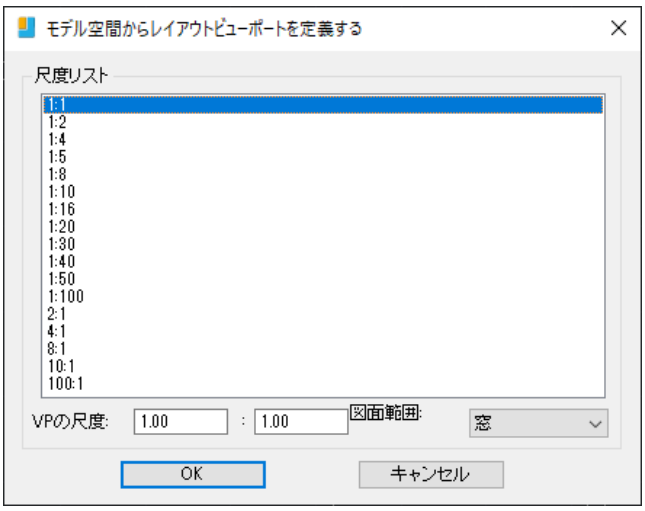
- 選択できるのは、ポリラインまたは円のみとなります。
- ブール操作オプションダイアログの「2番目の選択オブジェクトを削除」にチェックを入れた場合、ブール演算結果の形状以外は全て削除されます。

M2LVPORT（レイアウトビューポートを定義して作成）

拡張ツール　独自機能

できること

モデル空間上で、ビューポートの範囲や尺度を定義することができます。ビューポートを定義すると、レイアウト空間にビューポートを作成できます。



操作手順

① M2LVPORT コマンドを実行

② 尺度リストから作成したいビューポートの尺度を選択

③ 図面範囲のプルダウンから、ビューポートで表示したい範囲を選択

- 許容限界：図面範囲設定で指定した図面範囲となります。
- 窓：窓選択で図面範囲を選択します。
- 範囲：オブジェクト範囲となります。
- 表示：コマンド実行時に画面に表示されている範囲となります。

④ （窓の場合）図面範囲を選択

⑤ ビューポートを作成するレイアウトを選択して、「OK」ボタン押下

⑥ レイアウト空間で、作成するビューポートの基点位置（左下）でクリック

コマンドの場所

リボン　：［レイアウト］>［レイアウト ビューポート］>［ウインドウ］
ツール　：-
メニュー　：-
コマンド　：M2LVPORT

システムメトリックス株式会社

Web ： https://www.ijcad.jp/

ヘルプセンター（お問い合わせ） ： https://support.ijcad.jp/hc/ja/